小橋工業(株)のホームページ（以下、弊社サイト）においては、カタログ・取扱説明書・パーツリスト等の電子データの閲覧、ダウンロードのサービス（以下、本サービス）をご提供しております。
本サービスをご利用の際には、以下の注意事項をご確認ください。

電子データの取扱いについて

電子データの内容について

■本サービスにおいては、弊社製品のカタログ、取扱説明書、パーツリスト等、製品に関する全ての印刷物を網羅するものではありません。

■カタログ、取扱説明書、パーツリストの内容は、製品の仕様変更などにより、予告なく変更される場合があります。その為、弊社サイト内に掲載される電子データの内容は、販売店等で配布、掲示されるカタログ、製品購入時に同梱する取扱説明書、印刷物として存在しているパーツリストの内容とは異なる場合がございます。

表記内容は、発行当時の情報であり、弊社純正部品の名称、小売単価、各営業所の名称、所在地などの情報が現在と異なる場合があります。
また、製品安全上の取り扱い、環境対応につきましては、製品販売時の法令、規制に適合するものであり、製品販売後の法令、規制の変更内容を反映していない場合があります。予めご了承ください。

著作権について

本サービス内の電子データにつきましては、弊社（小橋工業株式会社）が著作権その他知的財産権を保有します。
無断で他のウェブサイトや印刷媒体に転載することや複製、翻訳等はできません。
但し、お手持ちの製品ご使用の為、1部に限り印刷することができます。

保証について

弊社の製品保証、安全性の保証は製品付属の書面に基づく保証に限られており、弊社サイト内の電子データに基づく保証は提供いたしません。

お問合せについて

ご使用の製品の取り扱い及び、使用上の安全等に関するお問合せは、ご購入店にご相談頂きますよう、お願いいたします。

免責事項

弊社サイトのご利用に起因するソフトウェア、ハードウェア上の事故その他の損害等につきましても、一切の責任を負いません。
弊社サイトのご利用に際して生じたお客さまと第三者との間のトラブルにつきましては、一切責任を負いません。
弊社サイトのサービスは予告なく中止、または内容や条件を変更する場合がございます。

以上

小橋工業株式会社

コバシオフセットモアー

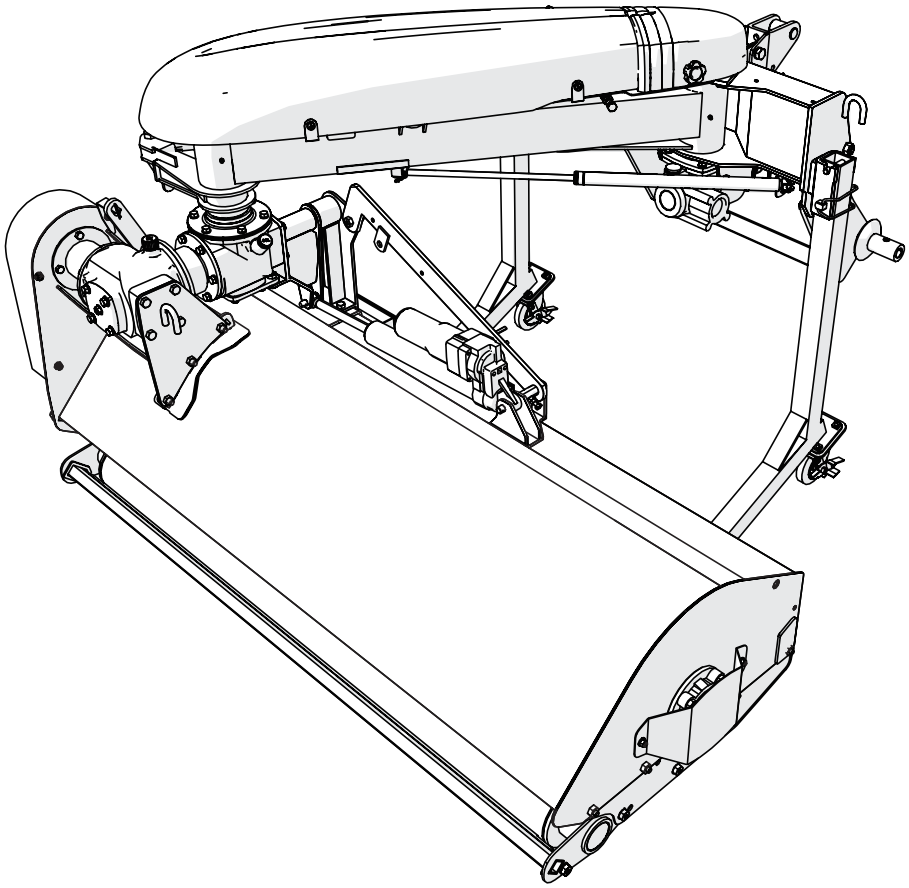
OMF-1 シリーズ 取扱説明書

お役立ちガイド

このたびは作業機をお買い上げいただき、ありがとうございました。

この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。

- 特に、「安全について」（→ p.4）は、必ずお読みいただき、安全にお使いください。
- お読みになった後も、必ず作業機の近くに保管し、いつでも読むことができるようにしてください。



KOBASHI

目　次

必ず読む▼

はじめに ▶p.2
詳細目次 ▶p.3
安全について ▶p.4

使いかた▼

各部の名称 ▶p.15
開梱・組付け ▶p.17
ジョイントの取付け準備 ▶p.18
トラクタへの装着（JIS 標準オートヒッチ S ヒッチ） ▶p.19
トラクタへの電源接続と配線 ▶p.31
コントローラについて ▶p.38
移動・圃場への出入り ▶p.44
作業のしかた ▶p.46
保守・点検 ▶p.53
消耗品一覧 ▶p.66
オプション一覧 ▶p.67
格納・運搬・保管 ▶p.68
電気配線図 ▶p.70

必要に応じて▼

主要諸元 ▶p.71
トラクタ別装着表 ▶p.72
クボタ W3P 用トラクタ装着表 ▶p.80
ヤンマークイック用トラクタ装着表 ▶p.82
フロントウエイト・サイドウエイト装着表 ▶p.83
異常診断一覧表 ▶p.85
廃棄について／用語解説 ▶p.88

2021.07
0142209
-000

はじめに

作業機を操作する前にこの取扱説明書をよく読み、正しい取扱方法を理解してください。この取扱説明書は、作業機の近くに保管して、操作手順に不安が生じたときにはいつでも読み返せるようにしてください。

使用目的・使用範囲

この作業機は農道、休耕田の草刈り、果樹園の下草刈り、荒地の雑草刈り用です。
適用トラクタはキャビン付きトラクタだけです。
使用目的や適用トラクタ以外の作業や作業機・部品の改造などは、決してしないでください。故障した場合は、保証の対象になりません。

取扱上の注意

- 当社は、以下のことを守らないで生じた損害または傷害に対しては一切責任を負うことができませんので厳守してください。
  - ・取扱説明書記載の指示事項を守ってください。
  - ・必ず適用トラクタで作業してください。
  - ・作業機・部品を改造しないでください。
  - ・操作・保守作業は、通常必要とされる注意をして作業してください。
- 危険性に関する警告は、作業機の本体に貼り付けた警告表示ラベル、およびこの取扱説明書に記載してあります。
- この取扱説明書には、知り得る限りの危険性を記載しています。この取扱説明書に記載した警告や指示を守ってください。
  また、これら以外にも事故防止対策に関して、十分な配慮が必要です。
- この取扱説明書は、日本語を母国語とする人を対象に作成されています。日本語を母国語としない人がこの作業機を取扱う場合は、必ずお使いになる方に安全指導を行ってください。

貸出時および譲渡時の注意

- 作業機を譲渡または貸与する場合は、この取扱説明書を十分理解してから作業するように指導してください。また、この取扱説明書を作業機に添付してお渡しください。
- この作業機は国内での使用を前提としています。したがって、海外諸国の規格への適応は保証できません。また、海外諸国では使用言語が違うため、国外への持ち出し・転売はしないでください。

取扱説明書について

- この取扱説明書は、作業機の組み立て、操作、および保守の方法を説明するものです。
- この取扱説明書の内容は作業機の改良のため、予告なく変更する場合があります。
- この作業機とこの取扱説明書の図とは異なることがあります。
  また、作業機内部の説明を容易にするため、図の一部を省略していることがあります。あらかじめご了承ください。
- この取扱説明書は著作権を当社が有します。当社の事前の文書による同意なしに、この取扱説明書の全体もしくは部分的にも複写、翻訳しないでください。また、読み取り可能な、どのような電子装置や機械にも転写しないでください。
- この取扱説明書を紛失または損傷された場合は、速やかにお買い求めの販売店にご注文ください。
- この取扱説明書に記載されている会社名および製品名は、各社の商標または登録商標です。
- さらに詳しい情報が必要となる場合や、ご質問などがある場合、または内容につき不明な点がありましたらお買い求めの販売店へお問い合わせください。

詳細目次

はじめに ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ **2**

詳細目次 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ **3**

安全について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ **4**

警告表示について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
安全に作業するために ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
道路走行時の注意 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
警告表示ラベルと機番プレート ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
サービスと保証 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14

各部の名称 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ **15**

本体 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
コントローラ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16

開梱・組付け ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ **17**

ジョイントの取付け準備 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ **18**

注意事項 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18
切断方法 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18

トラクタへの装着
（JIS 標準オートヒッチ S ヒッチ） ・・・・・・・ **19**

注意事項 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19
装着前の準備 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20
セーフティカバーの取付け ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22
トラクタへの装着 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・23
装着後のトラクタとの調整 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・26
トラクタからの取外し ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・28

トラクタへの電源接続と配線 ・・・・・・・・・・・ **31**

注意事項 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・31
作業時確認 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・32
事前準備 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・32
配線のポイント ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・32

コントローラについて ・・・・・・・・・・・・・・・・・ **38**

注意事項 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・38
コントローラの取付け ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・38
コントローラの取外し ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・40
コントローラの操作 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・42

移動・圃場への出入り ・・・・・・・・・・・・・・・・・ **44**

注意事項 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・44
移動・圃場への出入り ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・45

作業のしかた ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ **46**

注意事項 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・46
作業について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・47

保守・点検 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ **53**

注意事項 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・53
保守・点検の準備 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・53
保守・点検一覧表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・54
作業内容 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・55

消耗品一覧 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ **66**

オプション一覧 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ **67**

格納・運搬・保管 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ **68**

注意事項 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・68
保管・格納 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・68
作業手順 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・69

電気配線図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ **70**

主要諸元 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ **71**

トラクタ別装着表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ **72**

S ヒッチ（T-4S）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・72
S ヒッチ（T-4SD）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・75
標準 3P 直装（-1S）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・77

クボタ W3P 用トラクタ装着表 ・・・・・・・・・ **80**

クボタ／ New Holland W3P A フレーム（T-0S）・・・80

ヤンマークイック用トラクタ装着表 ・・・・ **82**

ヤンマークイック（T-0S）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・82

フロントウエイト・
サイドウエイト装着表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ **83**

異常診断一覧表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ **85**

廃棄について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ **88**

注意事項 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・88

用語解説 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ **88**

安全について

ここに示した注意事項は、作業機を安全に正しく使用していただき、使用者や他の方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

警告表示について

警告レベルの定義

誤った取扱いをすると、生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「危険」、「警告」、「注意」に区分して記載しています。

⚠危 険	誤った取扱いをしたときは、死亡、後遺症などの大きな被害の可能性が高いことを意味します。
⚠警 告	誤った取扱いをしたときは、死亡、後遺症などの大きな被害を負う恐れがあることを意味します。
⚠注 意	誤った取扱いをしたときは、軽度の傷害が発生する可能性があることを意味します。

その他の表示

上記以外の表示は、次のとおりです。

取扱上の注意	誤った取扱いをしたときは、作業機が故障する可能性があることを意味します。
お知らせ	作業機本来の能力が発揮できないこと、あるいは、特に知っておいていただきたいことを意味します。

絵表示

危険に対する注意・表示は次の 3 種類の記号を使って表しています。

	禁止（してはいけないこと）を示します。
	強制（すること）を示します。
	注意を示します。

安全に作業するために

全般

⚠危 険

禁止

キャビンのないトラクタには装着しないでください。

この作業機はキャビン付きトラクタ専用です。

＊ 事故・大ケガ・故障につながる恐れがあります。

禁止

使用目的以外の作業や作業機・部品の改造をしないでください。

＊ 事故・大ケガ・故障につながる恐れがあります。

必ず実行

取扱説明書はいつでも読むことができるように、作業機と一緒に大切に保管してください。

＊ 事故・大ケガ・故障につながる恐れがあります。

必ず実行

取扱説明書をよく読み、作業機・部品の使いかたを理解してから使用してください。

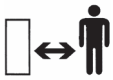
トラクタの『取扱説明書』も併せてよく読んでください。

＊ 事故・大ケガ・故障につながる恐れがあります。

必ず実行

操作、作動しているときは周りの人はもちろん、本人も作業機から離れ、かつ周囲との距離が十分ある状態で行ってください。

＊ 作業機に挟まれ、事故・大ケガ・故障につながる恐れがあります。



必ず実行

故障・異常に気付いたら、直ちに作業を中止し、修理してから使用してください。

＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

⚠警 告

禁止

適応トラクタ以外には装着しないでください。

主要諸元表を熟読の上、適応馬力内のトラクタに装着してください。

＊ 特にトラクタ馬力が小さい場合、トラクタとの重量バランスが悪くなり、事故・大ケガにつながる恐れがあります。

禁止

次のような状態では、運転しないでください。

- 飲酒運転
- いねむり運転
- 病気や薬物の作用で正常な運転ができないとき
- 若年者
- 妊娠中の方

作業機の操作に熟練し、必要な運転免許証を携帯し、心身ともに健康な状態で運転してください。

＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

必ず実行

作業機を他人に貸出す場合は、取扱説明書も添付し正しい取扱いを指導してください。

＊ 事故・大ケガ・故障につながる恐れがあります。

必ず実行

作業中の服装は、ヘルメット、丈夫な手袋、すべらない靴、キチンとした作業服を着用してください。

ボタンもキチンととめてください。

＊ 回転部分に巻込まれ、事故・大ケガにつながる恐れがあります。

⚠注 意

必ず実行

共同作業者がある場合は、動作ごとに合図を徹底してください。

＊ 作業機が急に動き、事故・ケガにつながる恐れがあります。

作業前点検

⚠注 意

必ず実行

各部のボルト、ナットなどの緩みや、ピンの脱落がないか確認してください。

＊ 事故・ケガ・故障につながる恐れがあります。

トラクタへの着脱

⚠警 告

必ず実行

トラクタと作業機の着脱の際は、いつでも逃げられる安全な態勢で操作し、トラクタは必ずブレーキで止めてください。

＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

必ず実行

作業機への着脱・調整は、平坦で十分な広さがあり地盤のしっかりした場所で行ってください。

特に夜間の作業機の着脱は、適切な照明を用いてください。

＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

必ず実行

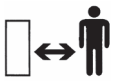
取付け各部のトメピンがすべて確実に装着されているか確認してください。

＊ 事故・大ケガ・故障につながる恐れがあります。

必ず実行

作業機の着脱は、基本的に１人で作業を行ってください。

＊ 作業機が急に動き、事故・大ケガにつながる恐れがあります。



注意

トラクタを移動して作業機を装着する場合は、トラクタと作業機の間に人が入らないように注意してください。

＊ 事故・ケガにつながる恐れがあります。

⚠注 意

必ず実行

2 人以上で着脱を行う場合は、お互いに合図を徹底してください。

＊ 作業機が急に動き、事故・ケガにつながる恐れがあります。

必ず実行

ジョイントのノックピンが確実に PTO 軸溝、または作業機入力軸溝にはまったか確認してください。

＊ ジョイントが抜け、事故・ケガにつながる恐れがあります。

カバーの取付け

⚠危 険

必ず実行

ジョイントなど、作業機のカバー類は必ず取付けてください。

＊ 巻込まれて、死亡事故・大ケガにつながる恐れがあります。

トラクタへの装着

⚠危 険

必ず実行

作業機とトラクタとの重量バランスを確認してください。

- トラクタの前輪に最低限 25 % 以上のウエイトがかかるように、フロントウエイトを取付けてください。
- 最大オフセット時にトラクタの左車輪に、最低限 40 % のウエイトがかかるようにサイドウエイト（オプション）を取付けてください、
  詳細は、お買い求めの販売店にお問い合わせください。
- 作業機に泥が付着して重くなる場合があるため、泥を取除いてください。

＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。
作業機を装着すると、重量バランスが変わります。

トラックへの積み・降ろし

⚠危 険

禁止

途中でクラッチを切ったり、変速を中立にしたりしないでください。

低速で積み・降ろししてください。

＊ 転倒などし事故・大ケガにつながる恐れがあります。

必ず実行

積み・降ろしの場所は、平坦で安全な場所で行ってください。

＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

必ず実行

アユミ板は、滑り止めの付いている丈夫なものを使用してください。

確実に固定し、傾斜角度、平行度を確認してください。

＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

必ず実行

積み・降ろしの際は、トラックが移動しないようしっかりとサイドブレーキをかけてください。

＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

必ず実行

積み・降ろしの際は、作業部を強度が十分あるロープで確実に固定してください。

＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

必ず実行

トラクタの左右のブレーキペダルを連結し、脱輪しないようにしてください。

＊ ブレーキが片効きをし、転倒などし事故・大ケガにつながる恐れがあります。

必ず実行

積み・降ろしの際は、作業部を格納位置（後方から見てオフセットは最左、傾斜は水平）にしてください。

＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

⚠危 険

注意

作業機を装着しての積み・降ろしは、泥の付着などがあるため注意してください。

トラクタの重量バランスが変わります。

＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

一般走行

⚠危 険

禁止

高速運転、急発進、急ブレーキ、急旋回をしないでください。

＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

必ず実行

周囲の人やものに注意して旋回してください。

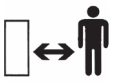
＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

⚠警 告

禁止

トラクタ・作業機には、運転者以外の人を乗せないでください。

＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。



必ず実行

走行するときは次のことを守ってください。

- 左右のブレーキペダルを連結すること
- 作業機の回転を止めること
- 作業機の落下速度調節レバーを締めて、必ず油圧ロックをすること

＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

⚠警 告

必ず実行

坂道での走行は次のことを守ってください。

- クラッチを切ったり、変速を中立にしたりしないこと
- スピードを落とし、低速で走行すること
- エンジンブレーキを使用し、急ブレーキをかけないこと

＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

必ず実行

移動時は、作業機を格納位置（オフセットは最左、傾斜は水平）にし、走行してください。

また、キャスタスタンドが付いている場合も必ず取外してください。

＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

注意

作業機は左右がトラクタの機体幅より広いため、走行時は注意してください。

＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

⚠注 意

注意

路肩に草が茂っている場所を走行するときは、路肩の強度に注意してください。

＊ 事故・ケガにつながる恐れがあります。

圃場への出入り

⚠警 告

必ず実行

圃場に入るときは、必ず前進で速度を下げて、うねや段差に対して直角に進んでください。

＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

必ず実行

圃場の出口が傾斜している場合は、バックして上がるか、または丈夫なアユミ板を使用してください。

＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

必ず実行

うねや段差に対しては、作業機を低くして重心を下げ、直角に進んでください。

＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

作業中

⚠危 険

必ず実行

いねむり運転、わき見運転をしないようにあらかじめ体調を整えてください。

＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

⚠警 告

禁止

作業機の下にもぐったり、足をふみこんだりしないでください。

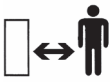
＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

禁止

作業中は、周りに人を近寄らせないでください。

- 特に子供には十分注意すること。
- 補助作業者がいる場合は、動作ごとに合図をかわすこと。

＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。



⚠警 告

禁止

回転部分など、動くところには触れないでください。

＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

禁止

シールドカバーのゴムカバーおよびフラップは、土礫が飛散するため取外さないでください。

＊ 土礫が飛散して、事故・大ケガにつながる恐れがあります。

必ず実行

次の作業をする場合は、必ずトラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO 変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止してください。

- 運転者が運転位置を離れて作業機を調整するとき
- 爪軸などへの草やワラのからみ付きを取除くとき

＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

必ず実行

次の作業をする場合は、必ずフレール軸が完全に停止したことを確認してください。

PTO 軸への動力切断後もフレール軸は回転します。

- 運転者が運転位置を離れて作業機を調整するとき
- 爪軸などへの草やワラのからみ付きを取除くとき

＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

必ず実行

次の場所を作業する場合は、トラクタの車速を低速にしてください。

- 畦際、土手際
- 木や障害物の近く

＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

⚠注 意

禁止

作業中は草やゴミを路上に落とさないでください。

＊ 道路交通法違反および事故につながる恐れがあります。

⚠注 意

禁止

旋回しながらの作業はしないでください。

＊ 転倒事故・作業機の故障につながる恐れがあります。

禁止

逆転 PTO で使用しないでください。

＊ 事故・作業機の故障につながる恐れがあります。

禁止

後進作業はしないでください。

＊ 事故・作業機の故障につながる恐れがあります。

必ず実行

オフセット・傾斜操作は、必ず作業機をトラクタに取付け、キャスタスタンドを取外した状態で行ってください。

＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

必ず実行

オフセット・傾斜操作はトラクタを停車させ、周囲に人がいないか障害物はないかを確認してから行ってください。

＊ 事故・ケガや作業機の損傷につながる恐れがあります。

必ず実行

移動時は、作業部を格納位置（オフセットは最左・傾斜は水平）にして、走行してください。

＊ 事故・ケガや作業機の損傷につながる恐れがあります。

作業中の点検

⚠警 告

必ず実行

作業機の点検を行うときは以下のことを確認してから作業してください。

- トラクタの駐車ブレーキをかけている
- PTO 変速レバーが中立になっている
- エンジンが停止している
- トラクタのキーを抜いている
- フレール軸の回転が停止している
- 油圧ロックを行っている

＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

必ず実行

点検のために外したカバー類は、必ず元どおりに取付けてください。

＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

⚠注 意

禁止

ラジエータやマフラには触れないでください。

＊ 火傷をする恐れがあります。

必ず実行

点検整備に必要な工具類は、適切な管理を行い、正しく使用してください。

＊ 整備不良で事故につながる恐れがあります。

トラクタ停車

⚠警 告

必ず実行

傾斜に止める場合は、タイヤに必ず車止めをしてください。

＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

⚠注 意

必ず実行

平らな場所に止め、作業機を降ろしてエンジンを止め、駐車ブレーキをかけてください。

＊ 事故・ケガにつながる恐れがあります。

その他

⚠警 告

必ず実行

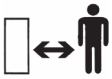
作業機指定の PTO 回転速度 540 rpm（1 速・正転）を守ってください。

＊ 作業機を高速回転、低速回転、または逆転で使用すると、作業機が異常作動し事故・大ケガ・故障につながる恐れがあります。

必ず実行

トラクタのエンジン始動時は、周りに人がいないか、作業機が下がっているか確認してください。

＊ 作業機が不意に下がり、事故・大ケガにつながる恐れがあります。



電動油圧シリンダの取扱い

⚠警 告

禁止

オフセットシリンダ・傾斜シリンダは取外さないでください。

＊ 作業機が転倒し、事故・大ケガにつながる恐れがあります。

禁止

分解および修理・改造・調整をしないでください。

＊ 油が吹き出したり、作業機が異常作動したりして、ケガにつながる恐れがあります。

禁止

火気・熱気の中に投じないでください。

＊ シリンダ内には可燃物である作動油が加圧されて入っているため、火災・爆発につながる恐れがあります。

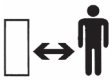
コントローラの取扱い

⚠注 意

必ず実行

コントローラ操作は、周囲に人がいないか安全を確認してから行ってください。

＊ 事故・ケガにつながる恐れがあります。



必ず実行

コントローラ操作は停車してから行ってください。

＊ 事故・ケガにつながる恐れがあります。

必ず実行

コントローラ操作は平坦で地盤がしっかりした場所で行ってください。

＊ 事故・ケガにつながる恐れがあります。

必ず実行

草刈り作業をしないときは、電源カプラ 3P（白）を必ず外してください。

＊ バッテリ上がりおよび誤作動する恐れがあります。

道路走行時の注意

運転免許について

特定小型特殊自動車（全幅 1.7m 以下、全高 2.0m 以下、全長 4.7m 以下、かつ最高速度 15km/h 以下のトラクタ）であっても、作業機を装着した場合に何れかの寸法を超えるときは、大型特殊自動車の運転免許（『農耕用に限る』を含む）を取得している必要があります。

作業機について

トラクタに作業機を装着して道路走行する場合は、道路運送車両法の保安基準を満たしていなければなりません。
トラクタと作業機の組合せで保安基準を満たす処置を行うことで道路走行できるようになります。
詳細内容については一般社団法人日本農業機械工業会ホームページに掲載の『作業機付きトラクタの公道走行ガイドブック』を参照してください。

※ 一般社団法人
日本農業機械工業会ホームページアドレス
http://www.jfmma.or.jp/

より詳しい情報を必要とする場合や、ご質問がある場合は、お買い求めの販売店へお問い合わせください。特に反射ラベルなどの法律で表示義務のあるものは道路走行する前に運行前点検を行い、汚損や破損していれば必ず表示内容が他の車両や歩行者から確認できるように処置してください。

トラックでの運搬

⚠危 険

必ず実行

作業機をトラックで運搬する際は折りたためる箇所は折りたたんでください。また、作業機が動かないように強度が十分あるロープで確実に固定してください。

＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

必ず実行

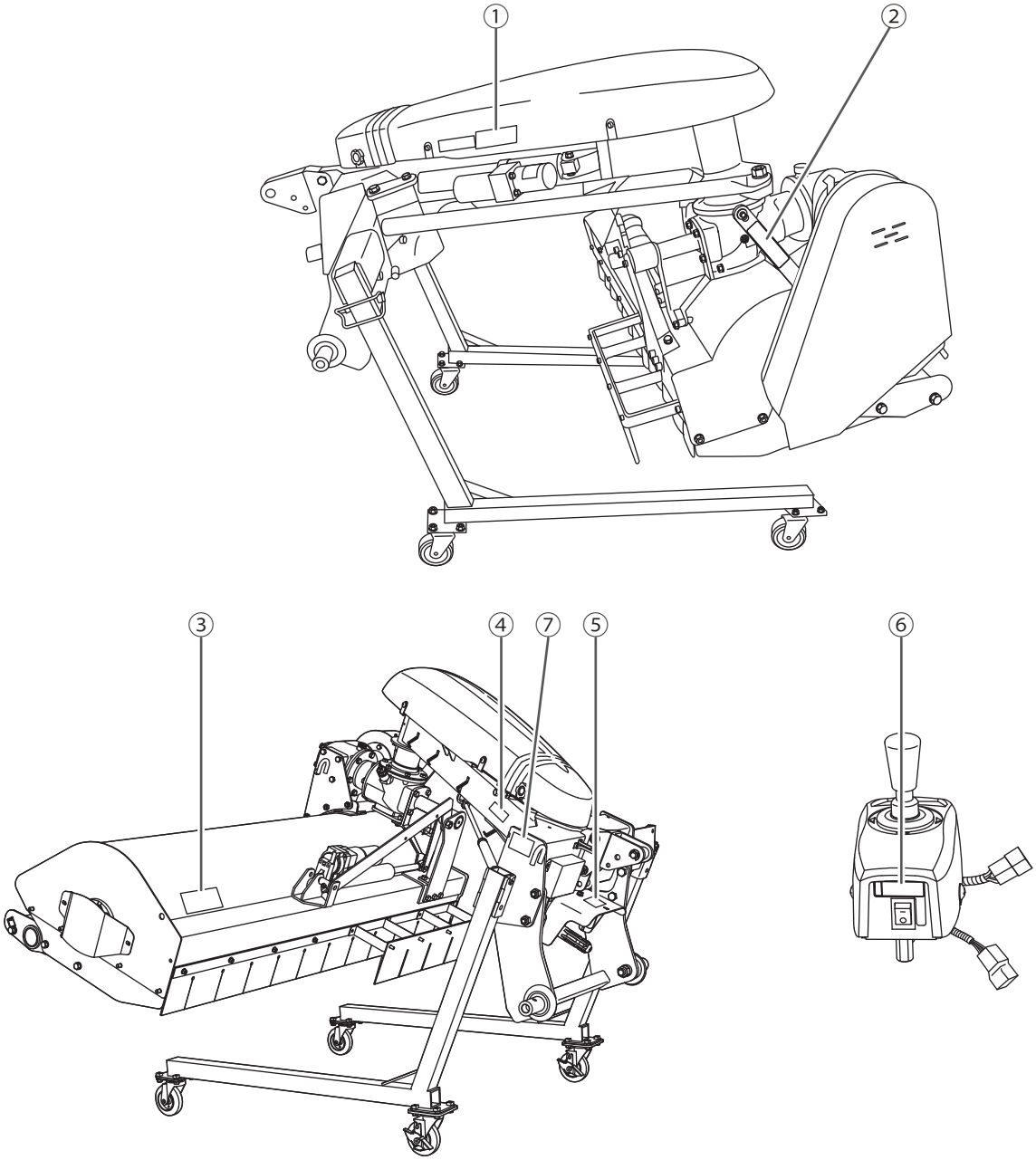
積み・降ろしの際、落下防止措置を行ってください。

＊ トラックのあおりを不用意に開けると作業機が滑り落ち、事故・大ケガにつながる恐れがあります。

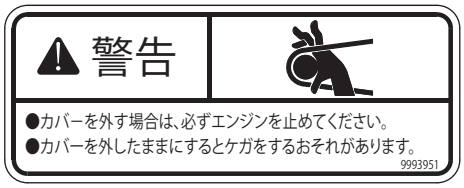
警告表示ラベルと機番プレート

この作業機には、警告表示ラベルを貼って注意喚起しています。よくお読みになって、理解した上で作業してください。また、機番プレートについてはアフターサービスのときに参照してください。（「サービスと保証」（→ p.14））

- いつも汚れや泥をとり警告表示ラベルがハッキリと見えるようにしてください。
- 警告表示ラベルが損傷や破損したときは、新しいものと交換してください。
- 警告表示ラベルを貼ってある部品を交換したときは、必ず新しい部品に、取外した部品と同じ場所に警告表示ラベルを貼ってください。



① コードNo. 9993951



② コードNo. 9994779

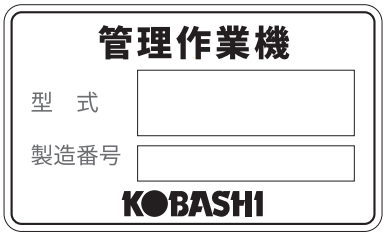
③ コードNo. 9994778

④ コードNo. 9994463

⑤ コードNo. 9992126

⑥ コードNo. 9994579

⑦ 機番プレート



サービスと保証

保証書

この作業機には保証書を添付しています。保証書はお客様が保証修理を受けられる際に必要となるものです。保証内容は保証書をご覧ください。お読みになった後は大切に保管してください。

アフターサービス

作業機の調子が悪いときに点検、処置してもなお不具合があるときは、下記の点を明確にして、お買い求めの販売店まで連絡してください。

- お客様名
- 作業機の型式と製造番号
  （「警告表示ラベルと機番プレート」（→ p.12））
- 使用状況（作業速度、回転速度はいくらで、どんな作業をしていたときに）
- どのくらい使用したか（約○○アール・約○○時間使用後）
- 不具合が発生したときの状況（できるだけ詳しく）

補修用部品の供給年限

この作業機の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打切り後 9 年といたします。

したがって、その後のご注文に対しては、在庫限りの供給とさせていただきます。

純正部品を使いましょう

補修用部品は、安心してご使用いただける純正部品をお買い求めください。

市販類似品をお使いになりますと、作業機の不調や作業機の寿命を短くする原因になります。

また、部品の改造はしないでください。

型式について

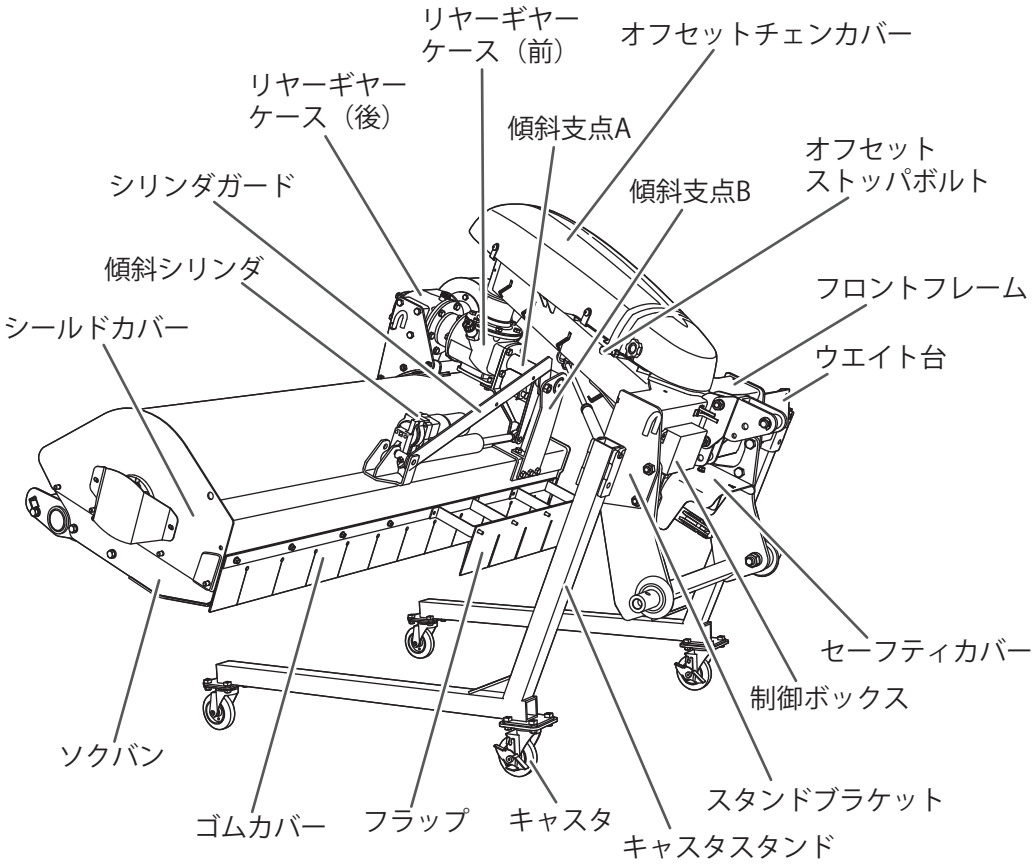
お買い上げいただいた作業機の型式名を保証書と機番プレートで確認し、該当箇所をお読みください。

各部の名称

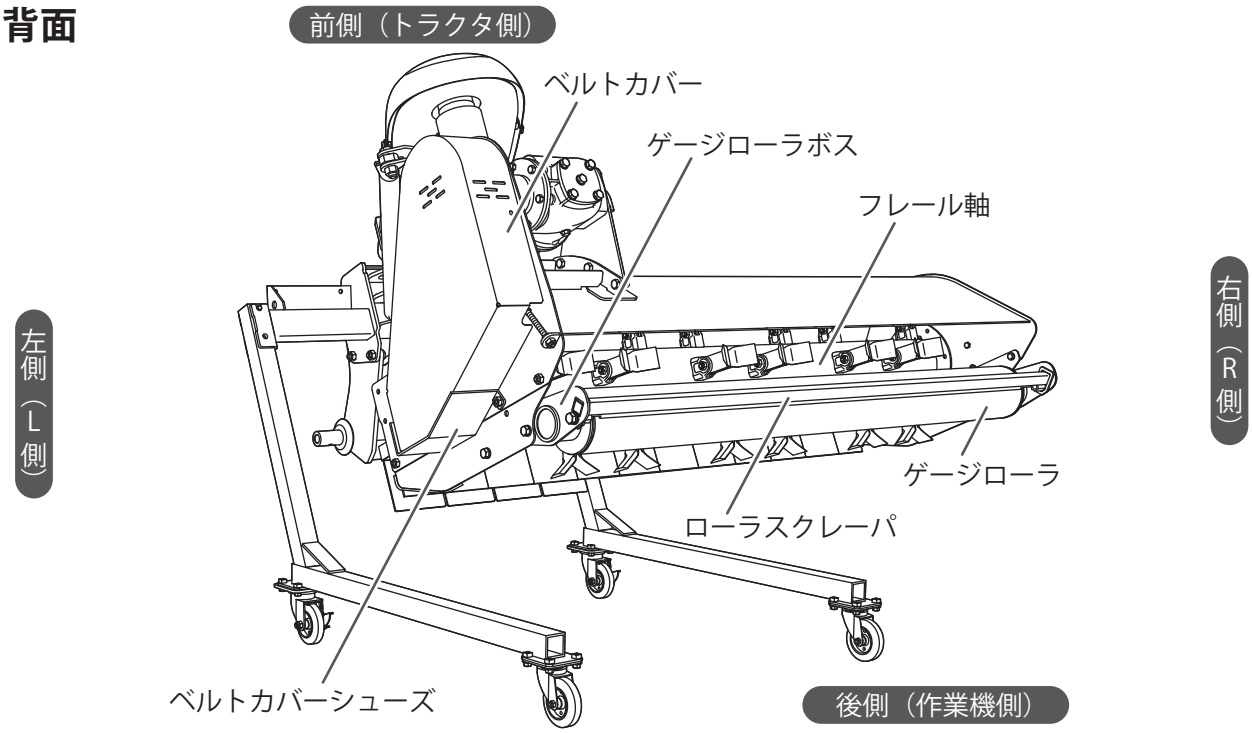
作業機本体の各部の名称と前後左右の定義、コントローラについて記載しています。

本体

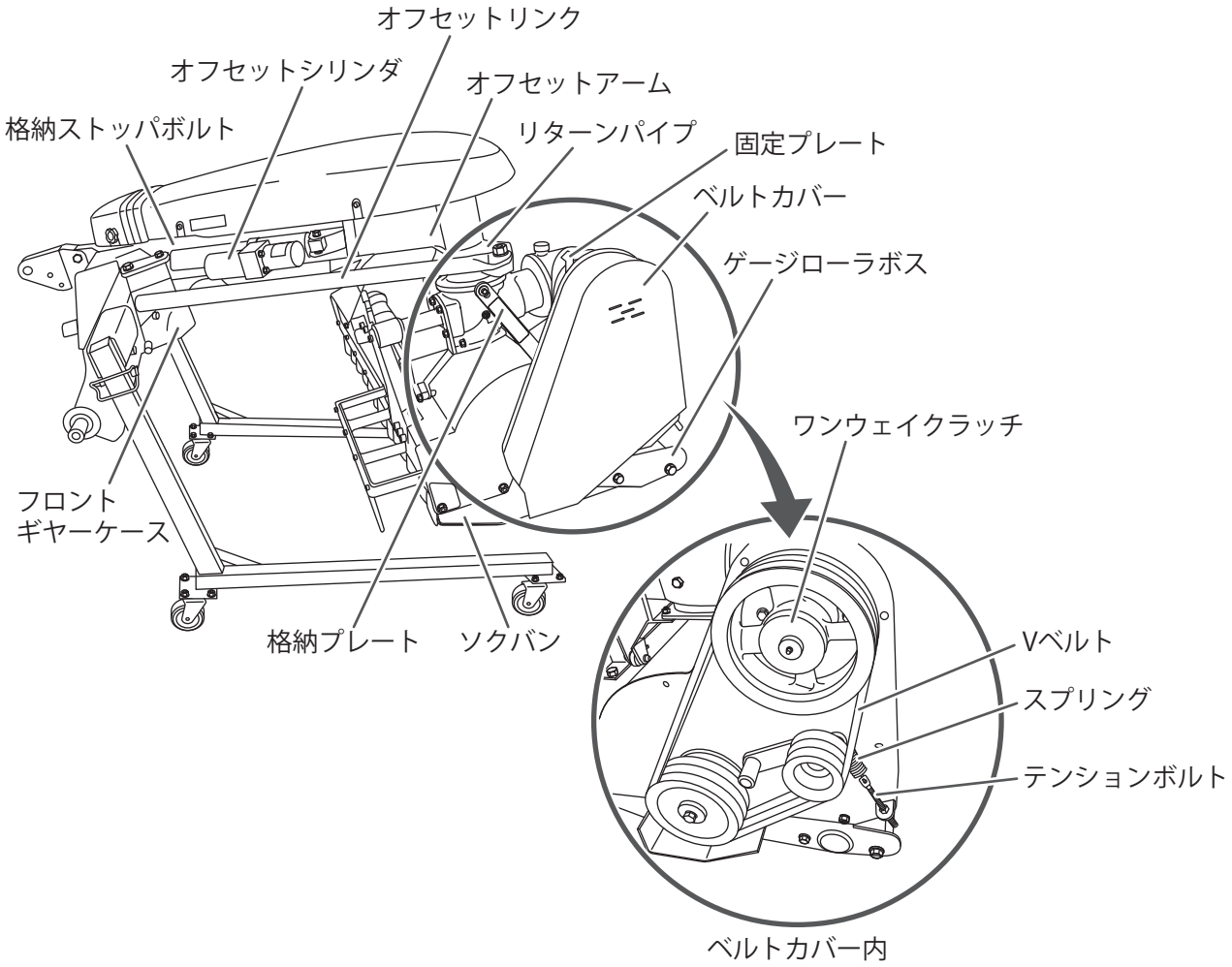
■前面（トラクタとの接続側）



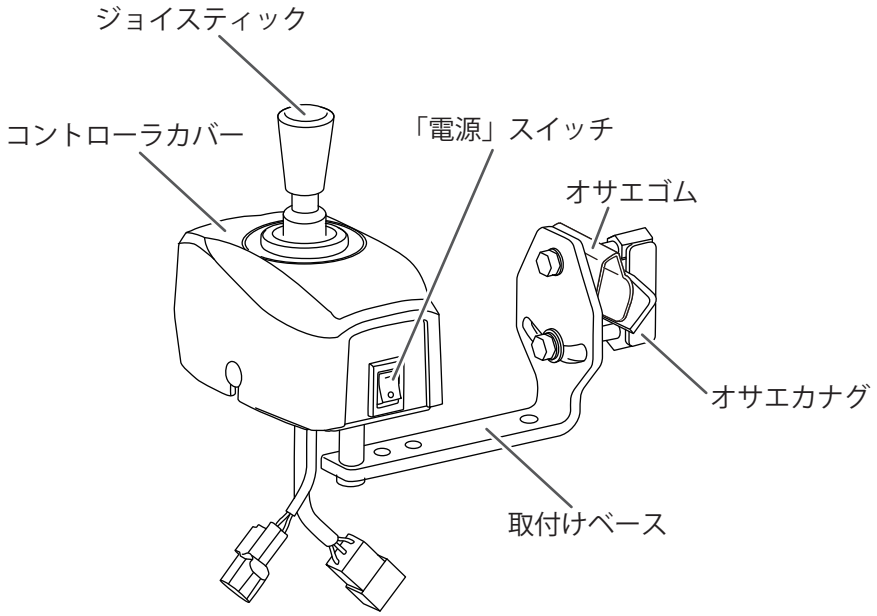
■背面



■側面


オフセットリンク
オフセットシリンダ
オフセットアーム
格納ストッパボルト
リターンパイプ
固定プレート
ベルトカバー
ゲージローラボス
ワンウェイクラッチ
フロント
ギヤーケース
格納プレート
ソクバン
Vベルト
スプリング
テンションボルト
ベルトカバー内

コントローラ


ジョイスティック
コントローラカバー
「電源」スイッチ
オサエゴム
オサエカナグ
取付けベース

開梱・組付け

作業機は鉄枠梱包されています。別冊の『開梱・組付け要領書』に従って開梱・組付けしてください。

ジョイントの取付け準備

トラクタによっては、標準のジョイントが長い場合があります。
以下の手順で、ジョイントの取付け準備を行ってください。

注意事項

取扱上の注意

- 長すぎるジョイントを装着すると、トラクタのPTO 軸と作業機の入力軸を突き、破損させます。
- 短すぎるジョイントを装着すると、ジョイントの噛み合わせが不足して、チューブが破損します。

切断方法

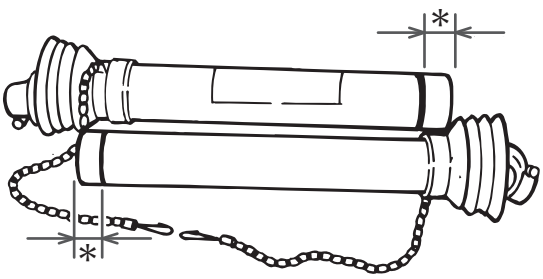
⚠注 意

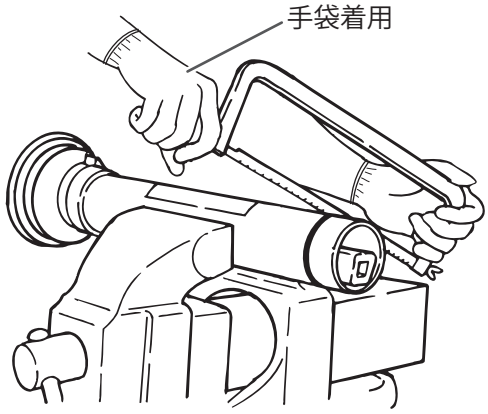
必ず実行	**高速カッタを使用する場合は、十分注意して作業してください。** ＊ ケガにつながる恐れがあります。
必ず実行	**高速カッタ、または金ノコを使用する場合は、手袋を着用してください。** ＊ ケガにつながる恐れがあります。
必ず実行	**ジョイント切断時にセーフティカバーを取外した場合は、ジョイントに取付けてください。** ＊ ケガにつながる恐れがあります。

取扱上の注意

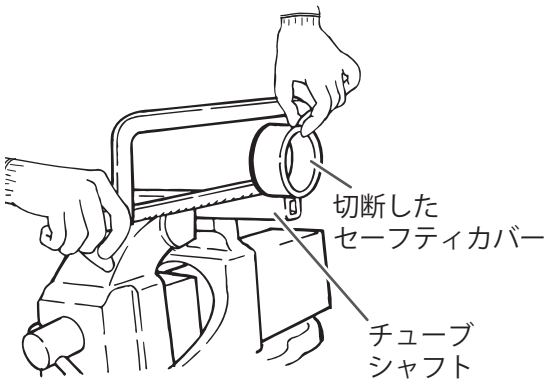
ジョイント切断寸法は、「トラクタ別装着表」（→ p.72）、「クボタ W3P 用トラクタ装着表」（→ p.80）、「ヤンマークイック用トラクタ装着表」（→ p.82）で確認してください。

1 金ノコまたはカッタで、セーフティカバーをオス、メス両方、長い分だけ切断（＊）します。

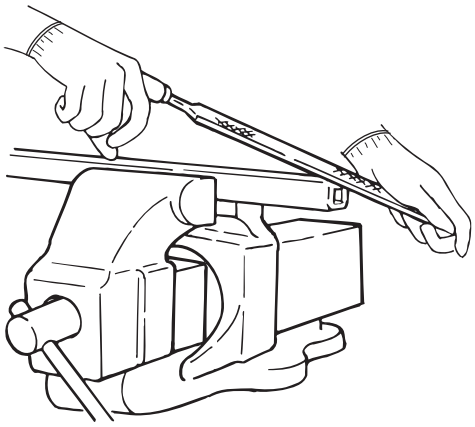




2 切りとったセーフティカバーと同じ長さで、チューブシャフトを金ノコ、またはカッタでオス、メス両方切断します。



3 切り口をヤスリでなめらかにして、切り粉を取除きます。



4 グリスを塗布して、オスとメスを組合せます。

トラクタへの装着（JIS 標準オートヒッチ S ヒッチ）

トラクタへの装着と取外しについて記載しています。

注意事項

⚠警 告

必ず実行

セーフティカバーを取付けた状態で使用してください。
＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

必ず実行

平坦で十分な広さがあり、地盤のしっかりした場所で行ってください。
＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

必ず実行

キャスタスタンドを着脱する際は、トラクタのエンジンを停止し、作業機を持ち上げ、油圧ロックし、落下防止をしてから行ってください。
＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

必ず実行

作業機の着脱は、基本的に 1 人で作業を行ってください。
＊ 作業機が急に動き、事故・大ケガにつながる恐れがあります。

注意

トラクタを移動して作業機を装着する場合は、トラクタと作業機の間に人が入らないように注意してください。
＊ 事故・ケガにつながる恐れがあります。

⚠注 意

禁止

キャスタスタンドは、圃場内での使用や圃場内への放置はしないでください。
＊ 泥の浸入により回動しにくくなることがあります。泥が浸入して回動しにくくなった場合は、よく洗浄してグリスを塗布してください。

必ず実行

2 人以上で着脱を行う場合は、お互いに合図を徹底してください。
＊ 作業機が急に動き、事故・ケガにつながる恐れがあります。

必ず実行

夜間の場合は適切な照明を用いてください。
＊ 事故・ケガにつながる恐れがあります。

⚠注 意

必ず実行

トラクタメーカーの純正ウエイトを取付けてください。
トラクタ型式および着脱方式によりフロントウエイトが必要になります。
＊ 事故・ケガにつながる恐れがあります。

必ず実行

キャスタスタンドで作業機を移動する際は、平坦な広い場所で、周囲に人がいないことを確認し、足元に注意して行ってください。
＊ ケガにつながる恐れがあります。

必ず実行

キャスタおよびキャスタスタンドが損傷した場合は、直ちに修理・交換を行ってください。
＊ 事故・ケガにつながる恐れがあります。

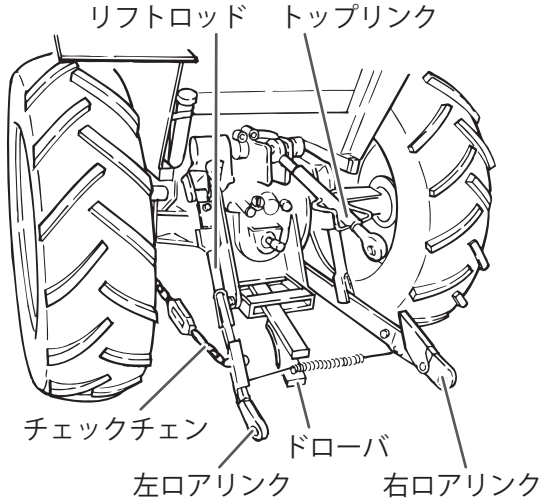
装着前の準備

トラクタの準備

本機の装着方法は、標準 3 点リンク式のヒッチです。

ドローバがジョイントに干渉する場合は、ドローバの位置を変えるか、取外してください。

取付け位置は、「トラクタ別装着表」（→ p.72）、「クボタ W3P 用トラクタ装着表」（→ p.80）、「ヤンマークイック用トラクタ装着表」（→ p.82）を参照の上、トップリンク長さやリフトロッド位置を確認し、取付けてください。



オートヒッチアームの取付け

⚠ 危 険

必ず実行

必ずトラクタの駐車ブレーキをかけてエンジンを停止し、PTO 軸への動力が切れていることを確認してから作業してください。

＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

⚠ 注 意

必ず実行

オートヒッチアームは、JIS 規格に準拠したものを使用してください。

類似規格のものは、使用しないでください。

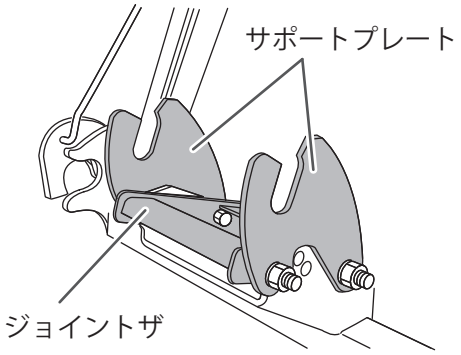
＊ 故障し、事故・ケガにつながる恐れがあります。

1 オートヒッチアームの状態を確認します。

(a) KHC ジョイントの場合

サポートプレートとジョイントザが確実に取付けてあることを確認します。

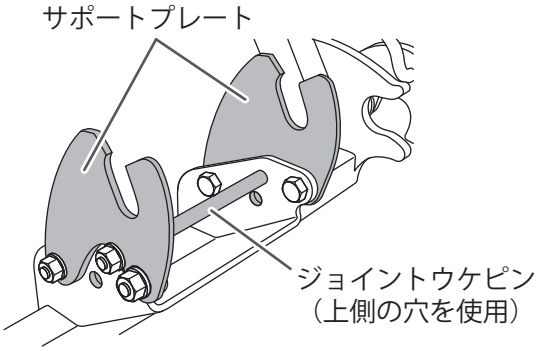
オートヒッチアームにジョイントウケピンがないことを確認してください。



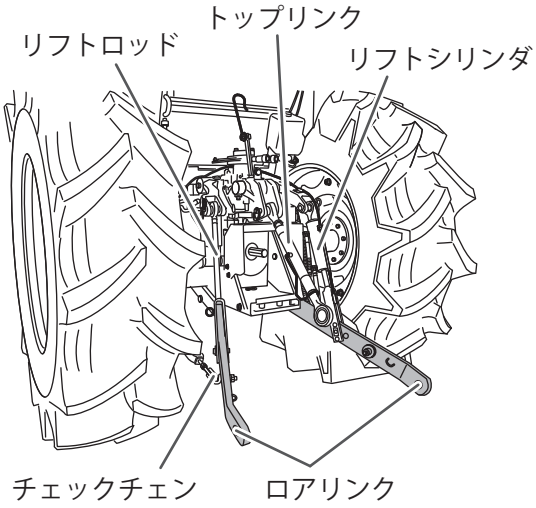
(b) TC ジョイントの場合

サポートプレートとジョイントウケピンが確実に取付けてあることを確認します。

オートヒッチアームにジョイントザがないことを確認してください。



2 トラクタのポジションコントロールレバーを下げ、ロアリンクをいっぱいまで下げます。



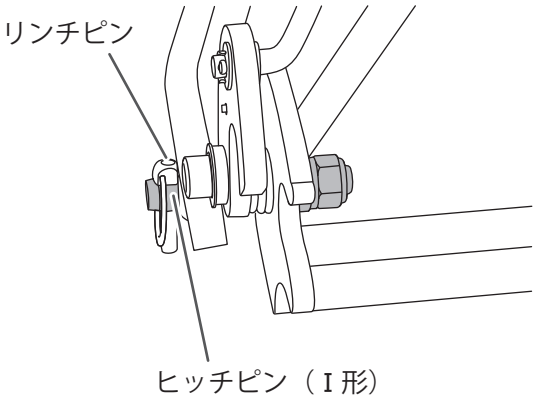
- 3 点リンクの取付け位置は、「トラクタ別装着表」（→ p.72）、「クボタ W3P 用トラクタ装着表」（→ p.80）、「ヤンマークイック用トラクタ装着表」（→ p.82）を参照の上、トップリンク長さやロアリンク、リフトロッドの穴位置を指定の位置に取付けてください。

取扱上の注意

- トップリンクは目安の長さです。作業時に再度水平を確認し調整を行ってください。

3 オートヒッチアームの左右ヒッチピン（Ｉ形）をトラクタのロアリンクに取付けます。

- 取付け後は、リンチピンで抜け止めをしてください。



4 オートヒッチアームとトップリンクを取付けます。

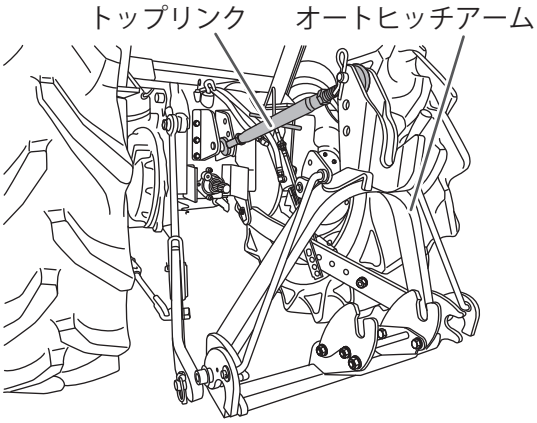
⚠注 意

必ず実行

取付け後は、各ピン部の抜け止めがされているか確認してください。

＊ 作業機が脱落し、事故・ケガにつながる恐れがあります。

- 取付け後は、リンチピン（または R ピン）で抜け止めをしてください。トップリンクとリンチピン（または R ピン）はトラクタ付属品を使用してください。



ジョイントの取付け

トラクタへ装着する前にジョイントを取付けてください。

⚠警 告

必ず実行

ジョイントを取付けるときは必ずトラクタのエンジンを止め、PTO 変速レバーがニュートラル（OFF）の位置になっていることを確認してください。

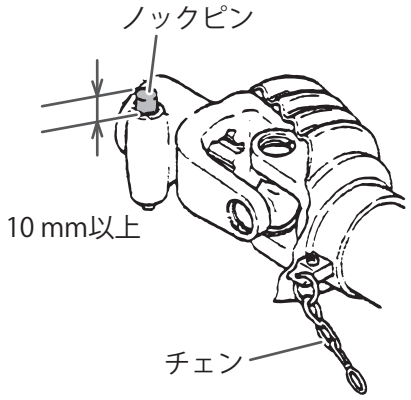
＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

1 ジョイントの広角側をトラクタの PTO 軸に取付けます。

(1) ジョイントのノックピンを押しながら軸に挿入し、軸の溝にノックピンをはめ込み、抜け止めをします。

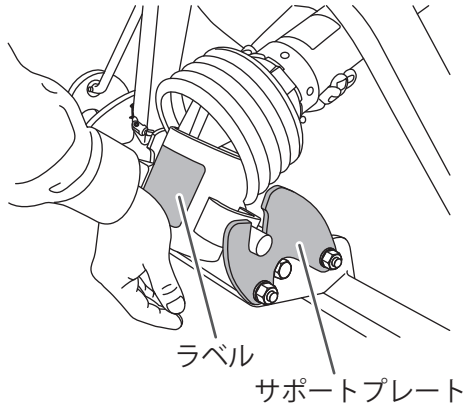
(2) トラクタ側と作業機側のノックピンの取付け状態を確認します。

- ノックピンが正確に軸溝にはまっているか。
- ピンの頭が **10 mm 以上**出ているか。



2 **ジョイントのラベル面を上にし、手でジョイントを折り曲げます。**

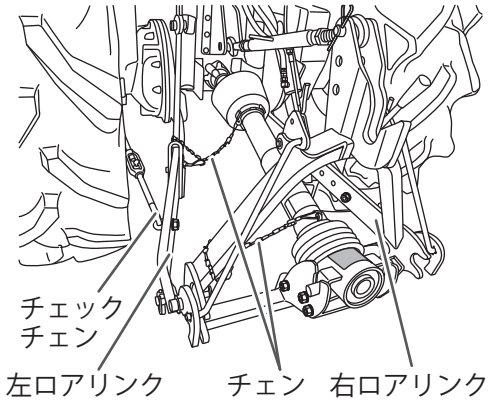
- 軸の細い部分からサポートプレートの長穴にセットします。



3 **ジョイントセーフティカバーのチェンを固定し、回り止めをします。**

取扱上の注意

- このとき作業機をいっぱい下げてもチェンが緊張しないように、たるみを持たせてください。



4 **チェックチェンを張って、オートヒッチアームをトラクタの中心部に合わせます。**

- ロアリンクの左右の高さも均等にしてください。

5 **各部のトメピンやトップリンクピンの抜け止めが確実にされていることを確認します。**

セーフティカバーの取付け

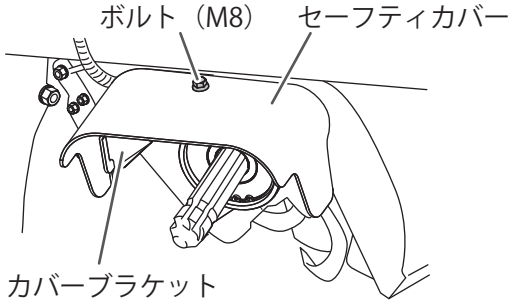
⚠危 険

必ず実行

セーフティカバーは必ず取付けてください。

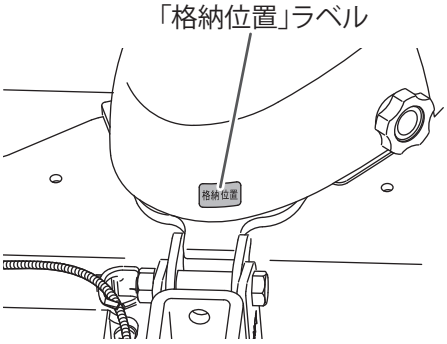
＊ 巻き込まれて、死亡事故・大ケガにつながる恐れがあります。

ボルト（M8）でセーフティカバーとカバーブラケットを固定してください。



トラクタへの装着

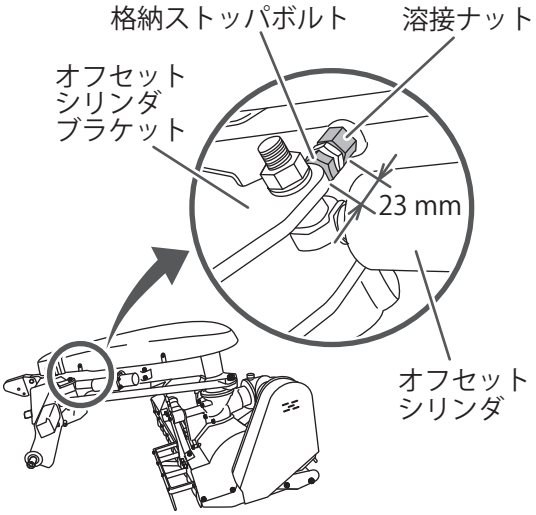
1 「格納位置」ラベルが下図の位置にあることを確認します。



取扱上の注意

- 「格納位置」ラベルが上図の位置にない場合は、安全に装着することができません。
  以下の手順で、格納ストッパボルトの長さを調整してください。

(1) 格納ストッパボルトから溶接ナットまでの長さが 23 mm になるように調整します。



⇒ オフセットシリンダブラケットに格納ストッパボルトが当たると「格納位置」となり、手順❶の図となります。

2 作業部が水平であることを確認します。

取扱上の注意

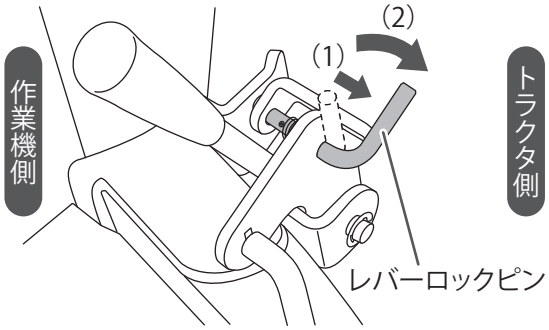
- 水平でない場合は、安全に装着することができません。補助具（ホイストなど）を使用し、作業機のバランスを保つよう調整してください。

3 オートヒッチアームのロックを解除します。

(1) レバーロックピンを引っ張ります。

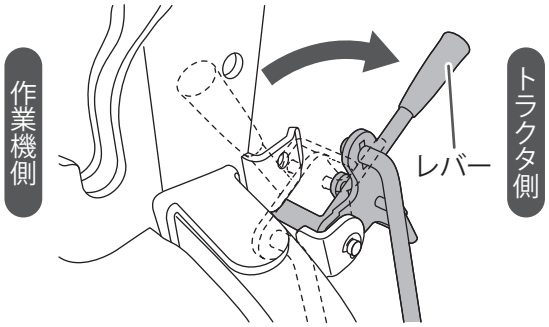
(2) レバーロックピンを解除方向へ回します。

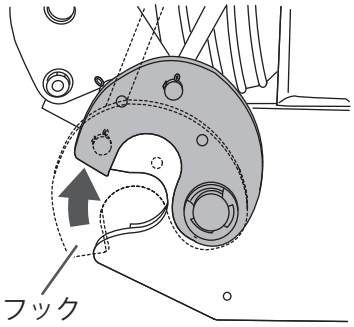
⇒ レバーのロックが解除されます。



(3) レバーをトラクタ側へ倒します。

⇒ オートヒッチフックのロックが解除され、フックが開きます。





⚠注 意

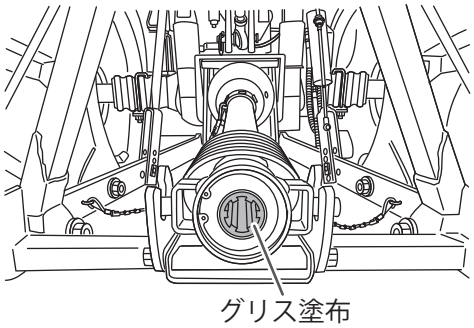
必ず実行

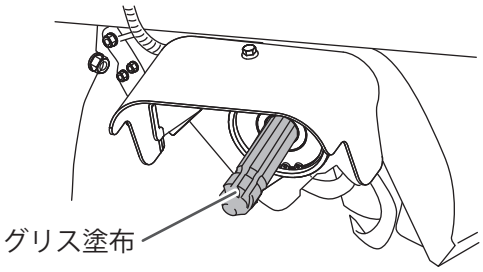
レバーを倒した状態で、作業機昇降装置を上下すると、レバーとトラクタが干渉する場合があります。干渉に注意して装着してください。

干渉する場合は、干渉しない位置まで下げてからレバーを操作してください。

＊ トラクタが破損し、事故・ケガにつながる恐れがあります。

4 作業機の入力軸とジョイントの結合部に十分にグリスを塗布します。





5 作業機をトラクタに装着します。

取扱上の注意

- 最初の装着時には、作業機をゆっくり上げながら、トラクタと作業機が干渉しないか確認してください。
  トラクタの背面ガラスを割らないように注意してください。
- トラクタによっては、スイッチひとつで自動で最上部まで上昇する機構がありますが、必ず手動で干渉の有無を確認してから使用してください。
  また、作業機が勢いよく上がるため、10 cm 以上の余裕を持って、上げ規制をしてください。
- ポジションコントロールレバーを徐々に上げて、ジョイントが一番縮んだ状態でもジョイントが突かないことを確認してください。
- トップリンクやロアリンクの取付け位置、およびリフトロッドやトップリンクの長さを変えた場合にも、干渉の有無を確認してください。
- 水平制御装置付トラクタの場合は、作業機を持ち上げた際、手動で左右に傾けてトラクタと作業機が干渉しないことを確認してください。（操作方法はトラクタの『取扱説明書』をご覧ください。）
- 移動時に急ブレーキをかけた場合、反動で作業機が上がりトラクタに接触することがあるので注意してください。
- キャビン付きトラクタのリヤーガラスを開けたまま作業機を上げたり、開閉操作を行ったりしないでください。
- 作業機を急激に落下させないでください。破損の原因になります。

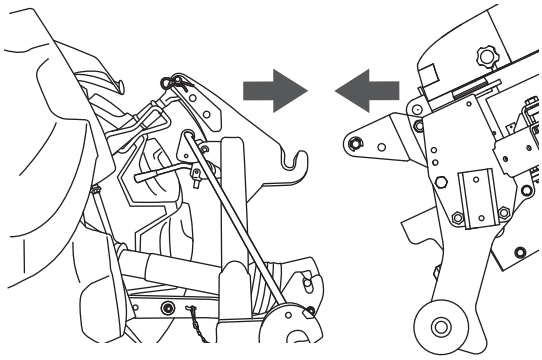
(1) トラクタの PTO の変速をニュートラルにします。

(2) オートヒッチアームを下げます。

(3) トラクタをゆっくりバックさせ、作業機に近づけます。
マストのピンの下側にオートヒッチアームのフックを合わせてください。

取扱上の注意

- トラクタと作業機がまっすぐになるようにしてください。



(4) ポジションコントロールレバーを「上げる」にし、フックに合わせて作業機をゆっくりとリフトアップします。

⇒ ジョイントのスプライン部は、自動的に接続されます。

取扱上の注意

- ジョイントが噛み合わなかったなどの場合、ポジションコントロールレバーを下げ、一度トラクタを前進させてからやり直してください。
また、トップリンクの長さが適切か確認してください。

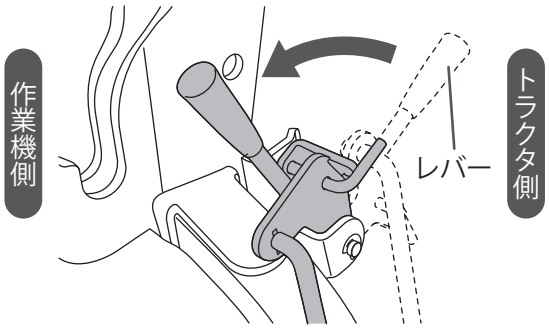
6 オートヒッチアームをロックします。

(1) 作業機のガイドカラーとオートヒッチアームが、しっかりと入っていることを確認します。

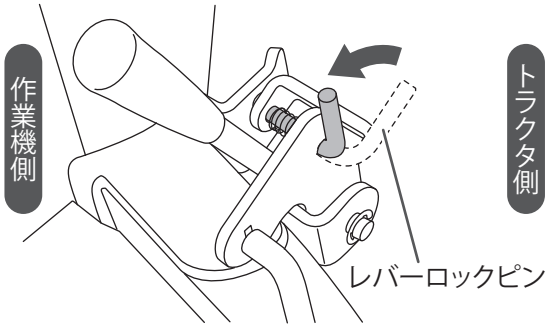
(2) 作業機の入力軸とジョイントのスプラインが、しっかりと入っていることを確認します。

(3) 確認できたらレバーを上に起こします。

⇒ 作業機とオートヒッチアームがロックされます。



(4) レバーロックピンをロック方向に回します。



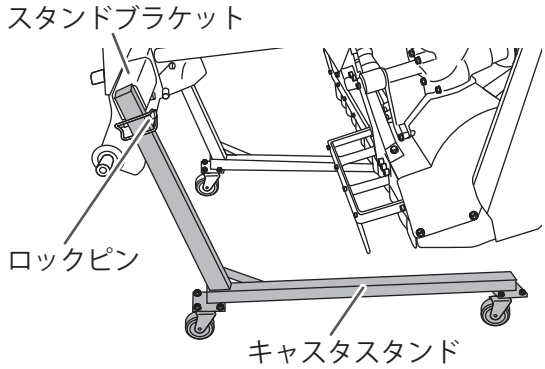
⇒ レバーロックピンとレバーがロックされます。

取扱上の注意

- レバーロックピンは作業中の不意な解除を防止するものです。
作業するときは、必ずロックしてください。

7 キャスタスタンドを取外します。

(1) 作業機両側のスタンドブラケットのロックピンを取外し、キャスタスタンドを取外します。



(2) 取外した後は、作業機をゆっくり上下させ、干渉などの確認をします。

装着後のトラクタとの調整

チェックチェンの調整

左右の横振れを確認し、必要に応じてチェックチェンを調整してください。

1 **作業機を持ち上げた状態で、作業機の入力軸とトラクタの PTO 軸を後方より見て直線上に合わせます。**

2 **左右の横振れが 10 mm 以内になっていることを確認します。**

- 10 mm を超える場合は、10 mm 以内になるように左右均等にチェックチェンを張ります。

リフトロッドの調整

左右の水平を確認し、必要に応じてリフトロッドを調整してください。

1 **作業機を持ち上げ、後方より見て左右が水平になるようにします。**

2 **トラクタの油圧水平スイッチを操作し、リフトロッドを調整します。**

- 油圧水平スイッチがない場合は、リフトロッドを回して調整します。

トップリンクの調整

トップリンクの長さは、「トラクタ別装着表」（→ p.72）、「クボタ W3P 用トラクタ装着表」（→ p.80）、「ヤンマークイック用トラクタ装着表」（→ p.82）を参照して調整します。後ほど作業中に微調整を行います。

⚠ 警 告

必ず実行

トップリンクの調整は、作業機を接地させてから行ってください。

＊ トップリンクが抜けて、作業機が落下し、事故・大ケガにつながる恐れがあります。

前後の傾きを確認し、必要に応じてトップリンクを調整してください。

ジョイントの確認

広角ジョイントの場合、ジョイント伸縮部と作業機の入力軸とが直線に近いほど異音が少なくなります。

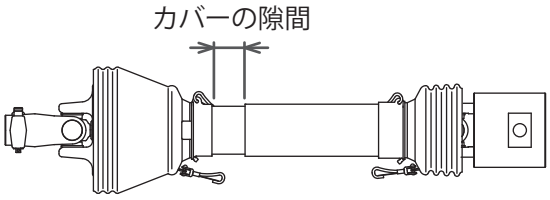
取扱上の注意

- トラクタによっては、作業機を最上位置に上げた状態で回転させると、異音が発生することがあります。
  ジョイントに負荷がかかり、損傷の原因になる恐れがあります。
  この場合、PTO を切るか、回転しても振動や音が出ない位置に作業機の最上位置を規制してください。

1 **ゆっくり作業機を上げます。**

2 **ジョイントが一番縮んだ状態で、軸を突かないことを確認します。**

3 **作業機を上下してカバーの隙間が下表の範囲であることを確認します。**



ヒッチの種類	ジョイントの種類	ジョイントの切断寸法（mm）	カバーの隙間（mm）
T-4SD	KHC79M	-	34 ～ 208
		30	34 ～ 178
		50	34 ～ 158
		70	34 ～ 138
T-4S	TC84M	-	44 ～ 347
	TC74M	-	44 ～ 247
	TC71M	-	44 ～ 211
-1S	TC74	-	44 ～ 261
	TC69	-	44 ～ 211

フロントウエイト・サイドウエイトの装着

トラクタ型式および装着方式によりフロントウエイトおよびサイドウエイトが必要になります。

⚠危 険

必ず実行

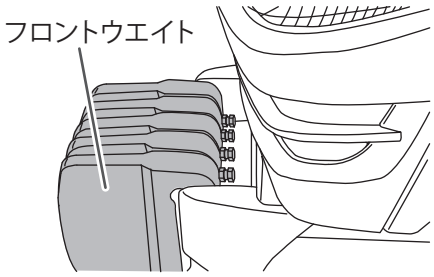
作業機とトラクタとの重量バランスを確認してください。

- トラクタの前輪に最低限 25 % 以上のウエイトがかかるように、フロントウエイトを取付けてください。
- 最大オフセット時にトラクタの左車輪に、最低限 40 % のウエイトがかかるようにサイドウエイト（オプション）を取付けてください、
  詳細は、お買い求めの販売店にお問い合わせください。
- 作業機に泥が付着して重くなる場合があるので、泥を取除いてください。

＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。作業機を装着すると、重量バランスが変わります。

■フロントウエイトの装着

「フロントウエイト・サイドウエイト装着表」（→ p.83）を参考にして装着してください。



■サイドウエイト（オプション）の装着

⚠警 告

必ず実行

フックを用いて吊り上げる場合は、サイドウエイトを取外してください。

＊ 作業機の落下による事故や大ケガ、作業機の損傷につながる恐れがあります。

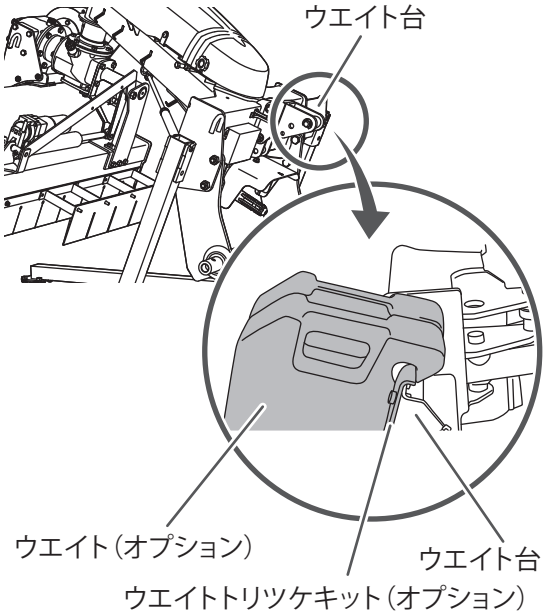
必ず実行

キャスタスタンドで作業機を移動する場合は、サイドウエイトを取外してください。

＊ 作業機が転倒し、事故やケガにつながる恐れがあります。

最大オフセット時にトラクタの左車輪に、最低限 40 % 以上のウエイトがかかるように、ウエイト台にオプションのサイドウエイトとウエイトトリツケキットを装着してください。

「フロントウエイト・サイドウエイト装着表」（→ p.83）を参考にして装着してください。



トラクタからの取外し

⚠警 告

必ず実行

作業機を取外す場合は、平坦で地盤のしっかりした場所で、取外しのためのスペースが十分にとれる場所で行ってください。

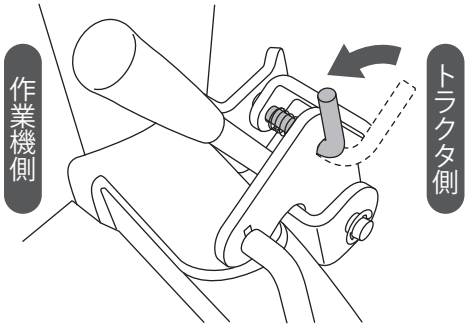
＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

⚠注 意

必ず実行

作業機を取外し、オートヒッチアームを作業機に取付けて格納する場合は、レバーロックピンを図のようにオートヒッチアームのロックプレートの穴に必ず挿入してください。

＊ オートヒッチアームが落下し、事故やケガにつながる恐れがあります。



必ず実行

作業機を取外し、格納する場合は、以下の作業を行い、作業部の落下を防止してください。

- 作業部を格納位置（オフセットは最左・傾斜は水平）にする。
- 格納プレートを作業位置から、リターンパイプに R ピンで固定し、作業部を格納状態にする。

＊ 事故やケガ、作業機の損傷につながる恐れがあります。

必ず実行

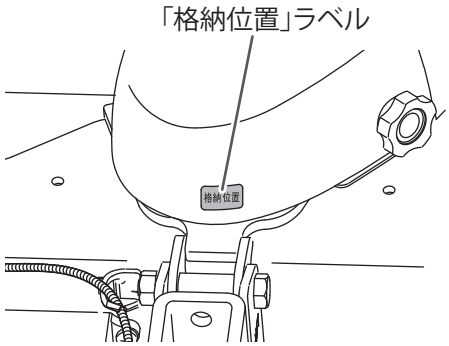
レバーを倒した状態で、作業機昇降装置を上下すると、レバーとトラクタが干渉する場合があります。干渉に注意して装着してください。

干渉する場合は、干渉しない位置まで下げてからレバーを操作してください。

＊ トラクタが破損し、事故・ケガにつながる恐れがあります。

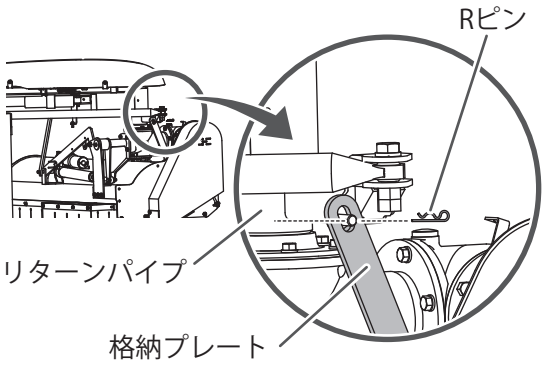
1 コントローラを操作し、作業部を格納位置（オフセットは最左・傾斜は水平）にします。

- コントローラの操作方法については、「■ジョイスティック操作と動作」（→ p.43）を参照してください。

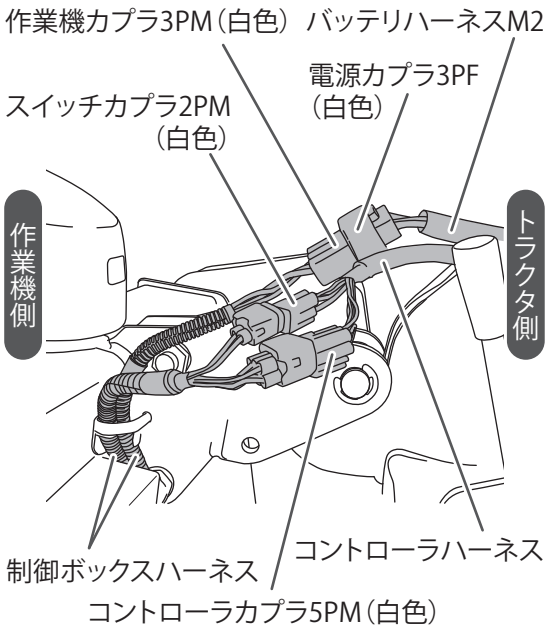


2 格納プレートを格納位置に動かし、リターンパイプに R ピンで固定します。

- 格納プレートの取付けは、傾斜シリンダの長さで調整してください。



3 制御ボックスハーネスの作業機カプラ 3PM（白色）と、バッテリハーネス M2 の電源カプラ 3PF（白色）のロック部を押えながら引抜きます。

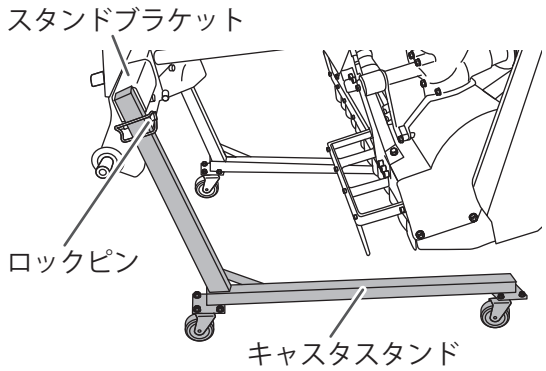


4 コントローラハーネスのスイッチカプラ 2PM（白色）とコントローラカプラ 5PM（白色）のロック部を指先で引上げながら、制御ボックスハーネスのカプラを引抜きます。

5 キャスタスタンドを取付けます。

(1) 作業機を持ち上げます。

(2) キャスタスタンドを作業機両側のスタンドブラケットに取付け、ロックピンで固定します。

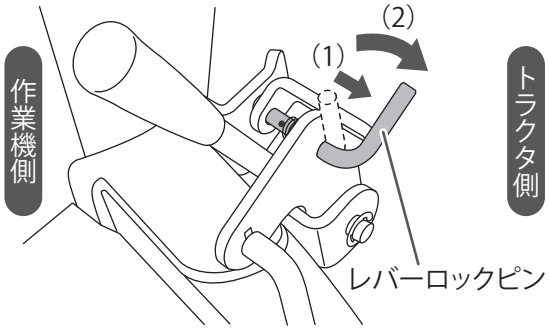


6 オートヒッチアームのロックを解除します。

(1) レバーロックピンを引っ張ります。

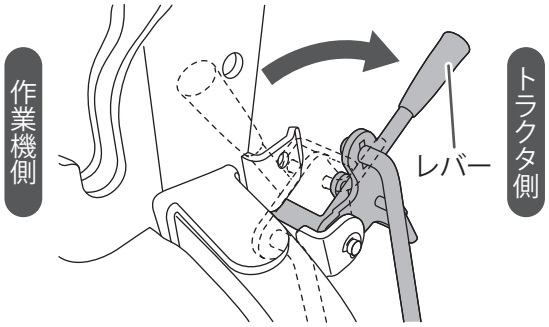
(2) レバーロックピンを解除方向へ回します。

⇒ レバーのロックが解除されます。



(3) レバーをトラクタ側へ倒します。

⇒ オートヒッチフックのロックが解除され、フックが開きます。



7 作業機を下げます。

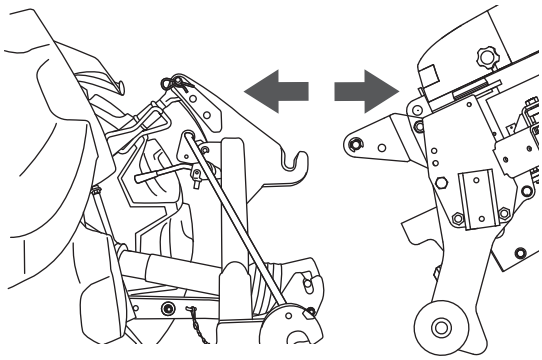
(1) トラクタの PTO の変速をニュートラルにします。

(2) ポジションコントロールレバーを「下げる」にします。

(3) 作業機を下げ、トラクタをゆっくり前進させます。

- 外れない場合は、場所が平坦でないかトラクタがまっすぐ前進していないなどの原因があります。再度動作をやり直してください。

⇒ 作業機が外れます。

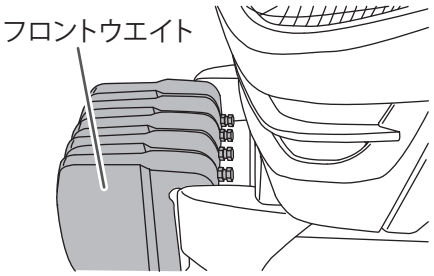


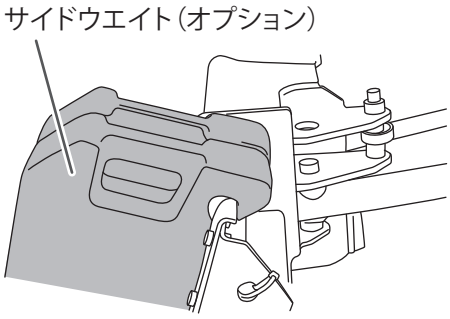
フロントウエイト・サイドウエイトの取外し

作業前に取付けたフロントウエイトとサイドウエイト（オプション）を取外します。

⚠ 警 告

必ず実行	**フックを用いて吊り上げる場合は、サイドウエイトを取外してください。** ＊ 作業機の落下による事故や大ケガ、作業機の損傷につながる恐れがあります。
必ず実行	**キャスタスタンドで作業機を移動する場合は、サイドウエイトを取外してください。** ＊ 作業機が転倒し、事故やケガにつながる恐れがあります。





トラクタへの電源接続と配線

トラクタへの電源接続と配線について記載しています。

注意事項

⚠警 告

必ず実行

バッテリハーネスのスローブローヒューズが切れた場合は、必ず純正部品に交換してください。

＊ ショートして火災になる恐れがあります。

注意

バッテリハーネスをバッテリに接続するときは、（＋）（－）に注意してください。

＊ 逆に接続すると、ショートして火災になる恐れがあります。

⚠注 意

禁止

バッテリハーネスが損傷している場合は、絶対に使用しないでください。

＊ ショートして火災になる恐れがあります。

禁止

6V、24V などのバッテリには絶対に接続しないでください。

接続できるバッテリ電圧は 12V です。

＊ 制御ボックスなどを破損し、ショートする恐れがあります。

禁止

ぬれた手でバッテリや接続部に触れないでください。

＊ 感電する恐れがあります。

必ず実行

バッテリ（＋）端子への取付けおよび取外し作業は、アース側の（－）側ケーブルがターミナルから取外されていることを確認した上で、行ってください。

＊ 工具などがトラクタのボデーに当たった場合にショートする恐れがあります。

必ず実行

バッテリハーネスの取付けおよび取外し手順は、必ず取扱説明書どおりに行ってください。

＊ 工具などがトラクタのボデーに当たった場合にショートする恐れがあります。

必ず実行

作業終了時は電源カプラ 3P（白色）を必ず外してください。

＊ バッテリ上がりおよび誤作動する恐れがあります。

⚠注 意

必ず実行

他のトラクタのバッテリや充電器を接続してエンジンをかける場合、必ず制御ボックスの電源カプラ 3P（白色）を取外してください。

＊ 過電流がかかり故障の原因となる恐れがあります。

必ず実行

トラクタのバッテリを充電する場合、必ず制御ボックスの電源カプラ 3P（白色）を取外してください。

＊ 過電流がかかり故障の原因となる恐れがあります。

必ず実行

長期間使用しない場合は、必ずトラクタのバッテリからバッテリハーネスを取外して保管してください。

＊ バッテリハーネスを損傷し、ショートする恐れがあります。

作業の前にお読みください。

- バッテリハーネスはトラクタバッテリに直接接続して、途中のカプラをトラクタの外部電源取出しに接続してください。
- トラクタのキースイッチを ON/OFF することで、制御ボックスの電源を入り切りすることができます。
- キースイッチと外部電源取出しが連動していないトラクタがあります。この場合、作業終了後は必ず電源カプラ 3P を抜いてください。トラクタのキースイッチを OFF にしても制御ボックスの電源は切れません。（トラクタの『取扱説明書』を参照してください）
- スローブローヒューズについては、「スローブローヒューズ」（→ p.62）を参照してください。

作業時確認

以下の内容を確認しながら作業を行ってください。

- トラクタのエンジンキー ON/OFF
- バッテリの＋／－は間違えていないか
- バッテリは上がっていないか
- スタータは軽く回るか
- 各カプラが確実にはまっているか
- カプラ内部の端子が抜けかけていないか
- ヒューズが切れていないか
- バッテリ端子部の接触不良はないか
  （接触不良の場合は磨いてください。）
- ハーネスを座席やヒッチ部に挟み込んで断線していないか

事前準備

- 外部電源取出しの有無を確認してください。
  （「トラクタへの電源接続と配線」（→ p.33））
- バッテリハーネス M2 で作業機側の電源ハーネスまで届かない場合は、エンチョウハーネス M を使用してください。

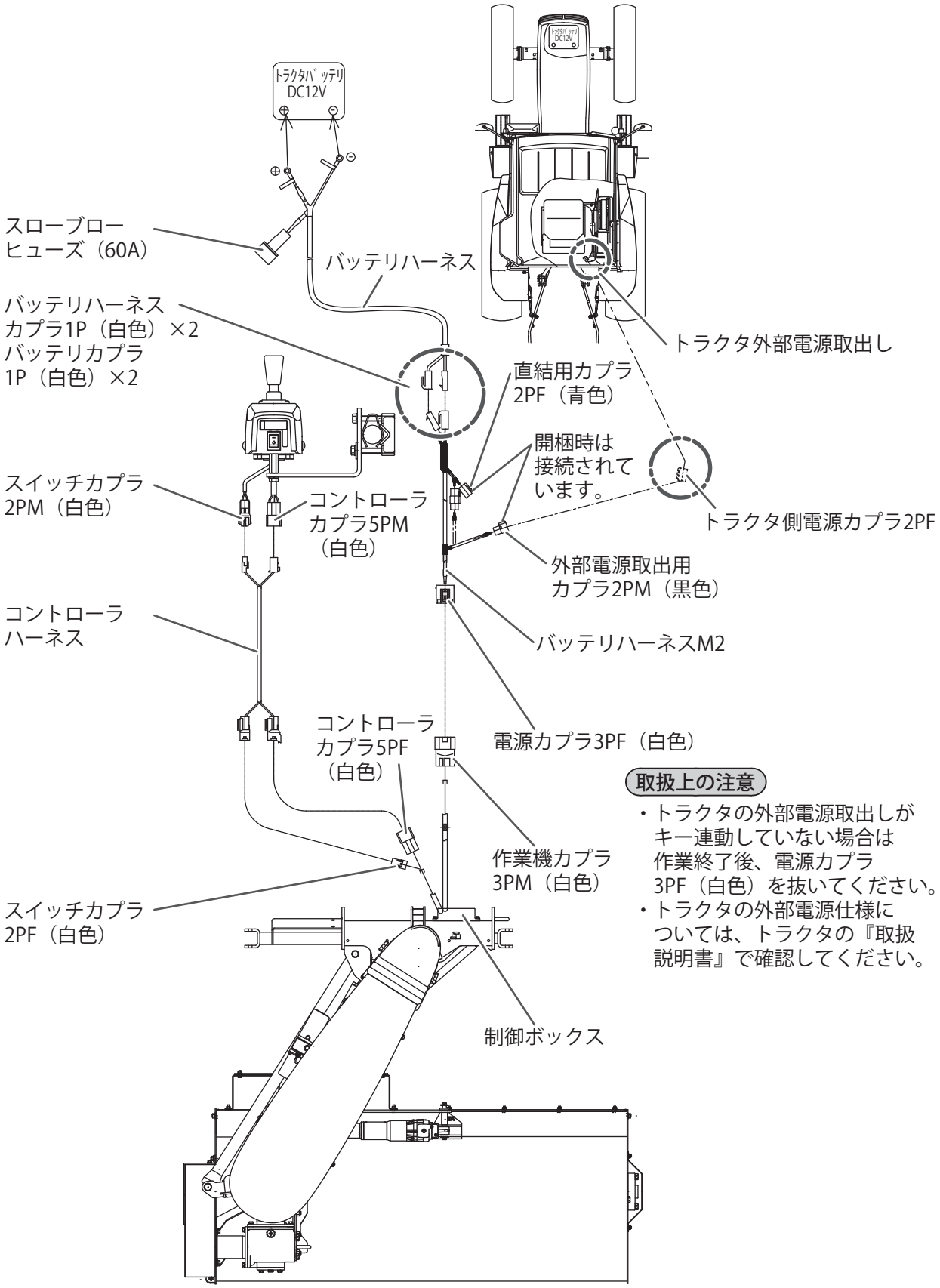
部品名	部品コード	個数
エンチョウハーネス M（オプション）	4910588	1 個

配線のポイント

- トラクタの外部電源取出しカプラを、必ず「トラクタへの電源接続と配線」（→ p.33）のように接続してください。
- バッテリハーネスは確実に取付けてください。
- バッテリ電圧を確認してください。
  トラクタのスタータを回せても、電動油圧シリンダが動かせない場合があります。
  電気が足りなくなると、制御ボックスのコンピューターがダウンします。

トラクタへの電源接続と配線

各カプラは確実に取付けてください。確実に取付けてあるようでも端子の酸化皮膜で電気が流れにくいことがあります。作動しない、作動が正常でないときは端子を磨いてください。

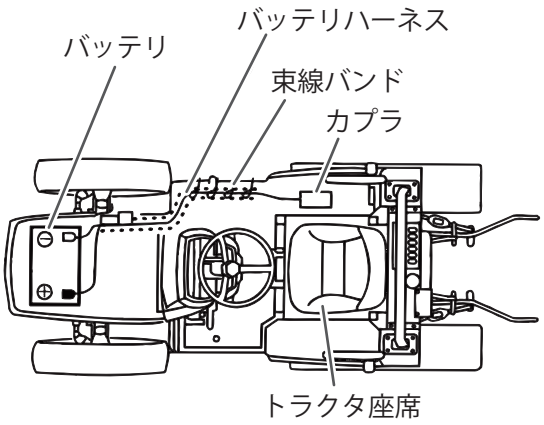


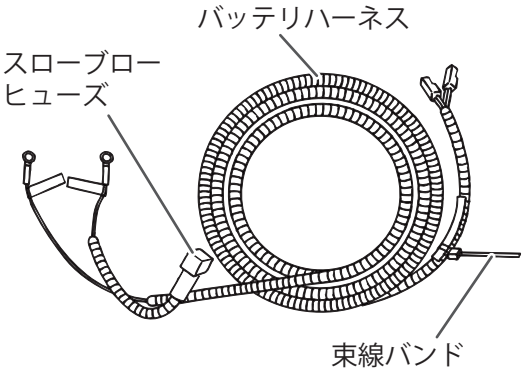
取扱上の注意

- トラクタの外部電源取出しがキー連動していない場合は作業終了後、電源カプラ3PF（白色）を抜いてください。
- トラクタの外部電源仕様については、トラクタの『取扱説明書』で確認してください。

バッテリへの取付け・取外し

■バッテリへの取付け





1 トラクタのエンジンを止め、電源を切ってからエンジンキーを抜きます。

2 バッテリに取付けられているアース側の（−）ケーブルをターミナルから取外します。

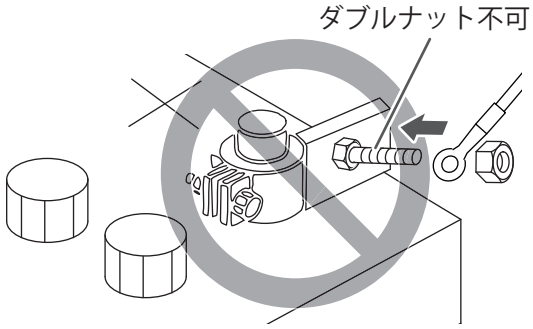
3 バッテリの（＋）側のターミナルのネジ部にバッテリハーネスの（＋）側（赤色）丸端子を取付けます。

- 確実に締まっていることを確認してください。

4 バッテリの（−）側ターミナルにアース側の（−）ケーブルを取付けます。

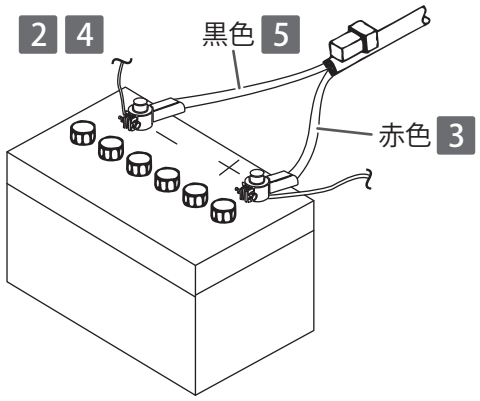
取扱上の注意

- ケーブルは、直接ターミナルに取付けてください。ナットの上からダブルナットで取付けると、電気が流れにくくなります。
  テスターで 12V 出ていても、電流が足りないことがあります。



5 バッテリの（−）側ターミナルのネジ部にバッテリハーネスの（−）側（黒色）丸端子を取付けます。

- 確実に締まっていることを確認してください。



取扱上の注意

- 丸端子取付け部のサビ・汚れの除去を行ってください。接触不良となり、作業機が正常に作動しない恐れがあります。

6 ハーネスがたるまないように付属の束線バンドでトラクタに固定します。

- ハーネスの引っ張り、折り曲げ、挟まりなどがないか確認してください。

⚠注 意

必ず実行

バッテリハーネスを固定するには、以下のことを守ってください。

- トラクタの高温部箇所（マフラなど）には、取付けない。
- 回転物（ファンベルト、冷却ファンなど）や可動するものに接触しない。
- バッテリハーネスが鋭利なものに接触したり、カバー、座席、キャビンのドアなどに挟み込まれたりしない。
- トラクタフレームの下側にバッテリハーネスが垂れ下がった状態にしない。
- 油圧配管にバッテリハーネスを固定しない。
- トラクタ可動部にバッテリハーネスを固定しない。
- 運転席の足元でバッテリハーネスがたるまない。

＊ 守らないと、バッテリハーネスが破損し、ショートする恐れがあります。

■バッテリからの取外し

⚠注 意

必ず実行

カプラを取外す場合は、ロック用の爪部分を押えながら取外してください。

このとき、絶対に配線を引っ張って取外さないでください。

＊ カプラが破損し、端子が剥き出しになりショートする恐れがあります。

取扱上の注意

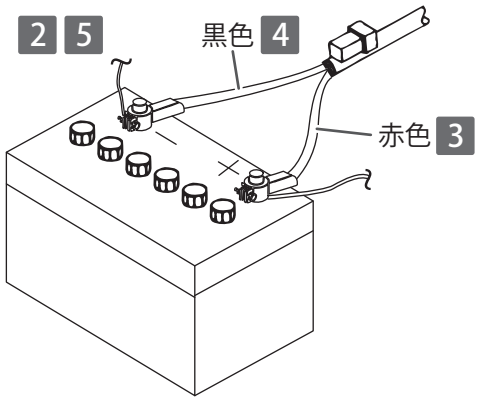
- 制御ボックスへの配線を必ず外してから行ってください。誤作動、故障の原因になります。

1 トラクタのエンジンを止め、電源を切ってからエンジンキーを抜きます。

2 バッテリに取付けられているアース側の（−）ケーブルをターミナルから取外します。

3 バッテリハーネスの（＋）側（赤色）丸端子をバッテリの（＋）側ケーブルから取外します。

- ネジは元どおりに確実に締付けてください。



4 バッテリハーネスの（−）側（黒色）丸端子をバッテリの（−）側ケーブルから取外します。

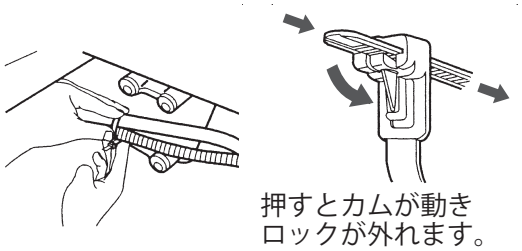
5 アース側の（−）ケーブルをバッテリの（−）側ターミナルに取付けます。

- ネジが確実に締まっていることを確認してください。

6 束線バンドを取外してから、バッテリハーネスを取外します。

取扱上の注意

- ハサミなどで切らないでください。

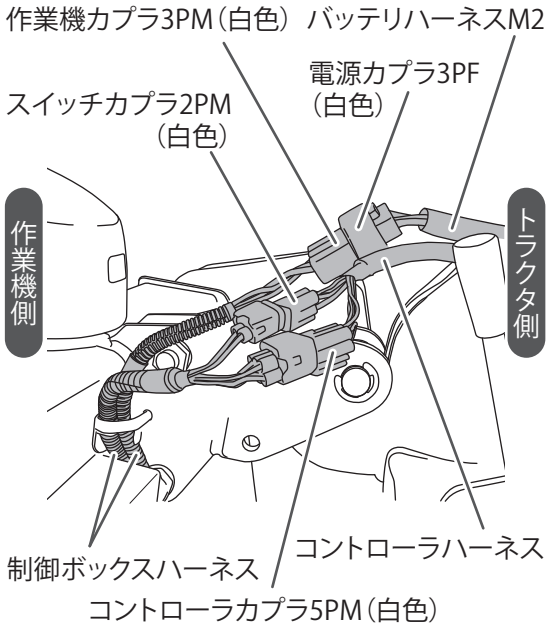


7 取外した部品は、安全な場所に大切に保管します。

配線接続

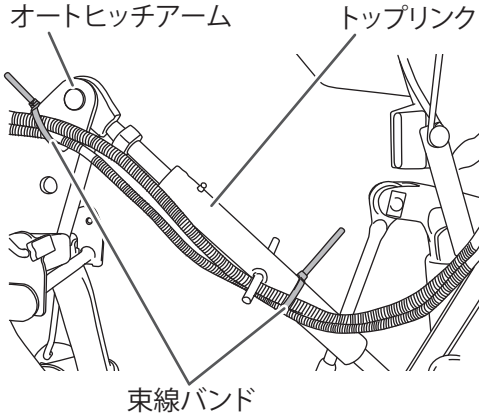
バッテリハーネス M2 とコントローラハーネスを制御ボックスハーネスに接続し、トラクタの電気的接続を行います。

1 バッテリハーネス M2 の電源カプラ 3PF（白色）と、制御ボックスハーネスの作業機カプラ 3PM（白色）を接続します。



2 コントローラハーネスのスイッチカプラ 2PM（白色）とコントローラカプラ 5PM（白色）を制御ボックスハーネスのカプラに接続します。

3 バッテリハーネス M2 とコントローラハーネスを、オートヒッチアームとトップリンクに沿わせて、束線バンドで固定します。



4 トラクタ後部のグロメットにハーネスを通します。

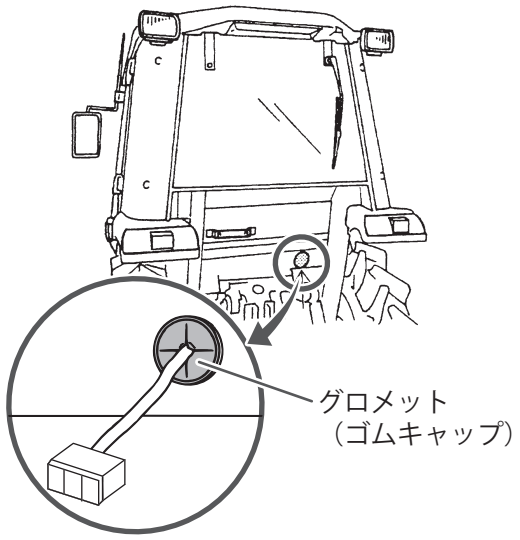
⚠注 意

必ず実行

ハーネスをトラクタ後部のケーブル取出し穴に通す場合、必ずグロメット（ゴムキャップ）の中を通してください。

グロメットが塞がれている場合はカッタなどで切り、その中を通してください。

＊ グロメットを外してケーブルを通すとケーブルが鋭利なコーナーで切断され、ショートする恐れがあります。



取扱上の注意

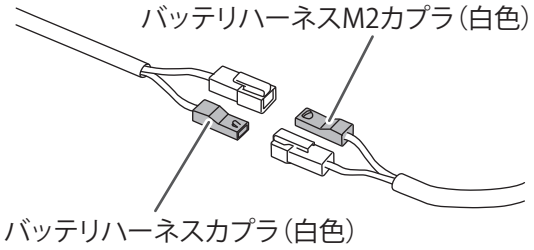
- トラクタおよび作業機の鋭利なコーナーに接触しないようにしてください。
- ポジションコントロールレバーの上下操作により電源コードに余裕を持たせてください。

5 配線後は作業機を上下させて、ハーネス（コード）が引っ張られたり、ジョイントやタイヤなどに接触したりしないか確認します。

取扱上の注意

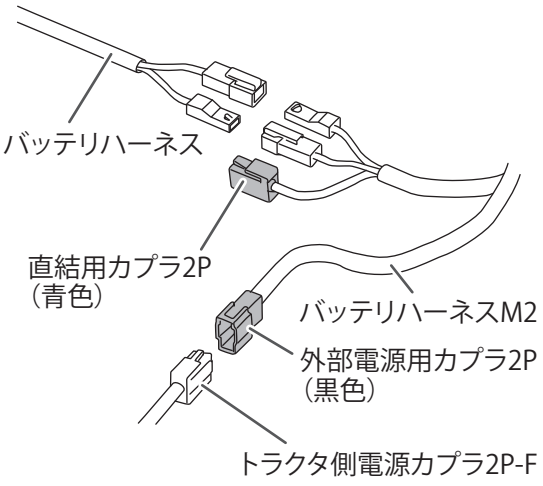
- 作業機カプラ 3PM（白色）は、下に垂れ下がらないようにしてください。
  巻き込まれや水没など、損傷の原因になります。

6 **バッテリハーネス M2 のカプラ（白色）にバッテリハーネスのカプラ（白色）を取付けます。**



- トラクタとコントローラをキー連動接続する場合は、以下の手順で設定を行ってください。

(1) バッテリハーネス M2 の直結カプラ 2P（青色）と外部電源用カプラ 2P（黒色）を外します。



(2) トラクタ側電源カプラ 2P-F と外部電源用カプラ 2P（黒色）を取付けます。

取扱上の注意

- トラクタ側電源カプラ 2P-F の位置はトラクタによって異なります。
  詳しい接続方法は、トラクタの『取扱説明書』を参照するか、お買い求めの販売店に相談してください。
- キー連動接続にした場合、直結カプラ 2P（青色）は使用しません。直結カプラ 2P（青色）は外部電源用カプラ 2P（黒色）とつないで納入になります。

コントローラについて

トラクタへのコントローラの取付け・取外しについて記載しています。

注意事項

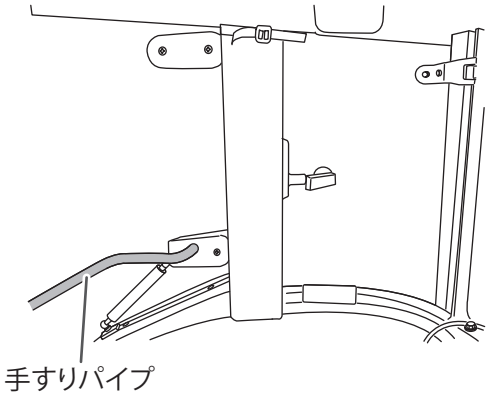
⚠注 意	
禁止	**ぬれた手で配線接続作業を行わないでください。** ＊ 感電につながる恐れがあります。
必ず実行	**コントローラに雨水がかからないようにしてください。** ＊ 感電や破損につながる恐れがあります。
必ず実行	**トラクタへの乗降は、コントローラの取付けられていない左側ドアから行ってください。** ＊ 事故・ケガや作業機の損傷につながる恐れがあります。
必ず実行	**コントローラがトラクタ操作の妨げにならない位置で、確実に取付けられていることを確認して操作してください。** ＊ 故障や予期せぬ作動の原因になり、事故・ケガにつながる恐れがあります。
必ず実行	**草刈り作業をしないときは、電源カプラ3P（白）を必ず外してください。** ＊ バッテリ上がりおよび誤作動する恐れがあります。

取扱上の注意

- コントローラは精密部品です。
  落としたり、トラクタの座席に挟み込んだり、激しい振動を与えないでください。
- 樹脂部品のため溶剤（ガソリン、灯油、シンナーなど）をつけないでください。割れたり、溶けたりすることがあります。

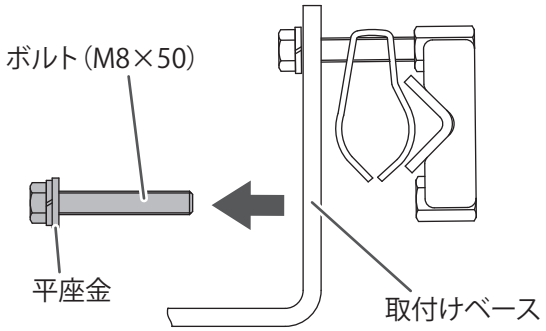
コントローラの取付け

コントローラは、トラクタのハンドル操作やレバー・ボタン操作が安全に行える右側ドア内側の手すりパイプに取付けます。

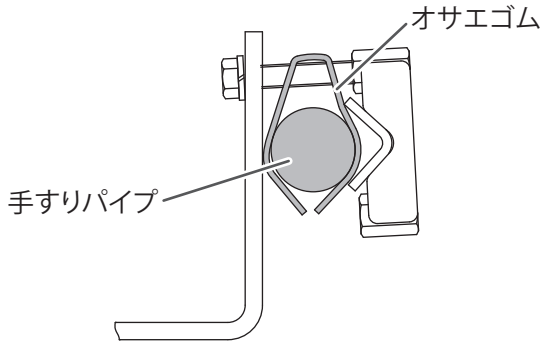


取付けベースの取付け

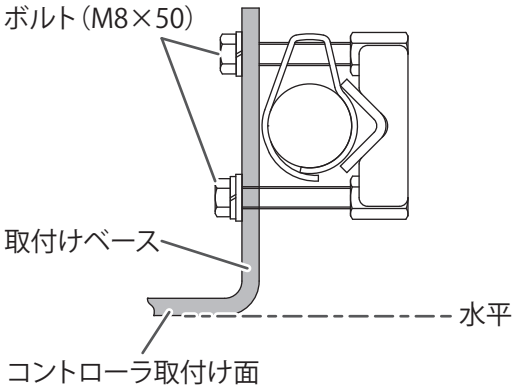
1 **取付けベースの下側のボルト（M8 × 50）を外します。**



2 **トラクタの手すりパイプをオサエゴムで挟みます。**



3 取付けベースのコントローラ取付け面が水平になるように、ボルト 2 本（M8 × 50）で均等に仮締めします。



取扱上の注意

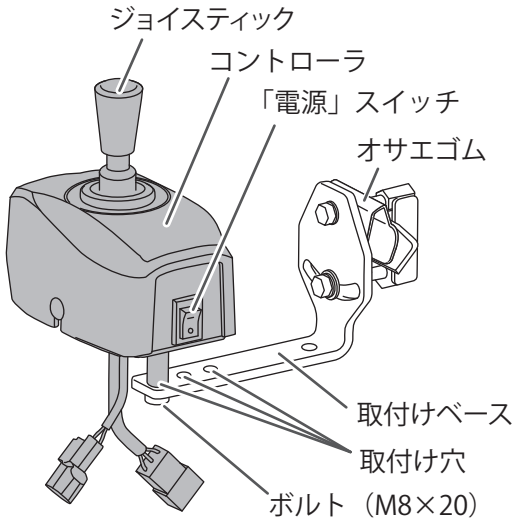
- トラクタのレバーなどに干渉する場合は、コントローラ取付け面を上方にして取付けてください。

コントローラの取付け

1 ボルト（M8 × 20）で取付けベースにコントローラを仮締めします。

取扱上の注意

- コントローラの「電源」スイッチが手前になるように取付けてください。



2 取付けベースの 3 か所の取付け穴で、トラクタ操作の妨げにならないようにコントローラの取付け位置を調整します。

3 安全にトラクタとコントローラのジョイスティックが操作できるように、取付け角度や方向などを調整します。

4 仮締めしていた各ボルトを締付けて、コントローラを固定します。

- 取付けベースとオサエカナグが平行になるように、ボルト 2 本（M8 × 50）を均等に締付けてください。

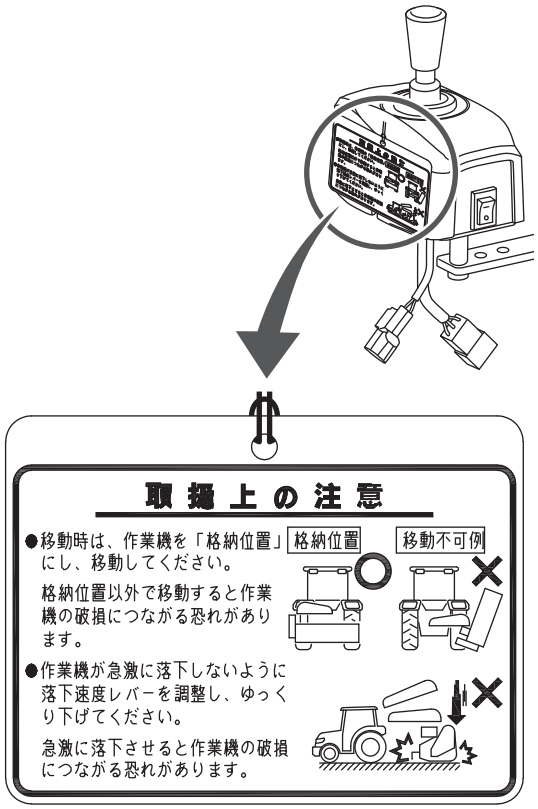
取扱上の注意

- 各ボルトを締付けすぎて、手すりパイプや取付けベースが変形しないようにしてください。

5 ジョイスティックにトリアツカイパネルをかけます。

取扱上の注意

- トリアツカイパネルは、トラクタの運転や操作などの妨げにならない位置にかけてください。
- トリアツカイパネルに記載している内容に注意して作業を行ってください。



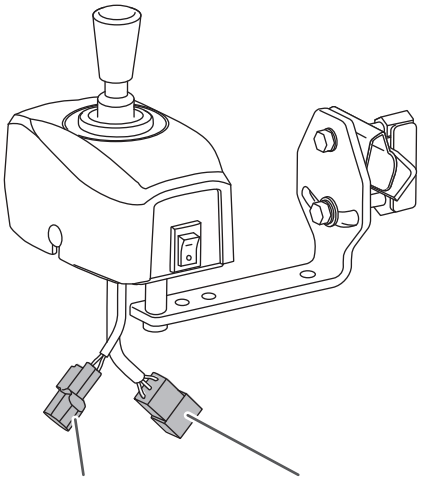
ハーネスの接続

⚠注 意

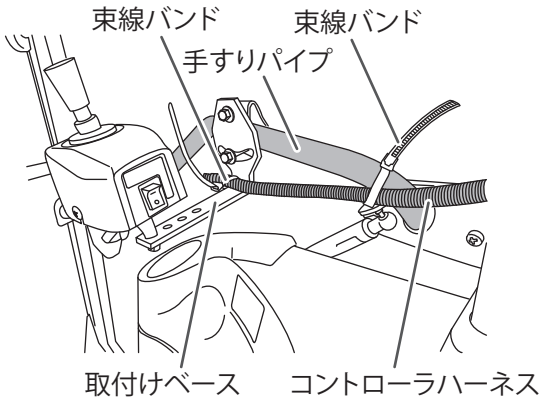
草刈り作業をしないときは、電源カプラ3P（白）を必ず外してください。

必ず実行　＊ バッテリ上がりおよび誤作動する恐れがあります。

1 コントローラハーネスのカプラとコントローラの 5PM カプラ（白色）・2PM カプラ（白色）を接続します。



2 コントローラハーネスを、取付けベースおよび手すりパイプに沿わせて、付属の束線バンドで固定します。



お知らせ

- 手すりパイプに固定して、ドアの開閉やトラクタ操作の妨げにならないことを確認してください。

コントローラの取外し

カプラの取外し

1 束線バンドを取外します。

2 コントローラの 6PM カプラ（白色）・2PM カプラ（白色）のロック部を指先で引上げながら、制御ボックスハーネスのカプラを引抜きます。

コントローラの取外し

⚠注 意

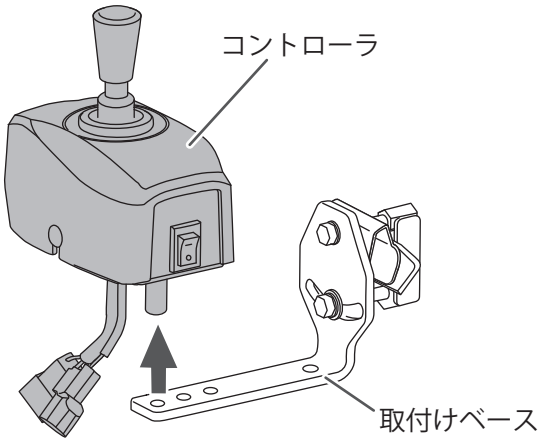
草刈り作業をしないときは、電源カプラ3P（白）を必ず外してください。

必ず実行　＊ バッテリ上がりおよび誤作動する恐れがあります。

1 コントローラ下部のボルト（M8 × 20）を取外します。

2 取付けベースからコントローラを取外します。

- 必要であれば、取付けベースも取外してください。



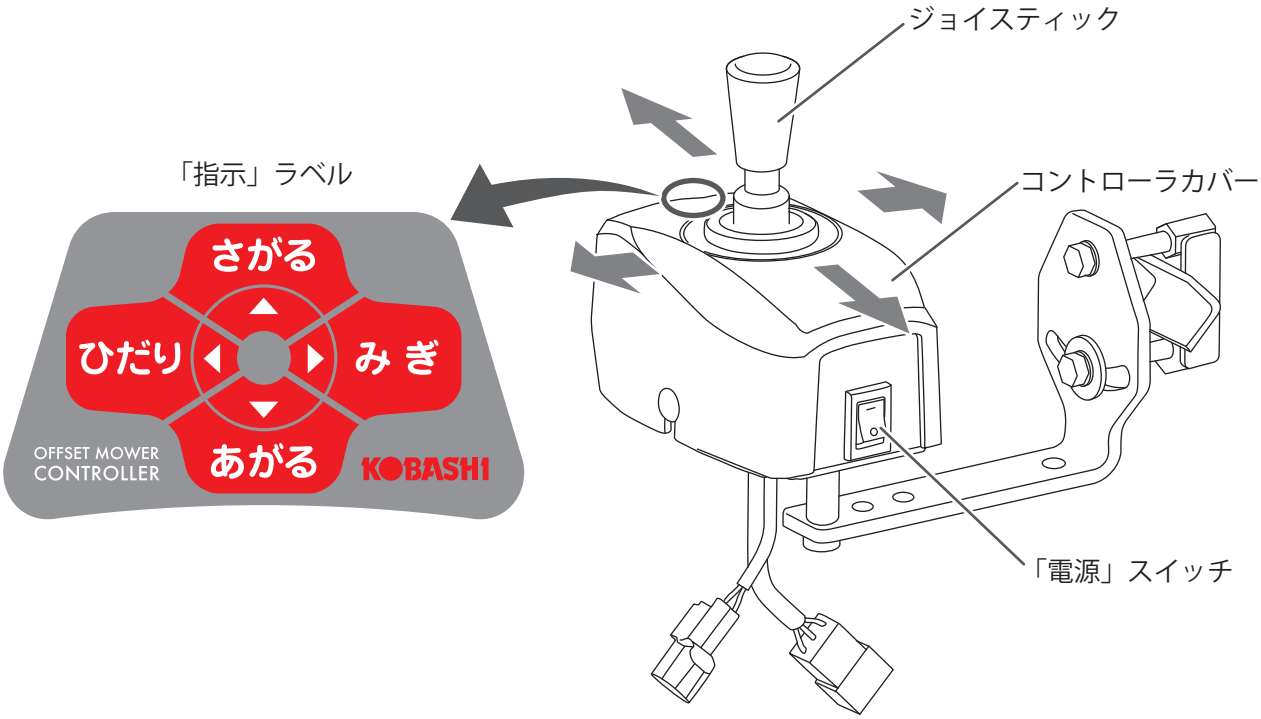
■保管

- 作業が終了して保管するときは、作業機側のバッテリとコントローラハーネスのカプラを引抜いてください。
- バッテリやコントローラハーネスのカプラは、水がかかったり、ショートしたりしないようにトラクタ内に引込んで保護してください。
- 作業機側のカプラは、水や異物が混入しないように保護してください。
（カプラ接続時にはカプラ内部を確認し、カプラ内や端子の汚れなどを清掃してから使用してください。）
- 長時間使用しない場合や作業機をトラクタから外して保管する場合は、バッテリハーネス M2 とコントローラハーネスやコントローラなどをトラクタから取外して大切に保管してください。（バッテリハーネスを使用している場合は、バッテリハーネスも取外して大切に保管してください。）

コントローラの操作

ここではコントローラの操作について記載しています。
作業前によく読み、内容を理解してから作業を行ってください。

コントローラの説明



■「電源」スイッチ

⚠注 意

必ず実行

コントローラの取付け・取外し時、作業終了時や作業機を使用しないときは、コントローラの「電源」スイッチを必ず「OFF」にしてください。

＊ 故障や予期せぬ作動の原因になり、事故・ケガにつながる恐れがあります。

状態	説明
ON	電源が入ります。 （ブザー音が鳴ります）
OFF	電源が切れます。

- トラクタの外部電源とバッテリハーネス M2 を接続した場合、トラクタのキーが「OFF」になっていると電源は入りません。
  また、コントローラの「OFF」に関係なく、トラクタのキーを「OFF」にすると電源は切れます。

■ジョイスティック

作業機のオフセットや傾斜操作を行います。

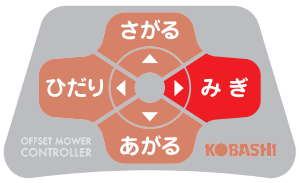
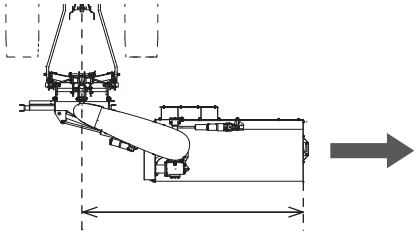
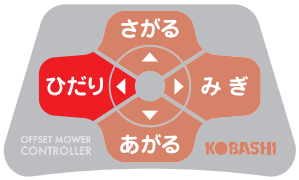
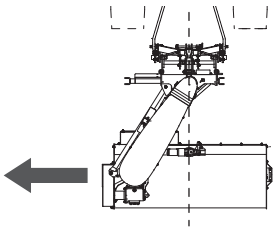
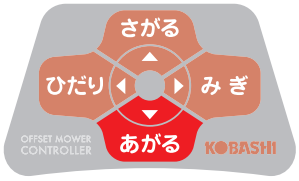
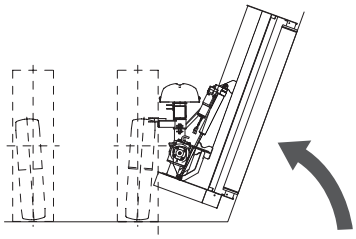
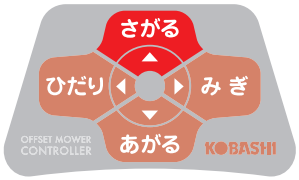
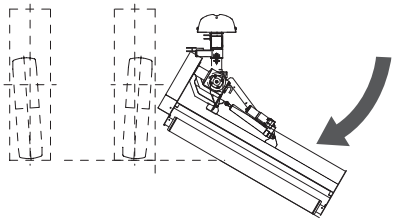
コントローラカバーには、「指示」ラベルが貼ってあります。詳細は、「■ジョイスティック操作と動作」（→ p.43）を参照してください。

■ジョイスティック操作と動作

ジョイスティックの操作と動作を記載しています。確認の上、操作を行ってください。

取扱上の注意

- 作業機保護のため過電流を検知した場合、作業部の動作を規制します。
  ジョイスティックを中立に戻し、再度ジョイスティック操作を行ってください。

ジョイスティック	作業機の動作	
中立 （ジョイスティックから手を離すと中立に戻ります）	停止（動きません）	
右に倒す  	右（作業）方向へオフセットします。 （操作中ブザー音が鳴ります）	■ 上面図  最大オフセット：トラクタのセンターから224 cm
左に倒す  	左（格納）方向へオフセットします。 （操作中ブザー音が鳴ります）	■ 上面図  格納位置：トラクタのセンター
手前に倒す  	上方向へ傾斜します。 （操作中ブザー音が鳴ります）	■ 背面図  上方向最大傾斜：70°
奥に倒す  	下方向へ傾斜します。 （操作中ブザー音が鳴ります）	■ 背面図 下方向最大傾斜：55° 

移動・圃場への出入り

移動・圃場への出入りについての注意事項を以下に示します。
よく読み、内容を理解してから作業を行ってください。

注意事項

⚠警 告

禁止

路肩を目視できない場合や軟弱な路肩は走行しないでください。
＊ 転倒事故につながる恐れがあります。

必ず実行

溝や傾斜のある農道は路肩に注意して走行してください。
＊ 転倒事故につながる恐れがあります。

必ず実行

移動の際は作業機を持ち上げ、油圧ロックをし、左右のブレーキを連結し、チェックチェンが張れていることを確認してください。
＊ 転倒事故につながる恐れがあります。

必ず実行

トラクタの『取扱説明書』に沿って走行してください。
＊ 転倒事故につながる恐れがあります。

必ず実行

前後左右に気をくばり、安全を確認しながら走行してください。
高速運転、急発進、急ブレーキ、急旋回はしないでください。
＊ 転倒事故につながる恐れがあります。

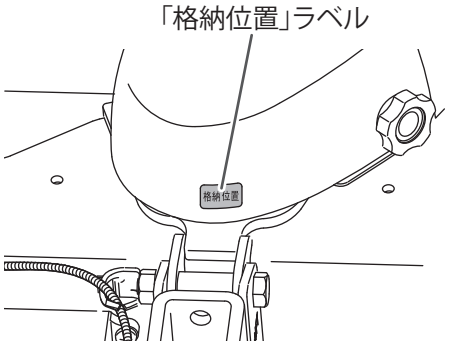
必ず実行

圃場に入るときは、必ず速度を下げ、うねや段差に対して直角に進んでください。
うねが高いときは丈夫で滑り止めのあるアユミ板を使用し、傾斜角が 14°以下になるようにしてください。
＊ 転倒事故につながる恐れがあります。

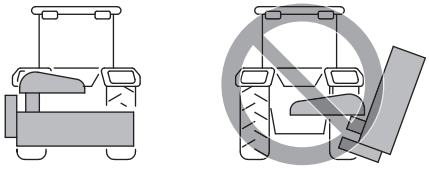
⚠警 告

必ず実行

「格納位置」ラベルが下図の位置にあり、作業部が水平なことを確認して移動してください。
＊ 転倒事故や作業機の損傷につながる恐れがあります。



（移動可状態）　（移動不可状態）



⚠注 意

必ず実行

傾斜している圃場から出るときは、バックで上がるか、丈夫なアユミ板を使用してください。
＊ 転倒事故につながる恐れがあります。

必ず実行

作業機を低くして重心を下げ、直角に進んでください。
＊ 畦や段差に対して斜めの方向に進むと、横滑りや転倒する恐れがあります。

必ず実行

常に前・後輪のバランスを考え、移動、圃場への出入りに注意してトラクタ操作をしてください。
＊ 転倒事故につながる恐れがあります。

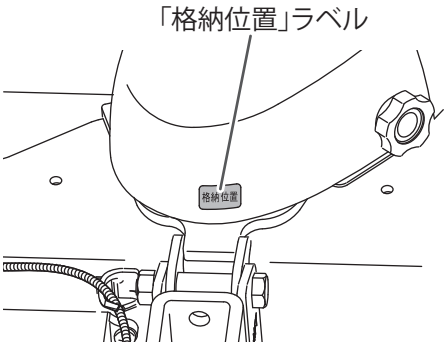
必ず実行

移動時はトラクタの変速レバーを「中立」、PTO を「切」にして走行してください。
＊ 巻き込み事故につながる恐れがあります。

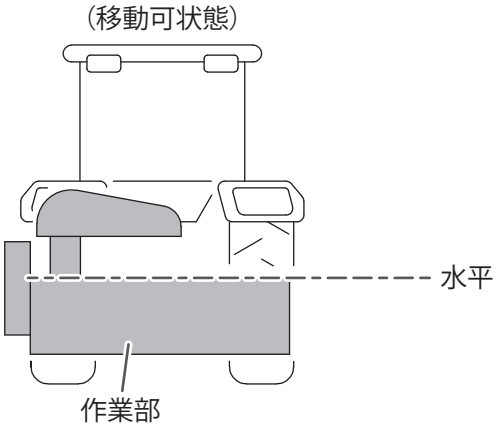
移動・圃場への出入り

必ず以下を確認してから移動および圃場の出入りを行ってください。

- 「格納位置」ラベルが下図の位置にあるか



- 作業部が水平になっているか



作業のしかた

ここでは作業のしかたについて詳しく記載しています。
作業前によく読み、内容を理解してから作業をしてください。

注意事項

⚠危 険

禁止
運転中トラクタと作業機の周囲には、補助作業者や他の人を絶対に近づけないでください。
＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

禁止
フレール軸回転時に、ポジションコントロールレバーで作業機を上げないでください。
高速回転の作業機です。
＊ 土・石などが飛散してケガをする恐れがあります。特に後方に人がいる場合には大ケガの恐れがあります。

必ず実行
次の作業をする場合は、必ずトラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO 変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止してください。
- 運転者が運転位置を離れて作業機を調整するとき
- 爪軸などへの草やワラのからみ付きを取除くとき

＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

必ず実行
次の作業をする場合は、必ずフレール軸が完全に停止したことを確認してください。
PTO 軸への動力切断後もフレール軸は回転します。
- 運転者が運転位置を離れて作業機を調整するとき
- 爪軸などへの草やワラのからみ付きを取除くとき

＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

必ず実行
トラクタが水平に走行できる場所で作業をしてください。
＊ 転倒事故につながる恐れがあります。

必ず実行
次の場所を作業する場合は、トラクタの車速を低速にしてください。
- 畦際、土手際
- 木や障害物のある場所

＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

⚠危 険

必ず実行
路肩が目視でき、強固で崩れないことを確認して作業を行ってください。
草で路肩が目視できない場合は、事前に平面刈りを行い、目視できる状態にしてから傾斜作業を行ってください。
＊ 転倒事故につながる恐れがあります。

⚠警 告

禁止
作業機を大きく上げた状態で作業をしないでください。
＊ 事故・大ケガ、作業機の損傷につながる恐れがあります。

禁止
爪軸回転中は、作業機に近づかないでください。
＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

必ず実行
作業機指定のPTO回転速度540 rpm（1速・正転）を守ってください。
＊ 作業機を高速回転、低速回転、または逆回転で使用すると作業機が異常作動し、事故や大ケガ、作業機の損傷につながる恐れがあります。

必ず実行
石や木に接触した場合や、異常な振動・異音を感じた場合は、直ちに作業をやめて作業機の点検をしてください。
＊ 事故・大ケガ、作業機の損傷につながる恐れがあります。

⚠注 意

禁止
石などが多い圃場では作業を行わないでください。
＊ ケガやトラクタ、作業機の損傷につながる恐れがあります。

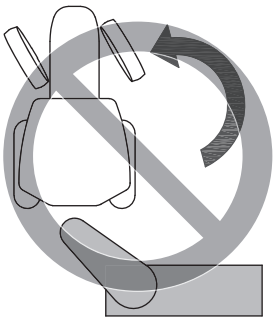
禁止
作業中は草やゴミを路上に落とさないでください。
＊ 道路交通法違反および事故につながる恐れがあります。

禁止
旋回しながらの作業はしないでください。
＊ 転倒事故・作業機の故障につながる恐れがあります。

⚠注 意	
禁止	**逆転 PTO で使用しないでください。** ＊ 事故・作業機の故障につながる恐れがあります。
禁止	**後進作業はしないでください。** ＊ 事故・作業機の故障につながる恐れがあります。
必ず実行	**次の状況では石などが飛びやすくなっています。各部を調整し、人や車、建物などの周囲を十分に確認した上で作業を行ってください。** • 作業機が後傾のとき • 刈高さが低いとき • 下方傾斜作業により、ゴムカバーと地面に隙間があるとき • 地面の凸凹でフレール爪が地面に当たるとき ＊ ケガやトラクタ、作業機の損傷につながる恐れがあります。

取扱上の注意

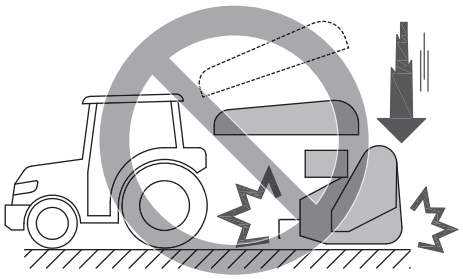
- 圃場条件に応じた作業速度および作業機の調整、操作を行ってください。
- フレール爪が地面に接触しない刈高さに調整してください。
- バック作業はできません。作業機損傷の恐れがあります。
- 作業部を接地させた状態で旋回しないでください。
- 作業時に旋回する場合は、作業機を持ち上げてください。作業しながらトラクタを旋回させると、作業機の破損につながる恐れがあります。



- 作業部を傾斜操作で水平にしてから、オフセット操作を行ってください。

取扱上の注意

- 作業機が急激に落下しないように、落下速度レバーを調整し、ゆっくり下ろしてください。
  急激に落下させると、作業機の破損につながる恐れがあります。



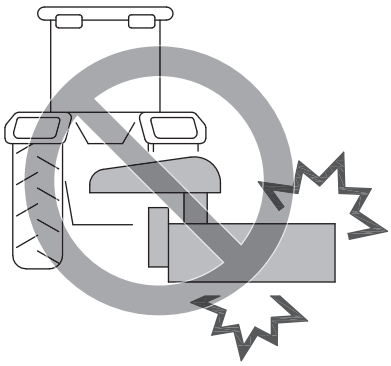
- トラクタエンジン回転速度 1000 rpm 以下で、クラッチをつなげた後に、エンジン回転速度を上げて PTO 回転速度 540 rpm（1 速・正転）にして作業してください。また、トラクタによってはクラッチを緩やかにつなぐモードが設定されています。
  （イセキ：牧草 PTO モード）
  トラクタの『取扱説明書』を確認の上、設定を行ってください。

作業について

圃場の確認

事前に圃場の状況を確認してください。

- 障害物（排水口、岩、木など）がないか確認し、作業前に排除するか、計画的に作業してください。特にはじめて作業する圃場は十分に確認してから作業してください。
  作業機が障害物に接触すると、作業機の破損につながる恐れがあります。

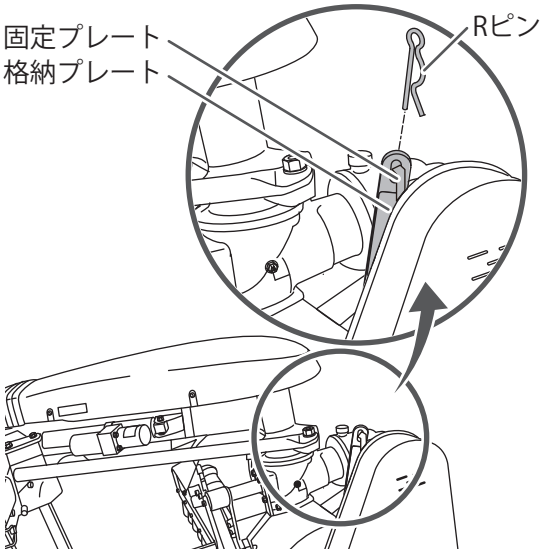


- 傾斜作業では、路肩が強固で崩れないか、危険な場所はないかなど確認してください。
- 周辺の状況に配慮し、進行方向に注意して作業を行ってください。トラクタの進行方向へ飛び石の恐れがあります。

作業手順

1 作業機をトラクタに装着します。

2 R ピンで固定プレートに格納プレートを取付け、傾斜作業が可能な状態にします。



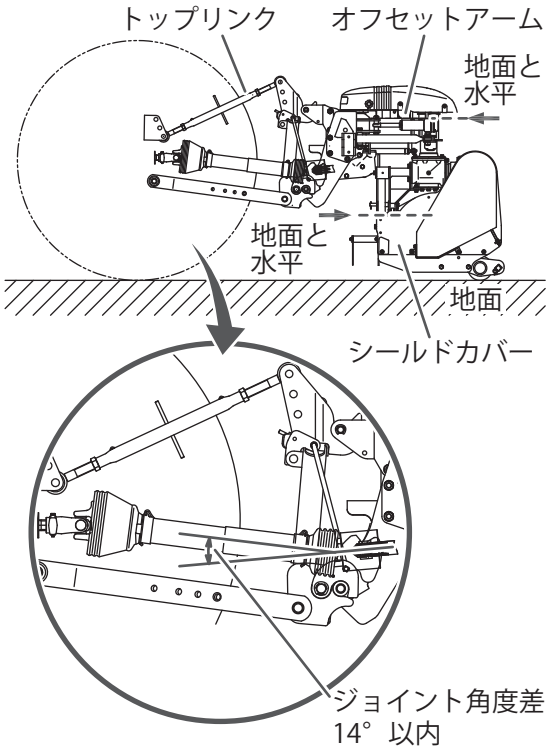
3 地面が水平な場所でトラクタの昇降レバーを最下げにし、地面に作業機を接地させます。

4 ゲージローラ全面が地面に接地するようにコントローラで調整します。

5 適正な作業姿勢か確認します。

適正な作業姿勢は下記内容です。

- 作業機のオフセットアームまたはシールドカバー前側（矢印部）が地面と水平
- 作業機側のジョイント角度差が 14°以内



6 適正な作業姿勢でない場合、トップリンクの長さを調整して、可能な場合は適正な作業姿勢になるようにします。

⚠ 警 告

必ず実行

トップリンクの調整は、作業機を接地させてから行ってください。

＊ トップリンクが抜けて、作業機が落下し、事故・大ケガにつながる恐れがあります。

- 作業機が水平になるまで調整を行ってください。

取扱上の注意

- 適正な作業姿勢でない状態で作業を行うと、フレール爪の早期摩耗や異音の発生、作業機の破損につながります。
- お手持ちのトラクタ、および純正ロータリの『取扱説明書』に従ってください。

7 **圃場条件に応じてコントローラを操作し、ゲージローラ全面が接地するように作業します。**

- コントローラの操作は、「コントローラの操作」（→ p.42）を参照してください。

作業速度と PTO 軸回転速度

⚠注 意

禁止

逆転 PTO で使用しないでください。
＊ 事故・作業機の故障につながる恐れがあります。

- 作業速度は、2 ～ 5 km/h が標準です。
- 作業速度が遅いと細かく切断され、速いと荒くなります。
- 草の種類や草丈によりエンジンの回転数が低下するときは、作業速度を遅くしてください。
- 傾斜作業は、作業速度を遅くしてください。
- 凸凹の多い圃場では、作業速度を遅くしてください。
- PTO 軸回転速度は、540 rpm（1 速・正転）で使用してください。本機は 540 rpm（1 速・正転）で使用するように設計されています。

ワンウェイクラッチ機能

⚠警 告

禁止

爪軸回転中は、作業機に近づかないでください。
＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

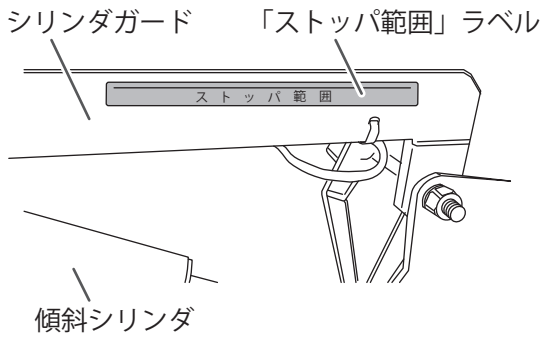
動力切断時の爪軸の慣性力によるトラクタの押出しを防止します。
動力切断後も 10 秒以上、爪軸は回転し続け、回転中はクラッチ音が鳴ります。

シリンダガード

ストッパ範囲でシリンダガードとオフセットアームが接触する場合があります。
接触した場合は、作業部を水平にしてください。

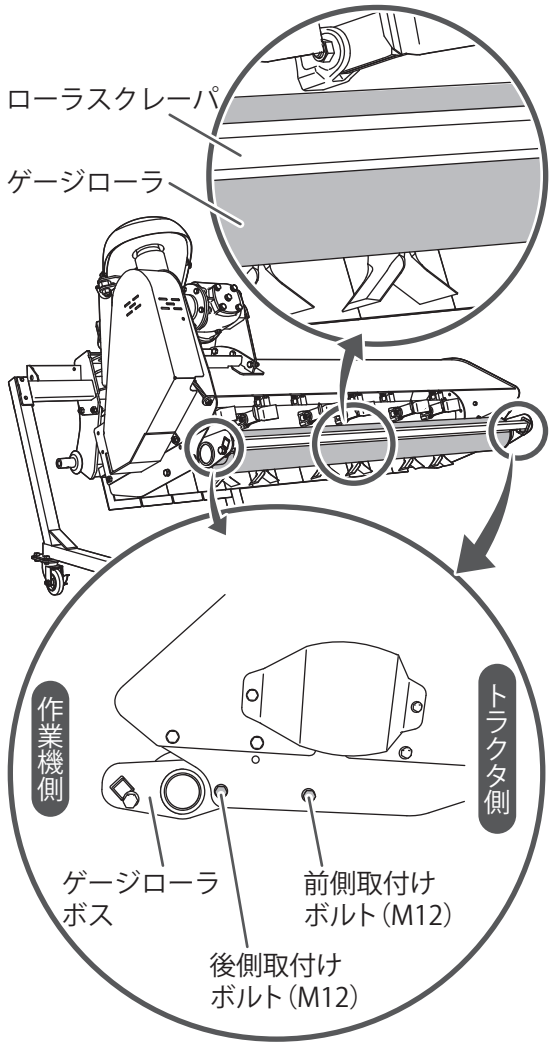
お知らせ

- 接触は作業機の故障ではありません。



刈高さの調整

ゲージローラの高さ（3 段階）を調整します。
フレール爪が地面と接触しない高さに調整します



1 **左右の前側取付けボルト（M12）2 本を緩めます。**

お知らせ

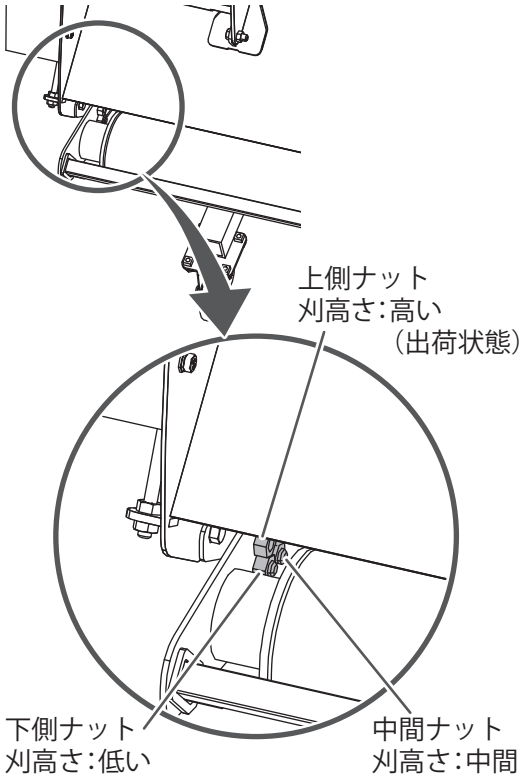
- ゲージローラボスの取付けボルト（M12）は前側と後側（左右）の合計 4 本あります。

2 **台などでゲージローラを支えながら、左右の後側取付けボルト（M12）2 本を取外します。**

取扱上の注意

- 前側取付けボルトは取外さないでください。

3 **ゲージローラボスのナット位置（上側・下側）を調整し、左右の後側取付けボルト（M12）2 本を取付けます。**



取扱上の注意

- 凸凹の多い圃場や、ゲージローラが沈み込む柔らかい圃場は、上側ナットを使用してください。

4 **取付けボルト（M12）4 本を締付けます。**

取扱上の注意

- オフセットアームおよびシールドカバーは地面と水平な状態にしてください。
  詳細は、「作業手順」（→ p.48）を参照してください。

オフセット作業

トラクタのセンター（格納状態）から作業部を右方向にオフセットした状態で作業が可能です。

- 任意のオフセット位置（最大 224 cm）

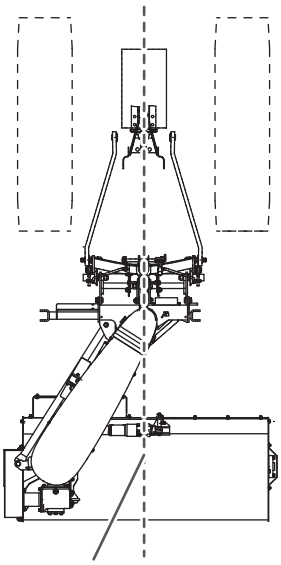
取扱上の注意

- 大きくオフセット操作する場合は、作業部を水平にしてから行ってください。

■格納位置作業

トラクタのセンターと作業機のセンターが同じになり、通常のフレールモアーと同様の作業が可能です。中割作業などで使用します。

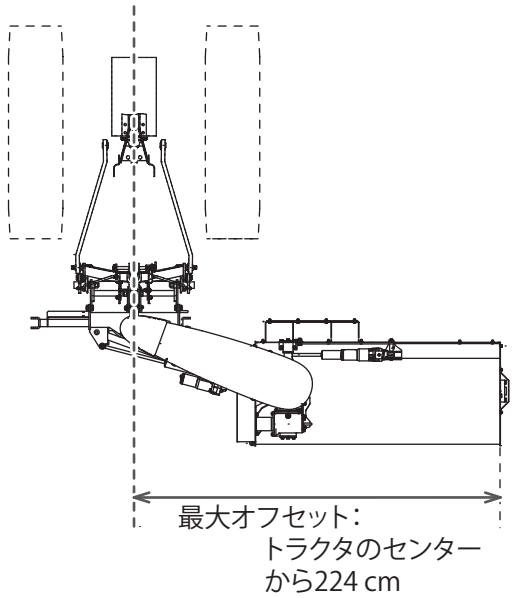
- ゲージローラが左右接地するように、傾斜角度も都度調整してください。
（「傾斜作業」（→ p.51））



■オフセット作業

トラクタのタイヤで草を踏みつぶすことがなくなり、刈残しが少なくなります。
トラクタが近寄れない果樹下なども作業できます。

- ゲージローラが左右接地するように、傾斜角度も都度調整してください。
（「傾斜作業」（→ p.51））



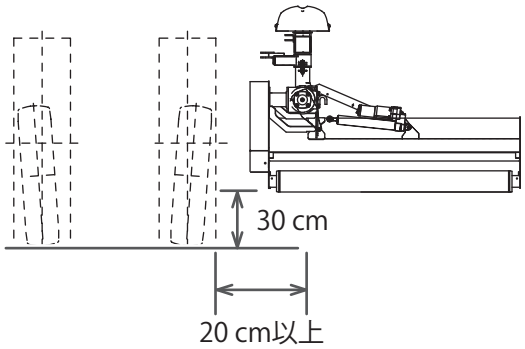
傾斜作業

作業部をオフセットした状態で、作業部を上下方向へ傾斜することで斜面での作業が可能です。
上方向に最大 70°、下方向に最大 55° 傾斜します。

■下方傾斜作業

作業機は、下方向に最大 55° 傾斜します。

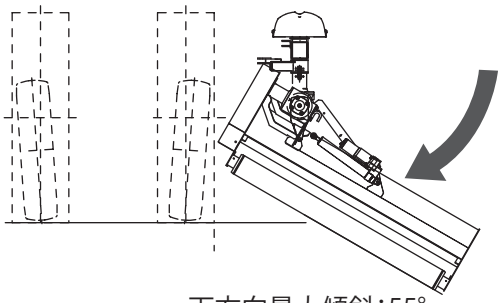
1 **トラクタの前輪を路肩から 20 cm 以上離して、平行に合わせます。**



2 地上高 30 cm 程度まで作業機を下げます。

3 右方向へ作業機をオフセットします。

4 下方向に作業機を傾斜させて、斜面と平行にします。



下方向最大傾斜：55°

5 ゲージローラが斜面に接するまで作業機を下げます。

6 作業機が斜面に沿うように、傾斜角度とオフセットを調整します。

取扱上の注意

- 作業開始時は、低速で作業を行ってください。

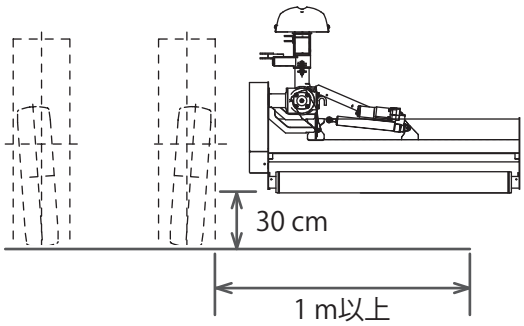
7 路肩から 20 cm 以上離れて作業します。

- 進行方向にも注意してください。

■上方傾斜作業

作業部は、上方向に最大 70° 傾斜します。

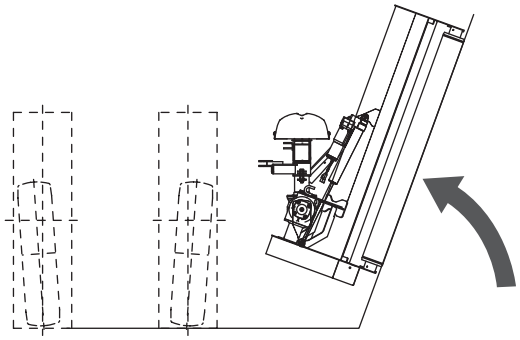
1 トラクタの前輪を路肩から 1 m 程度離して、平行に合わせます。



2 地上高 30 cm 程度まで作業機を下げます。

3 右方向へ作業機をオフセットします。

4 上方向に作業機を傾斜させて、斜面と平行にします。



上方向最大傾斜：70°

5 ベルトカバーシューズが地面に接しない程度まで作業機を下げます。

6 ゲージローラが斜面に接するまでトラクタを近づけます。

7 斜面に沿うように傾斜角度とオフセットを調整します。

取扱上の注意

- 作業開始時は、低速で作業を行ってください。
- フロントフレームおよびオフセットチェンカバーが水平な状態で作業してください。
  トラクタポジションを上げすぎると、土を削り、作業機が損傷する恐れがあります。

トラクタの清掃

お手持ちのトラクタの『取扱説明書』に従って、清掃を行ってください。

取扱上の注意

トラクタのラジエータなどのフィルタに草や綿毛が詰まると、冷却効果が低下し、オーバーヒートにつながる恐れがあります。

保守・点検

作業機本来の性能を、十分にまた長期間にわたって発揮させるためには、定期的な保守・点検が必要です。
また、故障を未然に防ぐため、作業機の状態を常に知っておくことも大切です。

注意事項

⚠危 険

必ず実行

作業機をトラクタに装着して点検を行う場合は、トラクタのエンジンを止め、駐車ブレーキをかけてから行ってください。

＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

必ず実行

作業機を地面に降ろしてから行ってください。

作業機を持ち上げた状態で点検する必要がある場合は、トラクタの駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止して油圧ロックを行い、台などを作業機の下に置き、作業機が落下しないようにしてから行ってください。

＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

⚠警 告

必ず実行

作業機の点検を行うときは以下のことを確認してから作業してください。

- エンジンを停止し、キーを抜く
- PTO 軸への動力の伝導を絶たれている
- フレール軸が完全に停止している
- 油圧ロックを行う

＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

必ず実行

点検のために外したカバー類は、必ず元どおりに取付けてください。

＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

必ず実行

作業前後に点検を行い、次の場合は新品と交換してください。

- フレール爪が変形、破損したとき
- ツメボルトが 1 mm 以上摩耗したとき

＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

⚠注 意

必ず実行

平坦で十分な広さがあり、地盤のしっかりした場所で行ってください。

＊ ケガにつながる恐れがあります。

⚠注 意

必ず実行

作業機単体で点検を行う場合は、キャスタのロックを行ってください。

＊ ケガにつながる恐れがあります。

保守・点検の準備

トラクタに装着しての場合

1. トラクタを平坦な広い場所に置きます。
2. エンジンを止め、駐車ブレーキをかけます。
3. 作業機を地面に下ろしてから行います。
   - 作業機を持ち上げた状態で点検する必要がある場合は、油圧ロックを行ってください。
4. 台などをゲージローラの下に置き、作業機が落下しないようにします。

作業機単体での場合

1. 格納位置を確認します。
2. 格納プレートを取付けます。
3. 作業機を平坦な広い場所に置きます。
4. キャスタスタンドのロックを行います。

保守・点検一覧表

No.	作業項目	周期							参照ページ
		50 時間使用後	作業前	作業後	シーズン初め	150 時間ごとまたはシーズン終了後	随時	1 年または 300 時間（どちらか早い方）	
1	オイル漏れの点検（フロントギヤーケース、リヤーギヤーケース（前・後））	○	○			○			p.55
	オイルの交換（フロントギヤーケース、リヤーギヤーケース（前・後））	○				○			p.55
2	各部のボルト・ナットの点検		○	○					p.56
3	ツメボルト・U ナットの点検		○	○					p.56
4	グリスアップ・塗布・注油								
	① ジョイント		○	○					p.57
	② 入力軸			○					p.57
	③ オートヒッチアームのレバー、フック		○						p.58
	④ 作業機各部								
	（a）チェン駆動部		○	○					p.58
	（b）オフセット部・傾斜部			○					p.58
	（c）ベルト駆動部（ベルトカバー内部）			○					p.59
	（d）フレール部			○					p.59
	（e）ゲージローラ部			○		○			p.60
5	ジョイントのノックピンの点検		○	○					p.60
6	フレール爪の点検・交換		○	○					p.60
7	空転による動作確認（ワンウェイクラッチ機能）		○						p.61
8	スローブローヒューズ		○				○		p.62
9	コントローラの動作確認		○						p.62
10	作業機の水洗い			○					p.63
11	無塗装部へのサビ止め			○					p.65
12	チェンの張り調整（テンションボルトの調整）	○			○				p.63
13	V ベルトの張り調整（テンションボルトの調整）	○			○				p.64
14	各ストッパボルトの長さ調整				○				p.65
15	警告表示ラベルの点検					○			p.65
16	消耗品の早期交換					○	○		p.65

作業内容

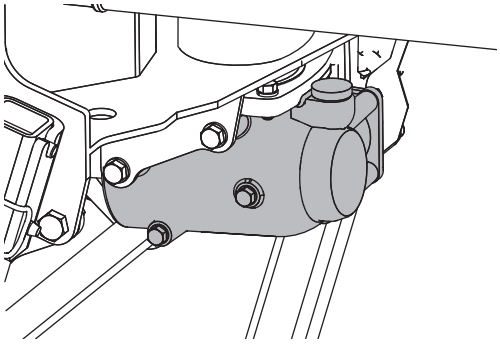
オイル漏れの点検

工場出荷時に給油しています。
オイル漏れの確認を行い、オイル交換のときまで使用してください。

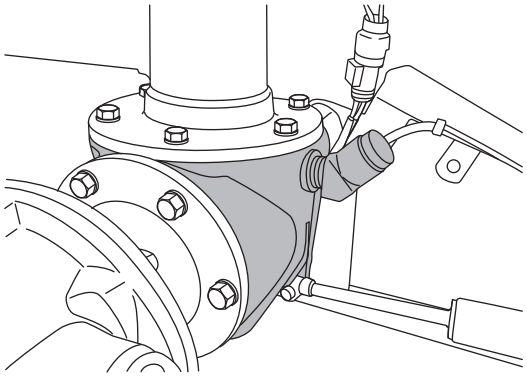
■フロントギヤーケース／リヤーギヤーケース（前・後）

1 周囲からオイル漏れがないか確認します。（オイルシール、パッキン、オイルキャップなど）

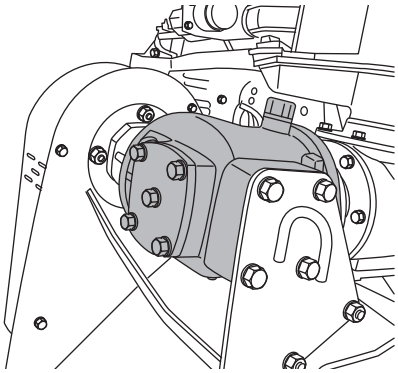
フロントギヤーケース



リヤーギヤーケース（前）



リヤーギヤーケース（後）



オイルの交換

⚠注 意

必ず実行

オイル交換を行うときは、必ず別の容器に受けてから行ってください。

＊ 地面への垂れ流しや川への廃棄は、環境汚染につながります。

■フロントギヤーケース／リヤーギヤーケース（前・後）

使用オイル	オイル量	
ギヤーオイル #90	フロント	0.5 L
	リヤー（前）	1.0 L
	リヤー（後）	1.0 L

1 ドレンボルトを外して古くなったオイルを抜きます。

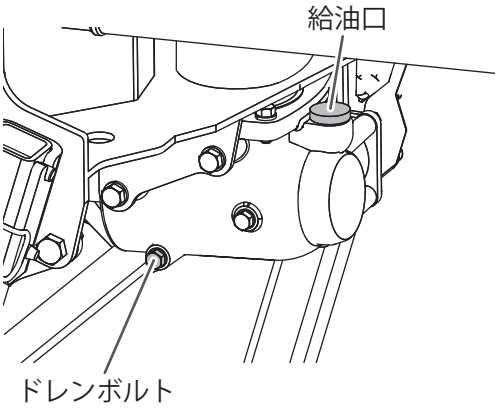
2 古くなったオイルを抜いた後、ドレンボルトを取付けます。

取扱上の注意

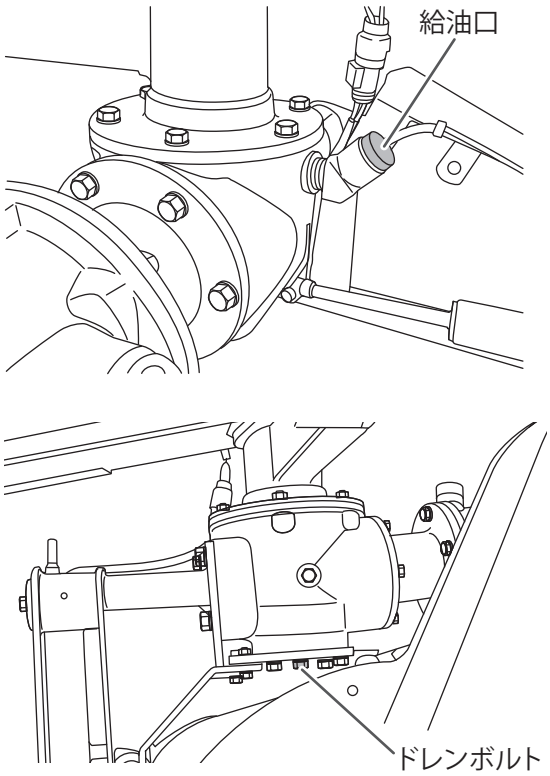
- シールワッシャなどが損傷している場合は新品に交換してください。損傷しているとオイル漏れの原因になります。

3 規定量のギヤーオイルを給油口から入れます。

フロントギヤーケース



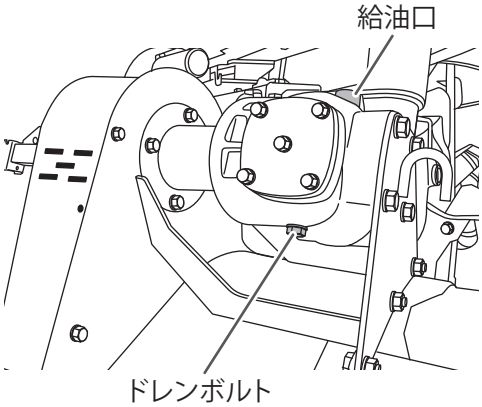
リヤーギヤーケース（前）



お知らせ

- 作業機をトラクタに装着し、作業部を上方傾斜することで、排油が容易になります。

リヤーギヤーケース（後）



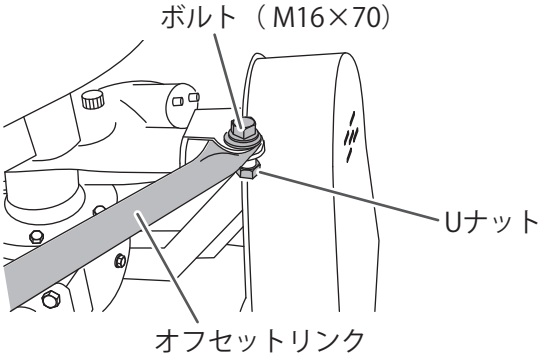
4 周囲からオイル漏れがないか確認します。（オイルシール、パッキンなど）

部品名	規格	コード
シールワッシャ	M10WF	9660010

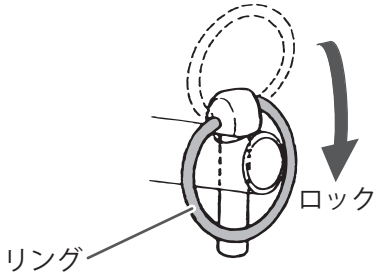
各部のボルト・ナットの点検

以下のことを確認してください。

- 各部のボルト・ナット類に緩みはないか。増締めしながら確認してください。



- ピン類はすべてそろっているか。
- リンチピンのリングが確実にロックされているか。

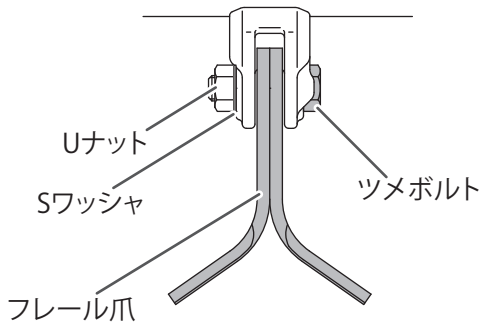


ツメボルト・U ナットの点検

フレール爪を取付けているツメボルトと U ナットを増締めし、緩みがないか点検します。

取扱上の注意

- フレール爪締付け時は、75 ～ 90 N•m の締付けトルクの範囲で、フレール爪が揺動するように締付けてください。



グリスアップ・塗布・注油

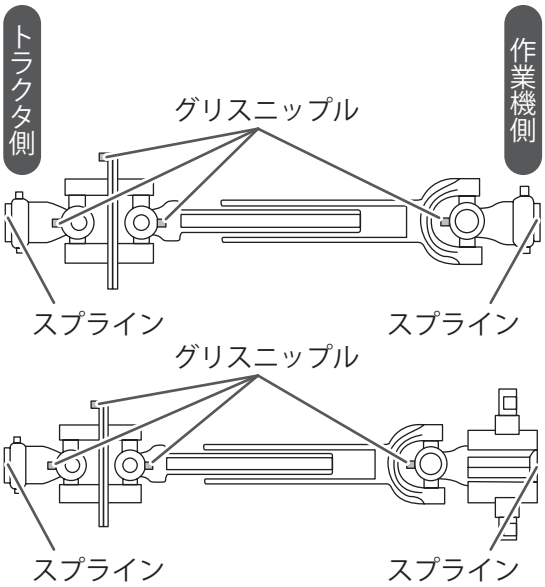
取扱上の注意

- グリスはエピノックグリース AP(N)2（ENEOS（株））または同等品（リチウムグリース）を使用してください。

■ジョイント

< 毎作業前 >

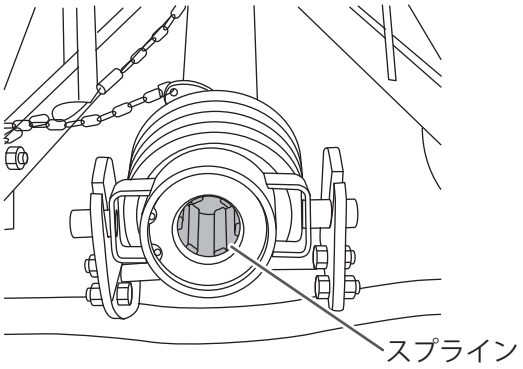
1 ジョイントの各部（グリスニップル、スプライン）にグリスアップします。



2 スプライン部を掃除しグリスを塗布します。

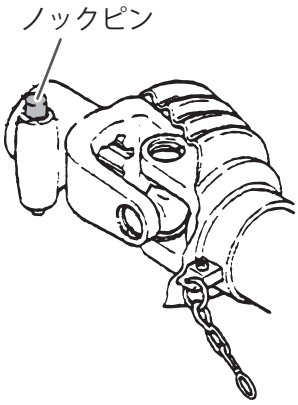
取扱上の注意

- スプライン部がサビたり傷ついたりすると、装着できなくなります。ゴミのかからないようにしてください。

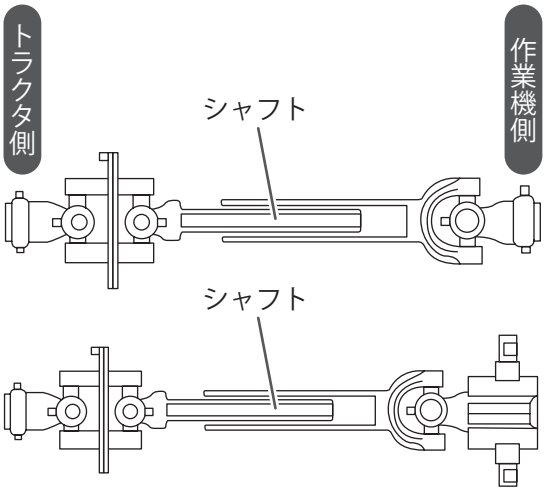


< 毎作業後 >

1 ノックピンへグリスを塗布します。

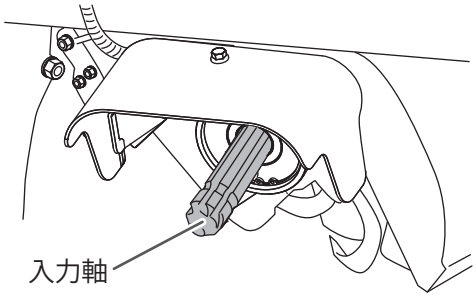


2 ジョイントは分解して、シャフト部にグリスを塗布します。



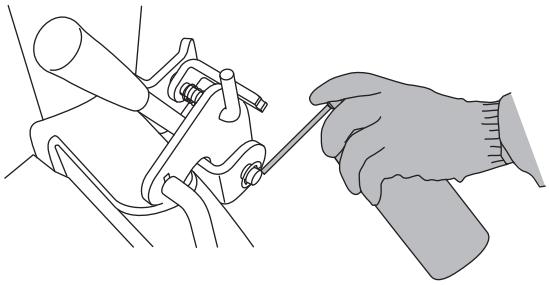
■入力軸

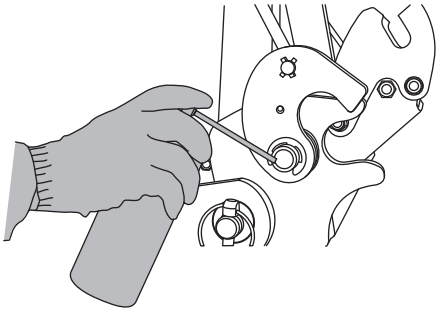
作業機の入力軸にグリスを塗布します。



■オートヒッチアームのレバー、フック

オートヒッチアームのレバーとフックの支点部分にオイルを適量塗布します。



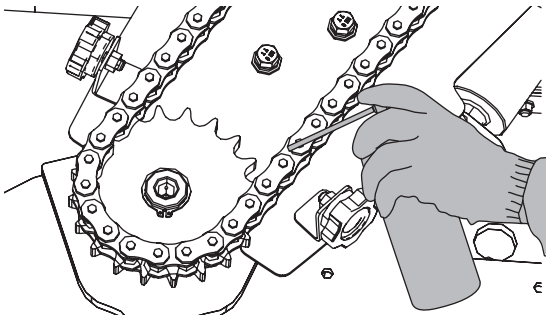


■作業機各部

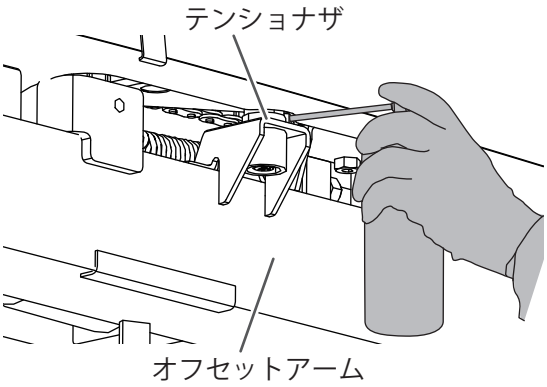
各部へのグリス塗布・注油（滴下）を怠るとスムーズな動作ができなくなります。

(a) チェン駆動部

- チェン
  作業前または作業後は、チェンに必ず適量のグリスを塗布してください。

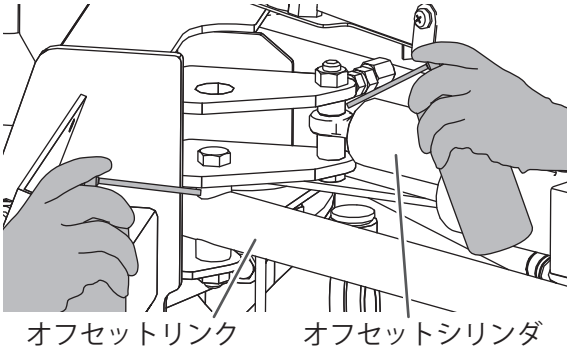


- テンショナザ支点

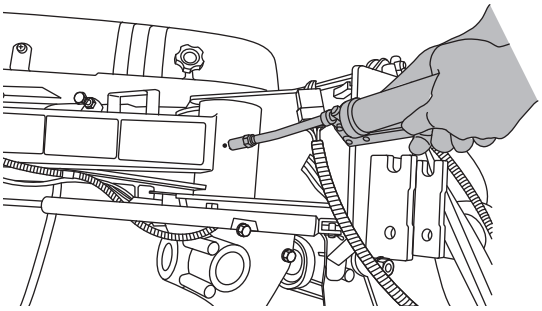


(b) オフセット部・傾斜部

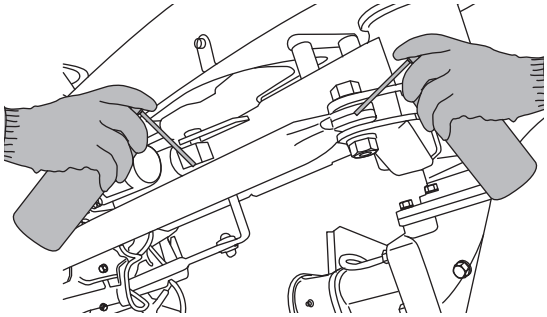
- オフセットシリンダ支点（前）
- オフセットリンク（前）



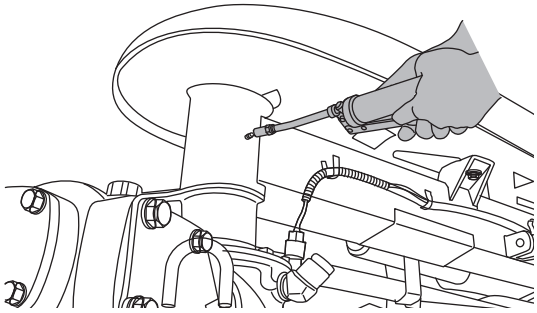
- オフセットアームグリスニップル（前）



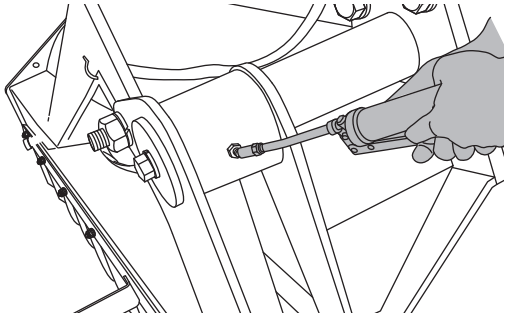
- オフセットシリンダ支点（後）
- オフセットリンク（後）



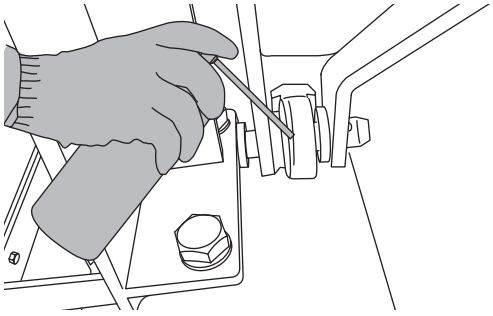
- オフセットアームグリスニップル（後）



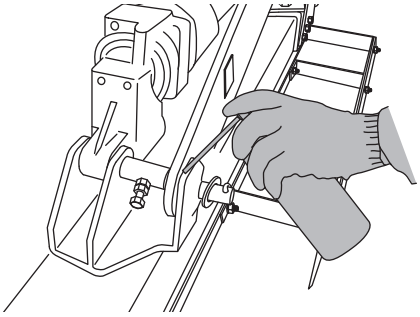
- 傾斜支点グリスニップル



- 傾斜シリンダ支点（前）

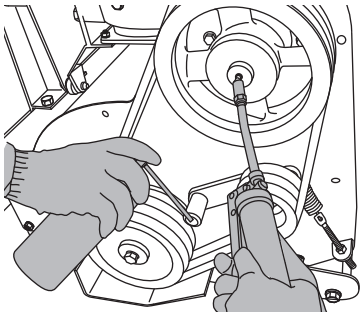


- 傾斜シリンダ支点（後）



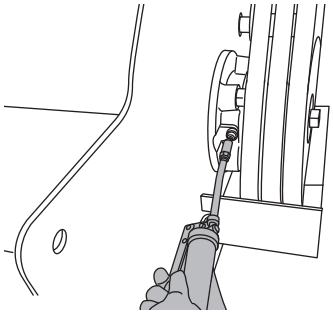
(c) ベルト駆動部（ベルトカバー内部）

- クラッチグリスニップル

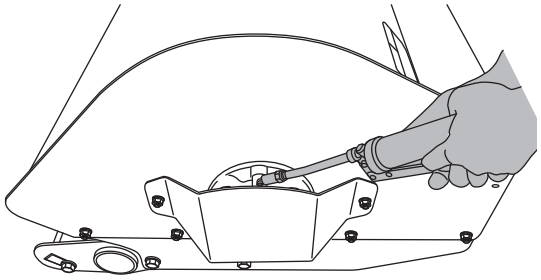


(d) フレール部

- ピローブロック（左）グリスニップル
  （ベルトカバー内部）

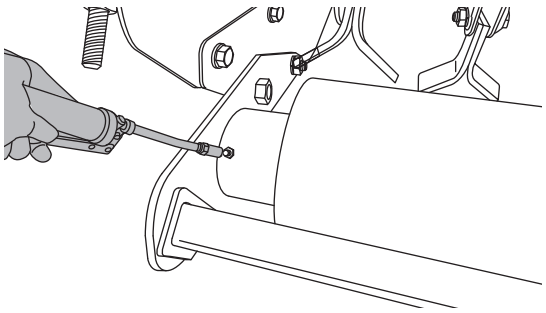


- ピローブロック（右）グリスニップル



(e) ゲージローラ部

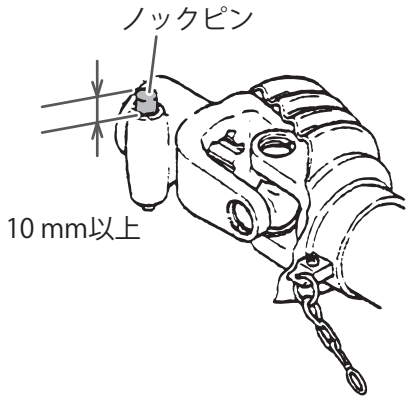
- ゲージローラ（左・右）グリスニップル



ジョイントのノックピンの点検

トラクタ側と作業機側のノックピンについて、以下のことを確認してください。

- ノックピンが正確に軸溝にはまっているか。
- ピンの頭が **10 mm 以上**出ているか。



フレール爪の点検・交換

フレール爪が摩耗すると、草刈り性能が低下します。

また、異常摩耗や折損するとバランスが崩れ、振動が発生し、作業機の故障につながります。

異常振動が感じられたら、作業を止め点検を行ってください。

⚠警 告

必ず実行

作業前後に点検を行い、次の場合は新品と交換してください。

- フレール爪が変形、破損したとき
- ツメボルトが 1 mm 以上摩耗したとき

＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

■フレール爪の点検

1 **フレール爪の摩耗や折損がないか確認します。**

取扱上の注意

- 変形したフレール爪は、変形を直すのではなく、必ず新しいフレール爪と交換してください。使用中に折損する恐れがあります。

2 **ツメボルトが 1 mm 以上摩耗していないか、フレール爪が摩耗して穴が長穴になっていないか確認します。**

3 **ツメボルトと U ナットの緩みを確認します。**

取扱上の注意

- フレール爪締付け時は、75 ～ 90 N•m の締付けトルクの範囲で、フレール爪が揺動するように締付けてください。

4 **フレール爪がスムーズに揺動するか確認します。**

取扱上の注意

- 揺動しない場合は、フレール座やフレール爪に詰まった草、ゴミなどを除去してください。

■フレール爪の入替え

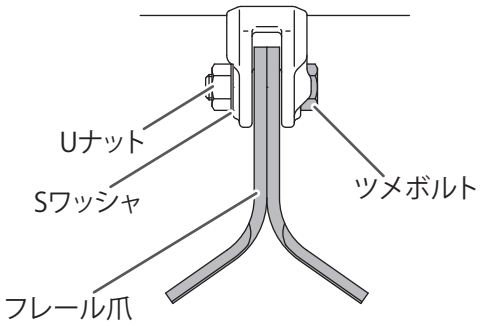
フレール爪は両刃になっています。

片方が摩耗した場合も入替えてもう片方が使用できます。

すべてのフレール爪を同様に前後の入替えを行います。

取扱上の注意

- 1 セット（2 本）ずつ入替え作業をしてください。
- フレール爪締付け時は、75 ～ 90 N•m の締付けトルクの範囲で、フレール爪が揺動するように締付けてください。



1 U ナットと S ワッシャを取外します。

2 フレール爪とツメボルトを取外します。

3 摩耗した刃が後方になるように、前後を入替えます。

4 ツメボルトを右側から差込み、ボルトの六角頭をフレール座の回り止めで固定します。

5 左側から U ナットと S ワッシャで固定します。

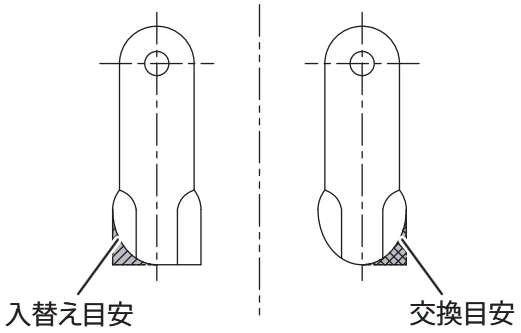
■フレール爪の交換

両刃とも摩耗したフレール爪は新品と交換します。交換時は、フレール爪•ツメボルト•U ナット•S ワッシャすべてを新品に交換します。

取扱上の注意

- 必ず純正部品を使用してください。
- フレール爪締付け時は、75 ～ 90 N•m の締付けトルクの範囲で、フレール爪が揺動するように締付けてください。

部品名	部品コード	数量
フレール爪	48840	48
ツメボルト	7970407	24
U ナット	9290021	24
S ワッシャ	9210012	24



空転による動作確認（ワンウェイクラッチ機能）

以下を確認してください。

- 空転させ、各部から異音、異常振動などの異常がない。
- PTO 回転数 540 rpm（1 速・正転）から動力を切断し、爪軸の慣性力による押出しが発生しない。
- ワンウェイクラッチ機能により 10 秒以上フレール軸が回転する。
- ワンウェイクラッチ機能動作中は音が鳴り続ける。

スローブローヒューズ

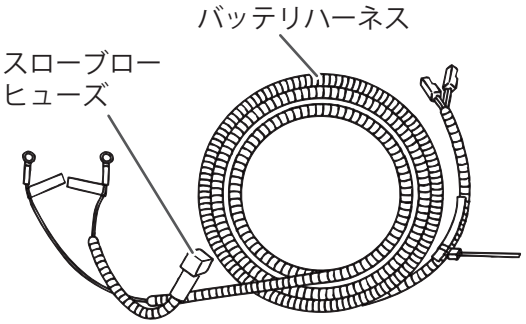
スローブローヒューズは、ショートした場合に配線を保護するためのものです。

もし切れた場合は、速やかにお買い求めの販売店に相談し、切れた原因の確認と処置を行ってください。

交換するときは、必ず純正部品を使用してください。

部品名	品目コード
スローブローヒューズ　規格 60A	7662494

- ヒューズの交換は、必ずエンジンを停止し、コントローラの電源を切った上で行ってください。
- 交換後は元どおりにカバーを閉じてください。



- トラクタの外部電源に接続してショートした場合、トラクタ側のヒューズ交換が必要です。
  お買い求めの販売店にお問い合わせください。

コントローラの動作確認

⚠注 意

必ず実行

オフセット・傾斜操作は、必ず作業機をトラクタに取付け、キャスタスタンドを取外した状態で行ってください。

＊ 事故・ケガや作業機の損傷につながる恐れがあります。

必ず実行

オフセット・傾斜操作は、トラクタを停車させ周囲の安全を確認してから行ってください。

＊ 事故・ケガや作業機の損傷につながる恐れがあります。

1 **コントローラの電源を「ON」にし、ブザー音を確認します。**

2 **ジョイスティックを操作し、作業部のオフセット・傾斜動作を確認します。**

作業機の水洗い

作業後には、作業機を水洗いし、ゴミや汚れを取除きます。水洗いが終了後、水分を拭き取ってください。

高圧洗車機を使って水洗いする場合は、十分注意してください。

高圧洗車機の使用方法を誤ると、人をケガさせたり、作業機を破損・損傷・故障させたりすることがあります。高圧洗車機の『取扱説明書』やラベルに従って、正しく使用してください。

⚠注 意

必ず実行

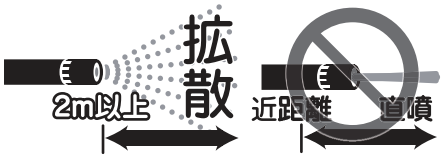
高圧洗車機で水洗いする場合

作業機を損傷させないように洗車ノズルは拡散にし、2 m 以上離して洗車してください。

＊ 直射や不適切に近距離から洗車すると作業機の破損・損傷・故障や事故つながる恐れがあります。

例）

- 電気配線被覆の損傷・断線によるショート・火災の発生
- シール・ラベルの剥がれ
- 電子部品などへの水侵入による故障
- 樹脂類（カバーなど）の破損
- 塗装・メッキ皮膜の剥がれ

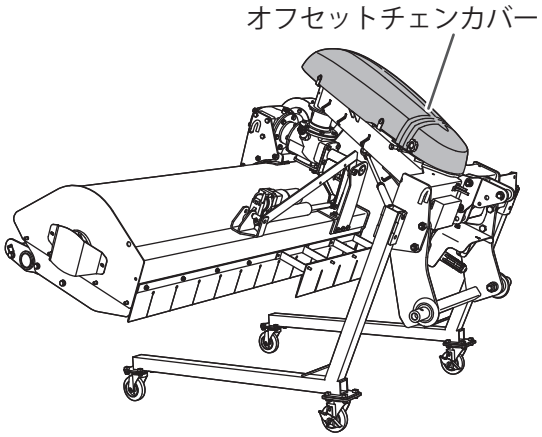


取扱上の注意

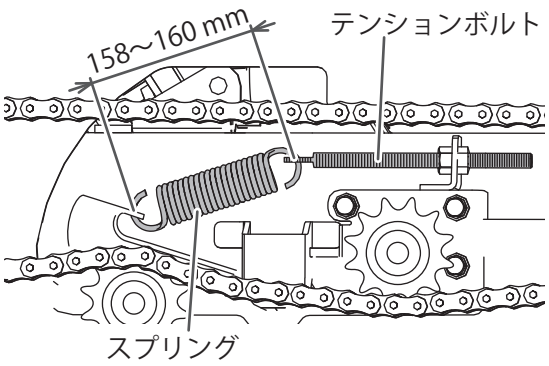
- コントローラ、制御ボックス、ハーネス、コネクタは非防水のため、洗車機に入れたり、流水で洗ったりしないでください。

チェンの張り調整（テンションボルトの調整）

1 オフセットチェンカバーを外します。



2 チェンの張りをテンションボルトでスプリング長さ（フック内 - 内）を 158 ～ 160 mm に調整します。



V ベルトの張り調整（テンションボルトの調整）

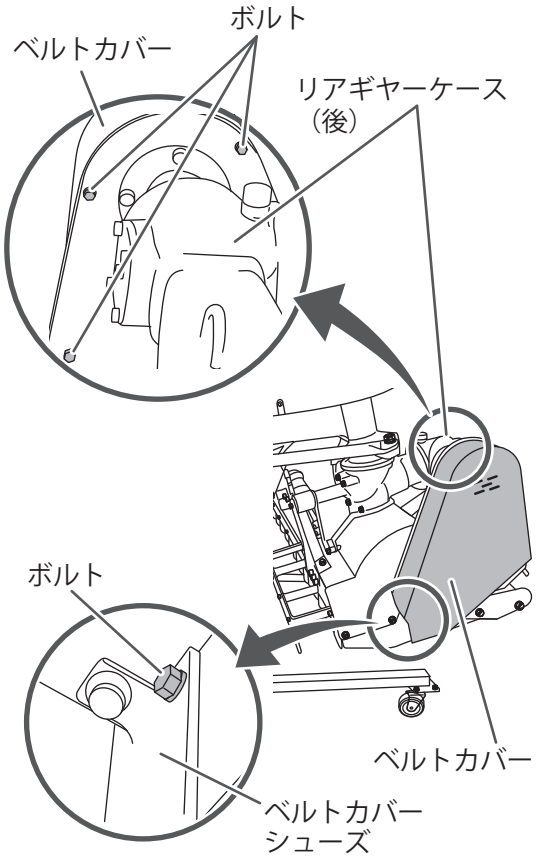
⚠注 意

必ず実行

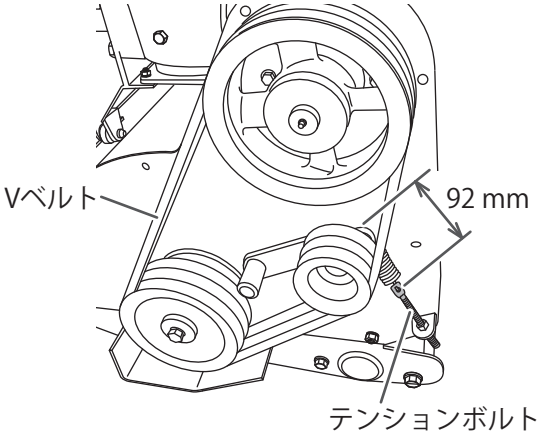
ベルトカバーや、リヤーギヤーケースが高温の場合は、冷めてから作業してください。

＊ 火傷する恐れがあります。

1 ベルトカバーを固定しているボルト（4 本）を外し、ベルトカバーを取外します。



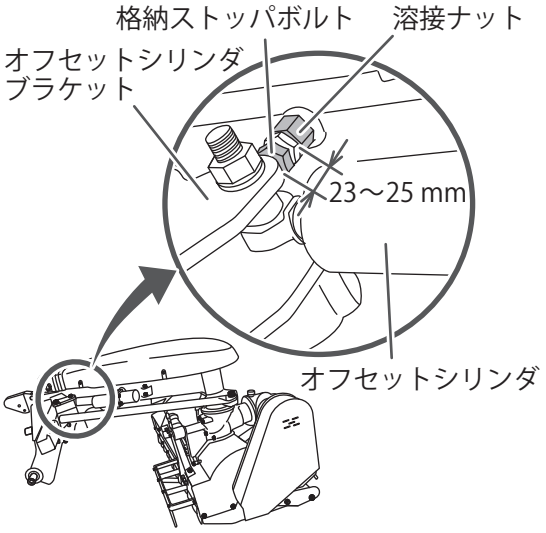
2 V ベルトの張りをテンションボルトでスプリング長さ（フック内 - 内）を 92 mm に調整します。



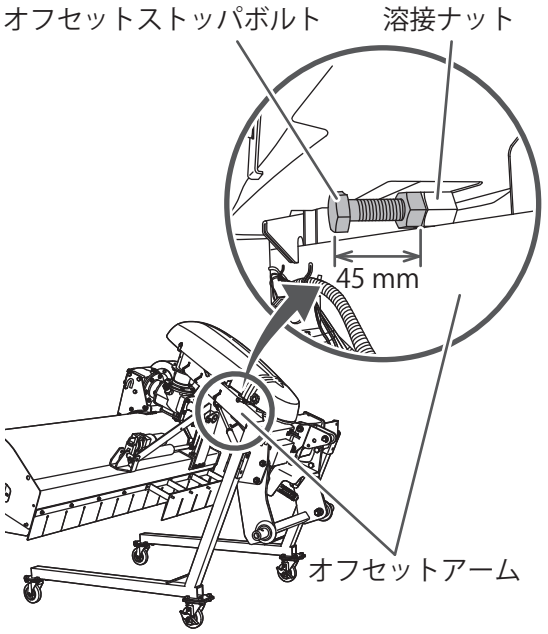
各ストッパボルトの長さ調整

1 各ストッパボルト頭端部から溶接ナット頭端部までの長さを調整します。

＜格納ストッパボルト＞



＜オフセットストッパボルト＞



無塗装部へのサビ止め

電動油圧シリンダやガススプリングのロッド部（銀色部）の汚れ除去は、サビ止めのためのグリスを塗布してください。

取扱上の注意

- グリスはエピノックグリース AP(N)2（ENEOS（株））または同等品（リチウムグリース）を使用してください。

警告表示ラベルの点検

「警告表示ラベルと機番プレート」（→ p.12）に従って、警告表示ラベルを点検してください。

- 損傷や破損していないか
- 汚れていないか
- 剥がれていないか

異常が見つかった場合、新しいものと交換してください。

オイルシールの組替え

整備などの目的でギヤーケースなどを分解する場合は、必ず新しいオイルシール、パッキン、液状ガスケットと交換してください。

新しいオイルシール、パッキン、液状ガスケットに交換しないと、オイル漏れの原因になります。

液状ガスケットは、スリーボンド 1208 相当品を使用してください。

消耗品の早期交換

「消耗品一覧」（→ p.66）に記載の消耗品を点検してください。

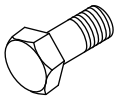
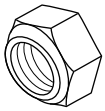
必要に応じて、新しいものと交換してください。

早期の交換をお勧めします。

消耗品一覧

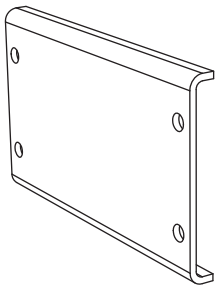
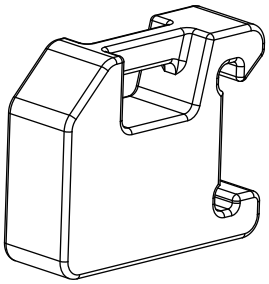
消耗部品は早めの交換をお勧めします。

当社では、お客様にご迷惑が掛からないよう消耗部品を用意しておりますが、シーズンによっては特定の部品が品薄になる場合があります。シーズン到来前の準備として、消耗部品の事前確認をして、早めの交換をお勧めします。

	部品名	ローラチェン	部品コード	9440273	1 台分個数	1
	備考					
	部品名	V ベルト	単品コード	9575070	1 台分個数	3
	備考	バンドー化学：レッド V ベルト　B-53 三ツ星ベルト：レッド V ベルト　B-53				
	部品名	フレール爪	単品コード	48840	1 台分個数	48
	備考	1 台分（48 本セット）で、フレール爪セットコード 5777S フレール爪を交換する場合は、必ずすべてのフレール爪を交換してください。				
	部品名	ツメボルト	単品コード	7680127	1 台分個数	24
	備考	ツメボルトは必ずコバシ純正品を使用してください。				
	部品名	U ナット	単品コード	9290021	1 台分個数	24
	備考	U ナットは必ずコバシ純正品を使用してください。				
	部品名	S ワッシャ	単品コード	9210012	1 台分個数	24
	備考	S ワッシャは必ずコバシ純正品を使用してください。				

オプション一覧

この作業機には以下のオプションがあります。
別途購入が必要のため、お買い求めの販売店にご相談ください。

部品名	部品コード	仕様
ウエイトトリツケキット 	7550083	マッチングバランスが改善できます。 「フロントウエイト・サイドウエイト装着表」（→ p.83）を参照またはお買い求めの販売店にご相談ください。 • ウエイトは付属されていません。必要数量を確認の上、購入してください。
ウエイト 	6431058	マッチングバランスが改善できます。 「フロントウエイト・サイドウエイト装着表」（→ p.83）を参照またはお買い求めの販売店にご相談ください。 • ウエイトトリツケキットは付属されていません。必要数量を確認の上、購入してください。

格納・運搬・保管

格納・運搬・保管するときは、作業機をきれいに清掃し、塗装できない箇所はサビ止めのためにグリスを塗ってください。

注意事項

⚠警 告

必ず実行

キャスタスタンドで作業機を移動する場合は、サイドウエイトを取外してください。

＊ 作業機が転倒し、事故・ケガにつながる恐れがあります。

⚠注 意

禁止

作業機を左右方向に移動させないでください。

＊ 作業機が転倒し、事故・ケガにつながる恐れがあります。

必ず実行

キャスタスタンドで作業機を移動する場合は、平坦な広い場所で周囲に人がいないことを確認してください。

＊ 作業機が転倒し、事故・ケガにつながる恐れがあります。

必ず実行

キャスタおよびキャスタスタンドが損傷している場合は、直ちに修理・交換を行ってください。

＊ 作業機が転倒し、事故・ケガにつながる恐れがあります。

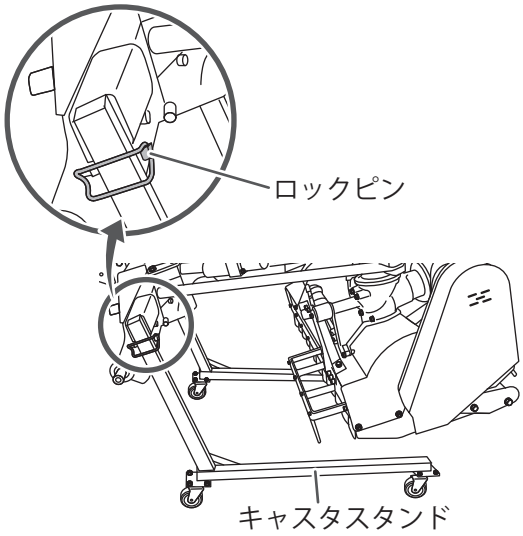
必ず実行

格納後は、みだりに子供などが触れないような処置をしてください。

＊ 事故・ケガにつながる恐れがあります。

取扱上の注意

- キャスタスタンドは、圃場内での使用や、圃場内への放置はしないでください。泥の侵入により回動しにくくなることがあります。また、泥が侵入して回動しにくくなった場合は、よく洗浄してグリスを塗布してください。
- キャスタスタンドを装着した状態で運搬はしないでください。破損の原因になります。やむを得ず、運搬する場合は、フレール軸やゲージローラを台などに乗せ、固定してキャスタに負担がかからないようにしてください。



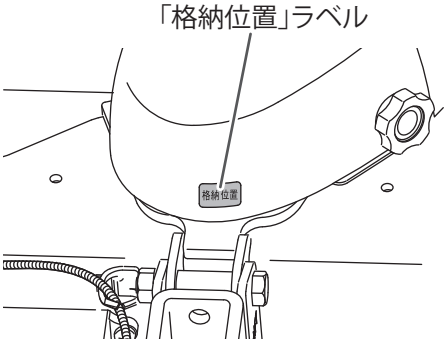
保管・格納

保管・格納するときは、作業機をきれいに清掃し、塗装できない箇所はサビ止めのためのグリスを塗ってください。（「作業機の水洗い」（→ p.63）、「無塗装部へのサビ止め」（→ p.65））

保管・格納場所は、雨や風があたらない、平らで硬いところを選んでください。

作業手順

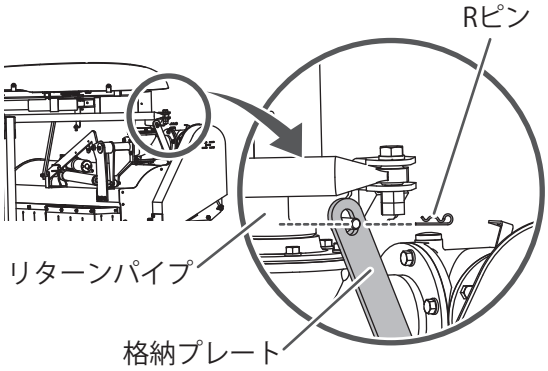
1 コントローラを操作し、作業機を格納位置にします。



取扱上の注意

- 「格納位置」ラベルが上図の位置にない場合は、「トラクタへの装着」（→ p.23）の手順**1**を参照してください。

2 格納プレートを格納位置に動かし、リターンパイプに R ピンで固定します。
格納プレートの取付けは傾斜シリンダの長さで調整します。

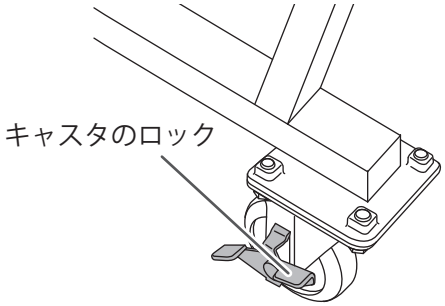


取扱上の注意

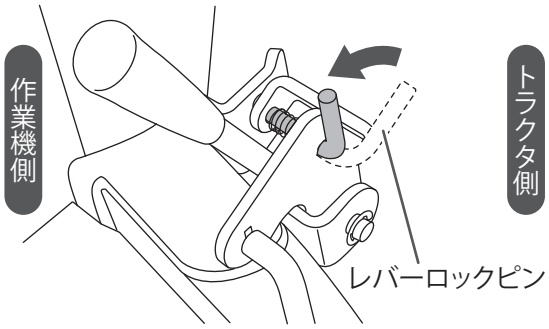
- 格納時は必ず格納プレートを格納位置に取付け、ピン・R ピンで固定して平坦な場所に保管してください。傾斜シリンダのロッドが縮む場合があります。

3 作業機を、平坦で地盤が強い屋内に保管します。

4 移動が完了したら、キャスタをロックします。

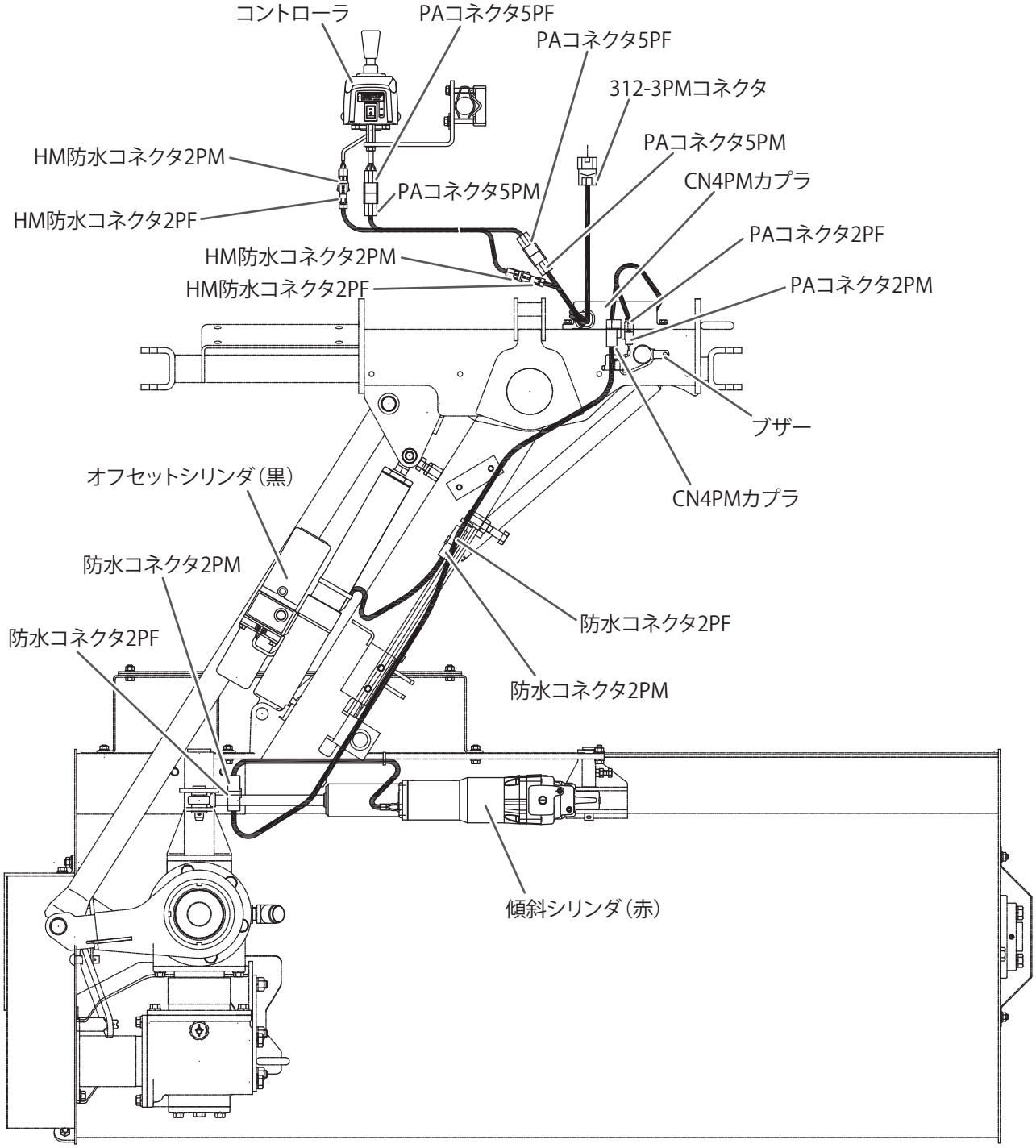


5 オートヒッチアームを作業機に取付けて保管する場合は、レバーロックピンを操作してレバーをロックします。



電気配線図

ここでは電気配線について記載しています。



主要諸元

ここでは各型式の主要諸元を紹介します。

型式		OMF151T-0S	OMF151T-4S	OMF151T-4SD	OMF151-1S
機体寸法	全長（mm）	1745	1930		
	全幅（mm）	1675			
	全高（mm）	1455			
機体質量（kg）		361	397	402	379
適応トラクタ	（kW）	24.3 ～ 44.1 *	24.3 ～ 36.8 *	27.2 ～ 44.1 *	24.3 ～ 44.1 *
	（PS）	33 ～ 60 *	33 ～ 50 *	37 ～ 60 *	33 ～ 60 *
標準刈幅（cm）		150			
標準刈高（cm）		2 ～ 12			
標準作業速度（km/h）		2.0 ～ 5.0			
作業能率（分 /10a）		11 ～ 27			
駆動方法		チェン駆動 ＋ サイドドライブ　V ベルト駆動			
入力軸回転速度（rpm）		540			
作業機回転速度（rpm）		2000			
耕うん爪	取付け方法	フレールタイプ			
	種類 / 本数	フレール爪 / 48			
	回転外径（cm）	40			
装着方法		JIS 標準 3P Ⅰ形 0S	JIS 標準 3P Ⅰ形 4S	JIS 標準 3P Ⅰ形 4S	JIS 標準 3P Ⅰ形 直装
刈高さ調節		後方ゲージローラ			
オフセット方法 / 最大オフセット量（mm）		電動無段階オフセット平行リンク機構 / 右方向 2240			
傾斜方法 / 最大傾斜角度（°）		電動無段階傾斜機構 / 上方 70 ～下方 55			

※ この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。
※ 機体質量は、キャスタスタンド（24 kg）を含みます。
＊ 適応トラクタは、キャビン付きで重量 1600 kg 以上のトラクタに限ります。

トラクタ別装着表

この表はあくまで装着表であり、トラクタ適応馬力を示すものではありません。トラクタ適応馬力の範囲内で使用してください。また、トラクタ別装着表にお客様のトラクタ型式が載っていない場合は、お買い求めの販売店へお問い合わせください。

⚠危 険

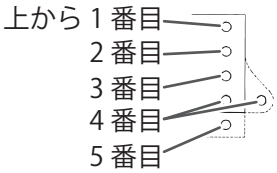
禁止	**キャビンのないトラクタには装着しないでください。この作業機はキャビン付きトラクタ専用です。** ＊ 事故・大ケガ・故障につながる恐れがあります。

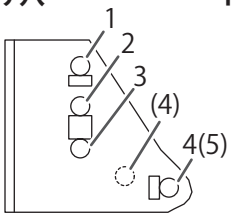
⚠注 意

必ず実行	**装着表記載の寸法からトップリンク長などを変更する場合は、作業機を上下させてジョイントの抜け・突きがないことを十分確認してから作業を行ってください。** ＊ ケガ・破損につながる恐れがあります。
必ず実行	**ジョイントの抜け・突きがある場合は、ジョイントの切断・交換をしてから作業を行ってください。** ＊ ケガ・破損につながる恐れがあります。

S ヒッチ（T-4S）

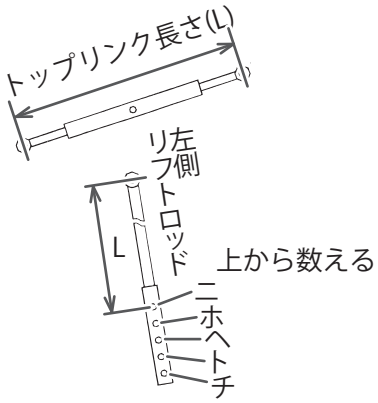
トップリンク取付け穴



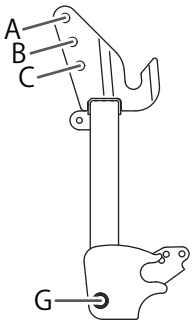


GA(K)(41PS～)
GM(45PS～)
GX(K)
GX-8(MT-8)

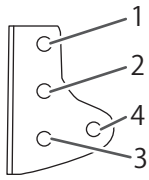
トップリンク・リフトロッド調整



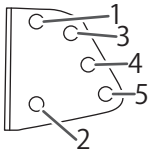
作業機側



ドラフトなし仕様

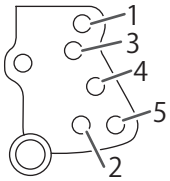


SL(～35PS)
KL(～34PS)



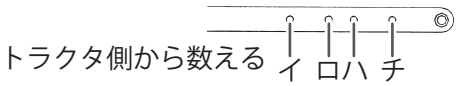
SL(38PS～)
KL(36PS～)

ドラフト仕様



SL(ドラフト仕様)
KL(ドラフト仕様)

ロアリンク取付け穴



■株式会社クボタ

トラクタ型式	トラクタ部の調整				作業機側		ジョイント切断寸法(mm)	備　考
	トップリンク取付け穴	ロアリンク取付け穴	リフトロッド取付け穴	トップリンク長さ(mm)	トップリンク取付け穴	ヒッチピン取付け穴	T-4S / TC71M	
SL350 SL33L	2	イ	ヘ	710	C	G		ジョイント異音時 PTO 切
SL350PC SL33LPC	4	ロ	ヘ	660	A	G	TC84M に交換	
SL350PC（ドラフト）	5	ロ	ト	630	A	G	TC84M に交換	
SL380・410・450	5	イ	ヘ	680	A	G		
SL380PC・410PC・450PC	5	イ	ヘ	670	A	G		
SL480	5	イ	ホ	710	A	G		
SL480PC	5	イ	ホ	690	A	G		

■ヤンマーホールディングス株式会社

トラクタ型式	トラクタ部の調整				作業機側		ジョイント切断寸法(mm)	備　考
	トップリンク取付け穴	ロアリンク取付け穴	リフトロッド取付け穴	トップリンク長さ(mm)	トップリンク取付け穴	ヒッチピン取付け穴	T-4S / TC71M	
YT333A	3	イ	ホ	610	A	G		
YT333AD	3	イ	ホ	580	A	G		
YT338A・345A	3	イ	ホ	620	A	G		
YT338AD・345AD	3	イ	ホ	570	A	G		

■井関農機株式会社

トラクタ型式	トラクタ部の調整				作業機側		ジョイント切断寸法(mm)	備　考
	トップリンク取付け穴	ロアリンク取付け穴	リフトロッド取付け穴	トップリンク長さ(mm)	トップリンク取付け穴	ヒッチピン取付け穴	T-4S / TC71M	
NTA335(L)・365 NT335・365(L)	3	イ	ホ	580	A	G		牧草 PTO モード 使用のこと
NTA335C(L)・365C NT335C・365C(L)	3	イ	ホ	560	A	G		牧草 PTO モード 使用のこと
NTA435・465・505 NT435・465・505	4	イ	ホ	660	A	G		牧草 PTO モード 使用のこと
NTA435C・465C・505C NT465C・505C	4	イ	ホ	640	A	G		牧草 PTO モード 使用のこと

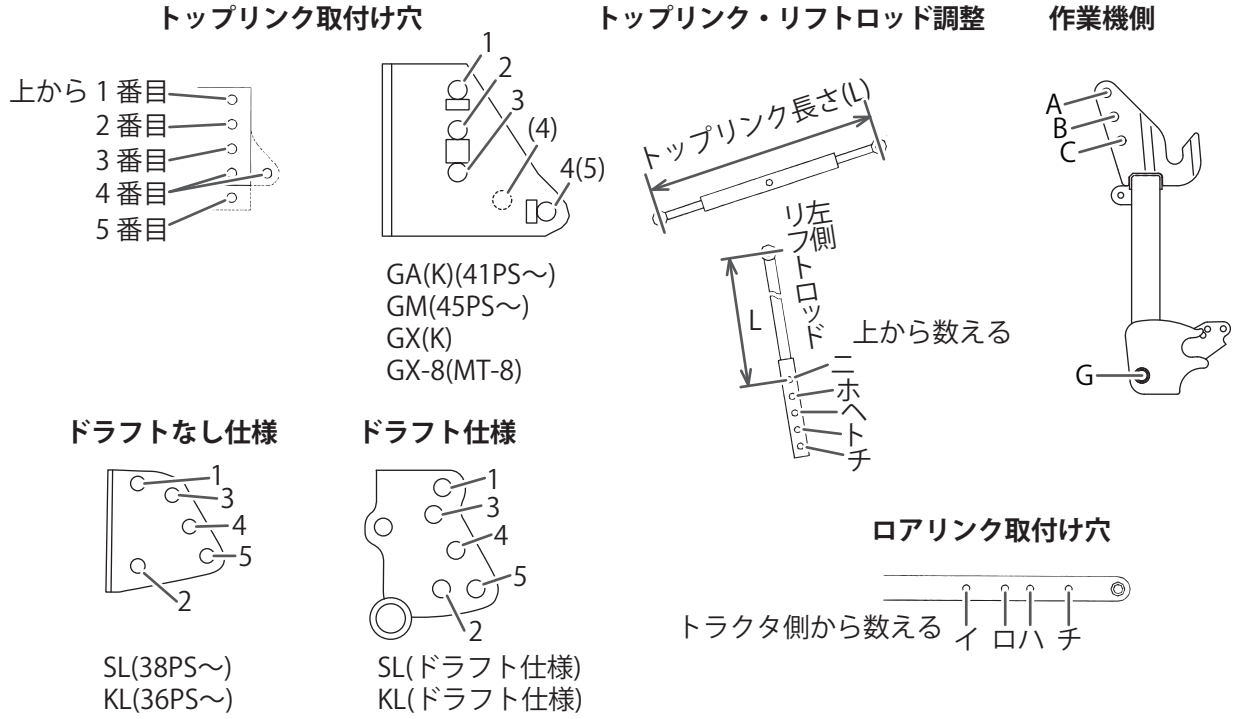
■三菱マヒンドラ農機株式会社

トラクタ型式	トラクタ部の調整				作業機側		ジョイント切断寸法(mm)	備　考
	トップリンク取付け穴	ロアリンク取付け穴	リフトロッド取付け穴	トップリンク長さ(mm)	トップリンク取付け穴	ヒッチピン取付け穴	T-4S / TC71M	
GA331・361	-	-	-	-	-	-		左右バランス不足のため適応不可
GAK331・361	2	イ	ヘ	650	A	G	TC74M に交換	
GA451・501	3	イ	ニ	650	A	G	TC74M に交換	
GAK451・501	3	イ	ホ	630	A	G	TC74M に交換	
GM331・361	-	-	-	-	-	-		左右バランス不足のため適応不可
GM451・501	4 (5)	イ	ニ	520	A	G		トップリンク穴は 4 つ穴の場合…4 5 つ穴の場合…5

■その他

トラクタ型式	トラクタ部の調整				作業機側		ジョイント切断寸法(mm)	備　考
	トップリンク取付け穴	ロアリンク取付け穴	リフトロッド取付け穴	トップリンク長さ(mm)	トップリンク取付け穴	ヒッチピン取付け穴	T-4S / TC71M	
T2.450	5	イ	ヘ	680	A	G		クボタ OEM SL450

S ヒッチ（T-4SD）



■株式会社クボタ

トラクタ型式	トラクタ部の調整				作業機側		ジョイント切断寸法 (mm)	備　考
	トップリンク取付け穴	ロアリンク取付け穴	リフトロッド取付け穴	トップリンク長さ (mm)	トップリンク取付け穴	ヒッチピン取付け穴	T-4SD / KHC79M	
SL380・410・450	5	イ	ヘ	680	A	G		
SL380PC・410PC・450PC	5	イ	ヘ	670	A	G		
SL480・540・600	5	イ	ホ	710	A	G		
SL480PC・540PC・600PC	5	イ	ホ	690	A	G		

■ヤンマーホールディングス株式会社

トラクタ型式	トラクタ部の調整				作業機側		ジョイント切断寸法 (mm)	備　考
	トップリンク取付け穴	ロアリンク取付け穴	リフトロッド取付け穴	トップリンク長さ (mm)	トップリンク取付け穴	ヒッチピン取付け穴	T-4SD / KHC79M	
YT338A・345A・352A・357A	3	イ	ホ	620	A	G		
YT338AD・345AD・357AD	3	イ	ホ	570	A	G	50	

■井関農機株式会社

トラクタ型式	トラクタ部の調整				作業機側		ジョイント切断寸法(mm)	備　考
	トップリンク取付け穴	ロアリンク取付け穴	リフトロッド取付け穴	トップリンク長さ(mm)	トップリンク取付け穴	ヒッチピン取付け穴	T-4SD / KHC79M	
NTA435・465・505・555・605 NT435・465・505・555・605(E)	4	イ	ホ	660	A	G	30	牧草 PTO モード使用のこと
NTA435C・465C・505C・555C・605C NT465C・505C・555C・605C(E)	4	イ	ホ	640	A	G	30	牧草 PTO モード使用のこと

■三菱マヒンドラ農機株式会社

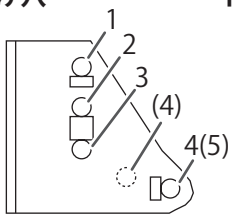
トラクタ型式	トラクタ部の調整				作業機側		ジョイント切断寸法(mm)	備　考
	トップリンク取付け穴	ロアリンク取付け穴	リフトロッド取付け穴	トップリンク長さ(mm)	トップリンク取付け穴	ヒッチピン取付け穴	T-4SD / KHC79M	
GA451・501・551	3	イ	ニ	650	A	G		
GAK451・501・551	3	イ	ホ	630	A	G		
GM451・501・551	4 (5)	イ	ニ	520	A	G	70	トップリンク穴は 4 つ穴の場合…4 5 つ穴の場合…5

■その他

トラクタ型式	トラクタ部の調整				作業機側		ジョイント切断寸法(mm)	備　考
	トップリンク取付け穴	ロアリンク取付け穴	リフトロッド取付け穴	トップリンク長さ(mm)	トップリンク取付け穴	ヒッチピン取付け穴	T-4SD / KHC79M	
T2.450	5	イ	ヘ	680	A	G		クボタ OEM SL450
T2.540	5	イ	ホ	710	A	G		クボタ OEM SL540

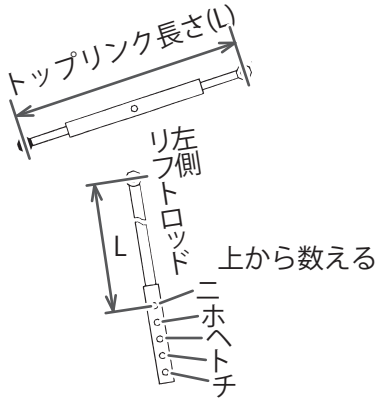
標準 3P 直装（-1S）

トップリンク取付け穴

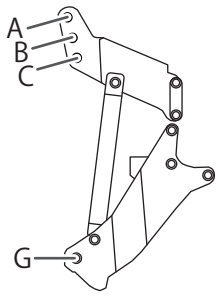


GA(K)(41PS～)
GM(45PS～)
GX(K)
GX-8(MT-8)

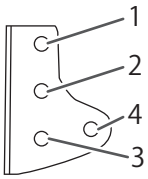
トップリンク・リフトロッド調整

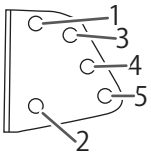


作業機側



ドラフトなし仕様

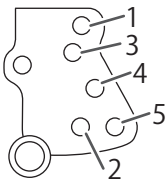




SL(～35PS)
KL(～34PS)

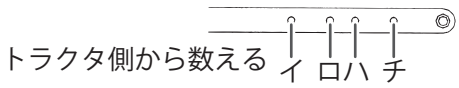
SL(38PS～)
KL(36PS～)

ドラフト仕様



SL(ドラフト仕様)
KL(ドラフト仕様)

ロアリンク取付け穴



■株式会社クボタ

トラクタ型式	トラクタ部の調整				作業機側		ジョイント切断寸法 (mm)	備　考
	トップリンク取付け穴	ロアリンク取付け穴	リフトロッド取付け穴	トップリンク長さ (mm)	トップリンク取付け穴	ヒッチピン取付け穴	-1S / TC69	
SL350 SL33L	2	イ	へ	710	C	G		ジョイント異音時 PTO 切
SL350PC SL33LPC	4	ロ	へ	660	A	G	TC74 に交換	
SL350PC（ドラフト）	5	ロ	ト	630	A	G	TC74 に交換	
SL380・410・450	5	イ	へ	680	A	G		
SL380PC・410PC・450PC	5	イ	へ	670	A	G		
SL480・540・600	5	イ	ホ	710	A	G		
SL480PC・540PC・600PC	5	イ	ホ	690	A	G		

■ヤンマーホールディングス株式会社

トラクタ型式	トラクタ部の調整				作業機側		ジョイント切断寸法(mm)	備　考
	トップリンク取付け穴	ロアリンク取付け穴	リフトロッド取付け穴	トップリンク長さ(mm)	トップリンク取付け穴	ヒッチピン取付け穴	-1S TC69	
YT333A	3	イ	ホ	610	A	G		
YT333AD	3	イ	ホ	580	A	G		
YT338A・345A・352A・357A	3	イ	ホ	620	A	G		
YT338AD・345AD・357AD	3	イ	ホ	570	A	G		

■井関農機株式会社

トラクタ型式	トラクタ部の調整				作業機側		ジョイント切断寸法(mm)	備　考
	トップリンク取付け穴	ロアリンク取付け穴	リフトロッド取付け穴	トップリンク長さ(mm)	トップリンク取付け穴	ヒッチピン取付け穴	-1S TC69	
NTA335(L)・365 NT335・365(L)	3	イ	ホ	580	A	G		牧草 PTO モード使用のこと
NTA335C(L)・365C NT335C・365C(L)	3	イ	ホ	560	A	G		牧草 PTO モード使用のこと
NTA435・465・505・555・605 NT435・465・505・555・605(E)	4	イ	ホ	660	A	G		牧草 PTO モード使用のこと
NTA435C・465C・505C・555C・605C NT465C・505C・555C・605C(E)	4	イ	ホ	640	A	G		牧草 PTO モード使用のこと

■三菱マヒンドラ農機株式会社

トラクタ型式	トラクタ部の調整				作業機側		ジョイント切断寸法(mm)	備　考
	トップリンク取付け穴	ロアリンク取付け穴	リフトロッド取付け穴	トップリンク長さ(mm)	トップリンク取付け穴	ヒッチピン取付け穴	-1S TC69	
GA331・361	-	-	-	-	-	-		左右バランス不足のため適応不可
GAK331・361	2	イ	ヘ	650	A	G	TC74 に交換	
GA451・501・551	3	イ	ニ	650	A	G	TC74 に交換	
GAK451・501・551	3	イ	ホ	630	A	G	TC74 に交換	
GM331・361	-	-	-	-	-	-		左右バランス不足のため適応不可

トラクタ型式	トラクタ部の調整				作業機側		ジョイント切断寸法(mm)	備　考
	トップリンク取付け穴	ロアリンク取付け穴	リフトロッド取付け穴	トップリンク長さ(mm)	トップリンク取付け穴	ヒッチピン取付け穴	-1S / TC69	
GM451・501・551	4 (5)	イ	ニ	520	A	G		トップリンク穴は 4 つ穴の場合…4 5 つ穴の場合…5

■その他

トラクタ型式	トラクタ部の調整				作業機側		ジョイント切断寸法(mm)	備　考
	トップリンク取付け穴	ロアリンク取付け穴	リフトロッド取付け穴	トップリンク長さ(mm)	トップリンク取付け穴	ヒッチピン取付け穴	-1S / TC69	
T2.450	5	イ	ヘ	680	A	G		クボタ OEM SL450
T2.540	5	イ	ホ	710	A	G		クボタ OEM SL540

クボタ W3P 用トラクタ装着表

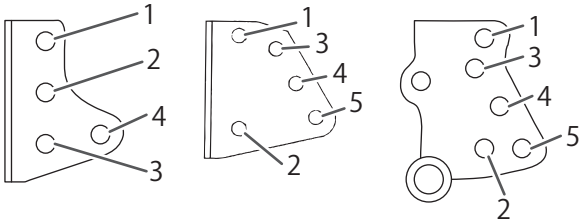
この表はあくまで装着表であり、トラクタ適応馬力を示すものではありません。トラクタ適応馬力の範囲内で使用してください。また、トラクタ別装着表にお客様のトラクタ型式が記載していない場合は、お買い求めの販売店へお問い合わせください。

⚠注 意	
必ず実行	**装着表記載の寸法からトップリンク長などを変更する場合は、作業機を上下させてジョイントの抜け・突きがないことを十分確認してから作業を行ってください。** ＊ ケガ・破損につながる恐れがあります。
必ず実行	**0S 規格の作業機を装着する場合は、作業機のガイドカラーとトップマストカラーを取外し、トラクタ付属の延長シャフトを作業機の入力軸に取付けてください。** ＊ ケガ・破損につながる恐れがあります。
必ず実行	**純正ロータリを装着する場合は、必ずジョイントホルダと 5P オート金具の位置を変更し、トップリンク長を正規寸法へ戻してください。** ＊ ケガ・破損につながる恐れがあります。

クボタ／ New Holland W3P Aフレーム（T-0S）

トップリンク取付け穴

ドラフトなし仕様　　**ドラフト仕様**

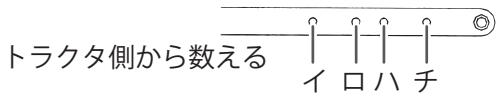


SL (～35PS)
T2.35

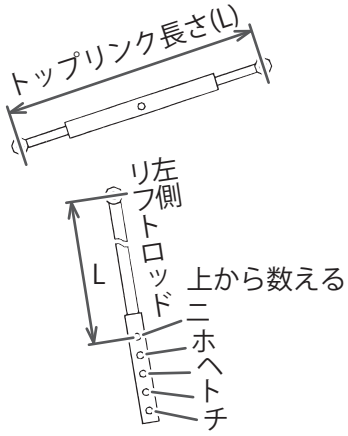
SL (38PS～)
T2.45

SL (ドラフト仕様)

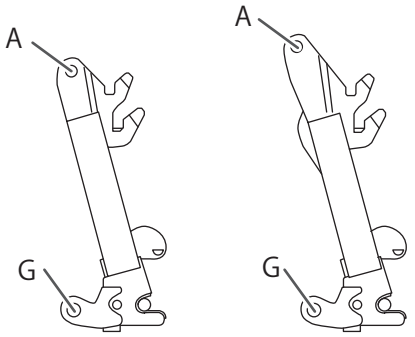
ロアリンク取付け穴



トップリンク・リフトロッド調整



作業機側



SL (～35PS)
T2.35

SL (38PS～)
T2.45

■株式会社クボタ

トラクタ型式	トラクタ部の調整				作業機側		純正ロータリトップリンク長さ(mm)	備　考
	トップリンク取付け穴	ロアリンク取付け穴	リフトロッド取付け穴	トップリンク長さ(mm)	トップリンク取付け穴	ヒッチピン取付け穴		
SL350 SL33L	4	イ	ニ	740	A	G	605	ジョイント異音時PTO切
SL350PC SL33LPC	4	ロ	ニ	730	A	G	600	
SL350PC（ドラフト）	5	イ	ニ	690	A	G	590	
SL380・410・450	5	イ	ニ	720	A	G	615	
SL380PC・410PC・450PC	5	イ	ニ	720	A	G	615	
SL480・540・600	5	イ	ニ	740	A	G	635	
SL480PC・540PC・600PC	5	イ	ニ	730	A	G	635	

■その他

トラクタ型式	トラクタ部の調整				作業機側		純正ロータリトップリンク長さ(mm)	備　考
	トップリンク取付け穴	ロアリンク取付け穴	リフトロッド取付け穴	トップリンク長さ(mm)	トップリンク取付け穴	ヒッチピン取付け穴		
T2.450	5	イ	ニ	720	A	G	615	クボタ OEM SL450
T2.540	5	イ	ニ	740	A	G	635	クボタ OEM SL540

ヤンマークイック用トラクタ装着表

この表はあくまで装着表であり、トラクタ適応馬力を示すものではありません。トラクタ適応馬力の範囲内で使用してください。また、トラクタ別装着表にお客様のトラクタ型式が記載していない場合は、お買い求めの販売店へお問い合わせください。

⚠注 意

必ず実行

装着表記載の寸法からトップリンク長などを変更する場合は、作業機を上下させてジョイントの抜け・突きがないことを十分確認してから作業を行ってください。

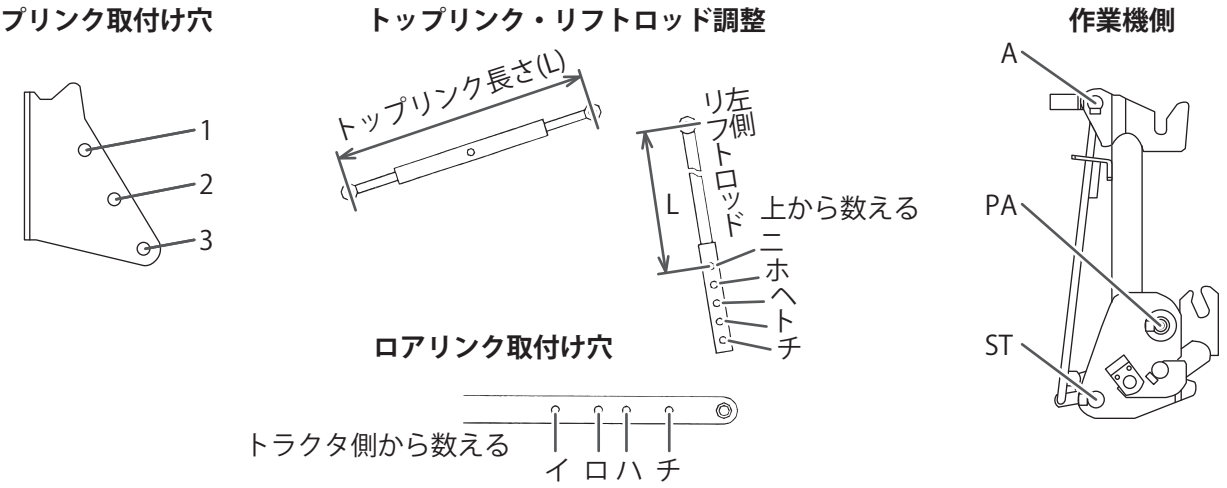
＊ ケガ・破損につながる恐れがあります。

必ず実行

純正ロータリを装着する場合は、必ずトップリンク長を正規寸法へ戻してください。

＊ ケガ・破損につながる恐れがあります。

ヤンマークイック（T-0S）



■ヤンマーホールディングス株式会社

トラクタ型式	トラクタ部の調整				作業機側		純正ロータリトップリンク長さ(mm)	備　考
	トップリンク取付け穴	ロアリンク取付け穴	リフトロッド取付け穴	トップリンク長さ(mm)	トップリンク取付け穴	ヒッチピン取付け穴		
YT333A	3	イ	ニ	470	A	PA	470	
YT333AD	3	イ	ニ	470	A	PA	470	
YT338A・345A・352A・357A	3	イ	ニ	500	A	PA	500	
YT338AD・345AD・357AD	3	イ	ニ	470	A	PA	470	

フロントウエイト・サイドウエイト装着表

このフロントウエイト・サイドウエイト装着表は、作業性能を発揮するための必要ウエイト量を示します。
作業機を装着して道路走行する際は、表示のウエイト以上に必要な場合があるため注意してください。
作業機を装着して道路走行する場合のウエイト量は下記ホームページより確認してください。
一般社団法人 日本農業機械工業会ホームページアドレス　http://www.jfmma.or.jp/

下表には作業性能に必要なフロントウエイト・サイドウエイト枚数を示しています。
トラクタメーカーによってはバランス基準が異なります。必ず下記の適正フロントウエイト・サイドウエイト重量を搭載してください。
トラクタ型式によっては、オプションウエイト台が必要になります。詳しくはお買い求めの販売店へお問い合わせください。

■株式会社クボタ

トラクタ型式	フロントウエイト / サイドウエイト必要枚数		
	W3P A フレーム（0S）	小橋 S ヒッチ（4S）	直装（1S）
SL350 ※注 1 SL33L	25 kg × 4(3) / 20 kg × 2	25 kg × 4(3) / 20 kg × 2	25 kg × 4(3) / 20 kg × 2
SL350PC ※注 1 SL33LPC	25 kg × 6(4) / 不要	25 kg × 6(4) / 不要	25 kg × 6(4) / 不要
SL380・410・450	不要 / 不要	不要 / 不要	不要 / 不要
SL380PC・410PC・450PC	不要 / 不要	不要 / 不要	不要 / 不要
SL480・540・600	不要 / 不要	不要 / 不要	不要 / 不要
SL480PC・540PC・600PC	不要 / 不要	不要 / 不要	不要 / 不要

※注 1　DDT 仕様の場合は、( ) 内のフロントウエイト数量が必要

■ヤンマーホールディングス株式会社

トラクタ型式	フロントウエイト / サイドウエイト必要枚数		
	ヤンマークイック（0S）	小橋 S ヒッチ（4S）	直装（1S）
YT333A	30 kg × 3 / 20 kg × 2	30 kg × 4 / 20 kg × 2	30 kg × 3 / 20 kg × 2
YT333AD	30 kg × 5 / 不要	30 kg × 5 / 不要	30 kg × 5 / 不要
YT338A・345A	30 kg × 1 / 20 kg × 2	30 kg × 1 / 20 kg × 2	30 kg × 1 / 20 kg × 2
YT338AD・345AD	30 kg × 3 / 不要	30 kg × 3 / 不要	30 kg × 3 / 不要
YT352A・357A	不要 / 20 kg × 2	不要 / 20 kg × 2	不要 / 20 kg × 2
YT357AD	30 kg × 2 / 不要	30 kg × 2 / 不要	30 kg × 2 / 不要

■井関農機株式会社

トラクタ型式	フロントウエイト / サイドウエイト必要枚数		
	PD ヒッチ（0S）	小橋 S ヒッチ（4S）	直装（1S）
NTA335(L)・365 NT335・365(L)	適応不可 ※注 2	25 kg × 3 / 20 kg × 2	25 kg × 3 / 20 kg × 2
NTA335C(L)・365C NT335C・365C(L)	適応不可 ※注 2	25 kg × 5 / 不要	25 kg × 5 / 不要
NTA435・465 NT435・465	適応不可 ※注 2	不要 / 不要	不要 / 不要
NTA505・555・605 NT505・555・605(E)	-	不要 / 不要	不要 / 不要
NTA435C・465C	適応不可 ※注 2	25 kg × 3 / 不要	25 kg × 3 / 不要
NT465C	適応不可 ※注 2	25 kg × 1 / 不要	不要 / 不要
NTA505C・555C・605C	-	不要 / 不要	不要 / 不要
NT505C・555C・605C(E)	-	25 kg × 1 / 不要	不要 / 不要

※注 2　PD ヒッチ強度不足のため、適応不可

■三菱マヒンドラ農機株式会社

トラクタ型式	フロントウエイト / サイドウエイト必要枚数			
	デュアルヒッチ（0S）	スーパーヒッチ（0S）	小橋 S ヒッチ（4S）	直装（1S）
GA331・361	適応不可 ※注 3	-	適応不可 ※注 3	適応不可 ※注 3
GAK331・361	-	-	30 kg × 3 / 不要	30 kg × 3 / 不要
GA451・501	-	適応不可 ※注 4	不要 / 不要	不要 / 不要
GAK451・501	-	適応不可 ※注 4	30 kg × 1 / 不要	30 kg × 1 / 不要
GA551	-	不要 / 不要	不要 / 不要	不要 / 不要
GAK551	-	不要 / 不要	30 kg × 1 / 不要	30 kg × 1 / 不要
GM331・361	適応不可 ※注 3	-	適応不可 ※注 3	適応不可 ※注 3
GM451・501	-	適応不可 ※注 4	不要 / 不要	不要 / 不要
GM551	-	不要 / 不要	不要 / 不要	不要 / 不要

※注 3　左右バランス不足のため、適応不可

※注 4　ジョイント強度不足のため、適応不可

異常診断一覧表

使用中あるいは使用後の点検時に下表の異常が発生した場合、そのままにしておきますと故障、事故の原因となります。

再使用せず、直ちに対策を行ってください。

本体各部	症　　状	原　　因	対　　策
ギヤーケース	異音の発生	ベアリングの損傷	ベアリングの交換
		ギヤーの損傷	ギヤーの交換
		ギヤーの噛み合い不良	シムで調節
	オイル漏れ	オイルシール、O リングの劣化、損傷	オイルシール、O リング交換
		ケース取付ボルトの緩み	ボルト増締め
		カバー取付けボルトの緩み	ボルト増締め
	異常な高温の発生	オイル量の不足	オイルの補給
		ベアリングの損傷	ベアリングの交換
チェンケース	異音の発生	チェンの伸びによるカバーとの干渉	テンションボルトの調節
		テンションプレートの破損	テンションプレートの交換
		スプロケットの損傷	スプロケットの交換
		ベアリングの損傷	ベアリングの交換
	異常な高温の発生	オイル切れ	注油
		ベアリングの損傷	ベアリングの交換
ベルトカバー	異音の発生	V ベルトの伸びによるカバーとの干渉	V ベルトの調節
		テンショナの損傷	テンショナの交換
		プーリの損傷	プーリの交換
		ベアリングの損傷	ベアリングの交換
		ワンウェイクラッチ・ピンの損傷	ワンウェイクラッチ・ピンの交換
		カバー取付けボルトの緩み	ボルト増締め
	異常な高温の発生	ベルトのスリップ	テンションボルトの調節 テンションプーリの交換
		ベアリングの損傷	ベアリングの交換
		ワンウェイクラッチのグリス切れ	グリスの注入

本体各部	症　　状	原　　因	対　　策
フレール軸	異音の発生	フレール爪と地面が干渉	刈高さの調整
		軸受け部のベアリングの損傷	ベアリングの交換
		フレール爪取付けボルトの緩み	ボルト増締め
		フレール爪の変形によるカバーとの干渉	フレール爪の交換
		ソクバンの変形によるフレール爪との干渉	ソクバンの交換
	振動の発生	フレール軸の曲がり	フレール軸の交換
		フレール爪、爪軸へのワラ、草などのかかり	ワラ、草などの除去
		フレール爪の配列不良	フレール爪配列の点検
	刈りムラの発生	フレール爪の摩耗、折損	フレール爪の交換
		フレール爪の配列不良	フレール爪配列の点検
		ゲージローラへのワラ、草などのかかり	ワラ、草などの除去
	軸回転不良	ギヤーの損傷	ギヤーの交換
		チェンの破断	チェンの交換
		V ベルトの破断	V ベルトの交換
		駆動軸の折損	駆動軸の交換
フレーム部	異音の発生	ピンのガタつき	押しボルトの調整
	オフセット動作不良	電動油圧シリンダの損傷、故障	電動油圧シリンダの交換
		支点部のグリス切れ	グリスの注入
		ガススプリングの損傷	ガススプリングの交換
		作業部の持ち上げ高さが高い	低い位置で操作
	傾斜動作不良	電動油圧シリンダの損傷、故障	電動油圧シリンダの交換
		支点部のグリス切れ	グリスの注入
	ゲージローラの回転不良	ゲージローラへのワラ、草などのかかり	ワラ、草などの除去
		ベアリングの損傷	ベアリングの交換
		スクレーパとの干渉	スクレーパの調整
		ゲージローラボス内部に異物が混入	異物の除去、グリスの注入
		グリス切れ	グリスの注入
ジョイント	異音の発生	ジョイント折れ角が不適格	マッチング姿勢の調整
		作業機の上げすぎ	リフト量の規制
		駆動軸の折損	駆動軸の交換
	たわみ発生	シャフトの噛み合い幅不足	長いものと交換
	スプライン部のガタ	ノックピンとヨークの摩耗	ノックピンとヨークの交換

本体各部	症　　状	原　　因	対　　策
電装関係	電源が入らない	バッテリハーネスのヒューズ切れ	ヒューズの交換 ※ヒューズ切れの原因追究を行ってください。
		ハーネスの断線（ショート）	ハーネスの交換
		バッテリ電圧の低下	電源（バッテリ）電圧が 10 V 以下の場合は、充電またはバッテリの交換
		トラクタ外部電源ハーネスの配線間違い	トラクタ『取扱説明書』を参照
		トラクタ外部電源のヒューズ切れ	キー連動電源を使用の場合、トラクタ『取扱説明書』を参照
		電源ハーネスの接続不良	正しい接続に修正
		電源カプラの接触不良、端子抜け	電源カプラをしっかり差込み、接触不良、端子抜けがないか確認
		電源ハーネスとバッテリの（＋）と（－）を間違えて取付けている	（＋）と（－）の接続を正しい接続に修正
		コバシ製以外の電源ハーネスを使用している	コバシ純正部品に交換
	操作中に動作が止まる	電源ハーネスとバッテリターミナルの接触部が汚れている	電源ハーネスとバッテリターミナルの接触部の清掃
		コントローラハーネスと制御ボックスコネクタの接触部が汚れている	コントローラハーネスと制御ボックスターミナルの清掃
		電源コネクタの接触不良、端子抜け	電源コネクタをしっかり差込み、接触不良、端子抜けがないか確認
		過電流を検知	作業部を低い位置で操作
			適切な電圧のバッテリに交換
			土の付着を除去
	操作ができない	コントローラ損傷	コントローラを交換
		制御ボックスの破損	制御ボックスを交換
		ハーネスの断線（ショート）	ハーネスの交換

廃棄について

廃棄物などの不適切な処理は、法律により処罰されることがあります。保守時に発生した廃棄物の処置は、適切な処理をしてください。

注意事項

この作業機やその保守時に発生する廃棄物の処分は、国、または地方行政の法令の規制対象となるものがあります。

廃棄する際は、国または地方行政の法令に従い産業廃棄物処理業者に依頼するなど適切な処理をしてください。

⚠注 意

必ず実行

この作業機やその保守時に発生した廃棄物を廃棄するときは、国または地方行政の法令に従ってください。

＊ 間違った廃棄を行うと、作業機からオイルが漏れ、川・海に流れだし汚染することがあります。

用語解説

ここでは用語について解説します。

お知らせ

- この取扱説明書に記載していない用語もあります。

オートヒッチ

トラクタに乗ったままワンタッチで作業機を装着できるヒッチ

3 点リンク

トラクタに作業機を装着するための 3 点で支持を行うリンク

ジョイント

トラクタの動力を作業機へ伝達するための軸

ポジションコントロールレバー

作業機を上げ下げするために使用するレバー

チェックチェン

トラクタに対し作業機が左右に振れる量を規制するチェン

トップリンク

作業機を装着する 3 点のリンクのうち、作業機の上部を吊り下げているリンク

揚　力

トラクタが作業機を上昇させるための力

リフトロッド

トラクタが作業機を上げるためロアリンクと連結しているロッド

ロアリンク

作業機を装着する 3 点リンクのうち、作業機の下部を吊り下げているリンクで、左右 1 本ずつある

ワンウェイクラッチ

一方向の回転だけを伝達するフリーホイールの一種

MEMO

MEMO

MEMO

KOBASHI

小橋工業株式会社

〒701-0292 岡山市南区中畦684

インターネットでも弊社の情報がご覧いただけます。

http://www.kobashiindustries.com

■北海道営業所	〒071-1248	北海道上川郡鷹栖町8線西2号6番	☎（0166）49-0070
■東北営業所	〒024-0004	岩手県北上市村崎野13地割35-1	☎（0197）71-1160
■関東営業所	〒321-3325	栃木県芳賀郡芳賀町芳賀台47-1	☎（028）687-1600
■岡山営業所	〒701-0165	岡山市北区大内田727	☎（086）250-1833
■九州営業所	〒861-2236	熊本県上益城郡益城町広崎1586-8 2F	☎（096）286-0202